

一 收入官吏ハ明治二十二年大藏省令第十一號舊式第四號ニ依リ收入報告書ヲ調製シ收入金月計對照表ヲ添ヘ翌月七日マテニ島田郡區長ヲ經テ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ
一 收入官吏ハ明治二十三年大藏省令第三號舊式第七號ニ據リ收入額收入未清額及缺損額報告書ヲ調製シ各納期後五十日以内ニ島田又ハ郡區長ヲ經テ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ

○ 沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件 二十二年十二月二十八日勅令第四百四十一號

朕沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百四十一號

沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ハ會計法實施後左ノ各條ノ外ハ從來ノ慣例ニ依ルヘシ

第一條 納稅人ハ稅金 沖繩縣酒類出港稅ヲ除ク 金庫ニ拂込ミ金庫ヨリ交付シタル別符附領收證ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

第二條 國稅品ハ納稅人ヨリ直ニ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 前條國稅品ハ會計法規ニ依リ收入官吏之ヲ取扱ヒ其實却代金ヲ領收シテ金庫ニ拂込ムヘシ但稅品ノ會計ハ本稅所屬ノ年度ニ依ル

○ 國稅事務取扱ノ件 二十二年五月八日勅令第六十三號

朕國稅事務取扱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十三號

明治二十二年七月一日以降各郡市役所所在地ニ府縣收稅部出張所ヲ設ケ收稅屬ヲシテ左ニ掲クル事項ヲ取扱ハシム

一 土地臺帳及地圖ニ關スル事項

一 國稅ヲ課スル諸營業鑑札下付ニ關スル事項

一 船車檢印ニ關スル事項

一 諸印紙賣下ニ關スル事項

一 市ノ國稅徵收ニ關スル事項

一 國稅徵收法第十一條第十二條中收入官吏ノ職務ニ關スル事項

○ 租稅檢査員ニ各派出所所在勤ヲ命セシム 二十二年四月十六日大藏省訓令第二十八號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

租稅檢査員ノ備來五月一日以降各派出所所在勤ヲ命スヘシ

○ 租稅檢査ニ付監督員ヲ廢シ課長ヲシテ監督ノ事務ヲ行ハシムル件 二十二年六月十八日大藏省訓令第四十三號

府縣沖繩縣ヲ除ク

租稅檢査ニ付特置ノ監督員ヲ廢シ自今課長ヲシテ監督ノ事務ヲ行ハシムヘシ

○ 島廳、郡區役所ニ於ケル印紙類、國稅ニ關スル鑑札ノ出納命令官及會計監督主任、會計官吏

第十一類 第一章 租稅徵收

充用方 二十二年十月四日
大藏省訓令第六十一號 北海道廳及島嶼アル府縣沖繩縣ヲ除ク

島嶼又ハ郡區役所ニ於テハ明治二十二年八月大藏省訓令第五十八號ノ印紙類竝ニ國稅ニ關スル證札ノ出納命令官及ヒ其會計監督主任ハ島司又ハ郡區長ヲ以テ之レニ充テ其會計官吏ハ屬若クハ郡區書記ヲ以テ之レニ充ツヘシ

○内國稅徵收費所屬經費ニ係ル官吏任命方 二十三年四月一日
大藏省訓令第五十五號 府縣

明治二十三年度以降内國稅徵收費所屬經費ニ係ル明治二十二年勅令第六十號會計規則第六十七條ノ検査官吏及第百條第一項第二項ノ場合ニ要スル官吏ハ仕擢命令被任者ニ於テ之ヲ命スルコトヲ得

○他廳ノ委託ヲ受ケ租稅ヲ徵收スルトキ其徵稅令書及納付書ニ捺印方 二十二年六月七日
大藏省訓令第三十九號 北海道廳 府縣
他廳ノ委託ヲ受ケテ租稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其徵稅令書及納付書ニ「某廳主管」ノ印ヲ押捺スヘシ

○市町村長ヲシテ國稅徵收セシムル法 二十二年三月十三日
勅令第三十三號

朕市町村長ヲシテ國稅ノ徵收ヲ爲サシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
勅令第三十三號

左ニ掲クル國稅ハ明治二十二年三月法律第九號國稅徵收法第三條第一項ニ依リ市町村之ヲ徵收スヘシ但菓子稅以下六項ハ臨時收入ニ係ルモノヲ除ク (二十三年二月二十五日勅令第三十七號ヲ以テ但書ヲ追加ス)

- 一 所得稅
- 一 酒造稅則附則自家用料酒鑑札料
- 一 菓子稅中製造稅、製造營業稅、卸賣營業稅、小賣營業稅

一 烟草稅中製造營業稅、仲買營業稅、小賣營業稅

一 賣藥稅中營業稅

一 船稅

一 車稅

一 牛馬賣買免許稅

一 銃獵免許稅

○市町村徵收ノ國稅ハ一人別徵稅元帳ヲ備置キ其手續ヲ爲サシム 二十二年五月二十四日
大藏省訓令第三十八號 府縣 (沖繩縣ヲ除ク)

明治二十二年三月勅令第三十三號ニ依リ市町村ヲシテ徵收セシムル國稅ハ市町村ニ於テ適宜一人別徵稅元帳ヲ備ヘ置之ニ據リ徵收ノ手續ヲ爲サシムヘシ
但所得稅菓子稅及ヒ臨時收入ノ諸稅ヲ除ク外一人別ノ賦稅積ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々市町村ヘ達スヘシ

○徵稅令書ヲ受ケタル納稅人期限内ニ分納方 二十二年四月二十四日
大藏省訓令第三十一號 府縣 (沖繩縣ヲ除ク)

本年三月法律第九號國稅徵收法第八條第二項ノ徵稅令書ヲ受タル納稅人若シ其納期限以内ニ於テ分納セントスルトキハ本年三月大藏省訓令第五號國稅徵收法施行細則第四條第四號様式ニ準シタル納付書ヲ添付シテ金庫ヘ納付シ其別符ノ切離及ヒ領收證ノ捺印ヲ收入官吏ニ請フコトヲ得

○税金分納ノトキ手續 二十三年五月十五日
大藏省訓令第八十四號 北海道廳府縣金庫出納役

明治二十二年四月當省訓令第三十一號ニ依リ各納稅人ヨリ税金ヲ分納スルトキハ右ニ關スル徵稅令書ヲ添付セシムヘシ
金庫ニ於テハ該令書ノ納期日ヲ認メ納期日以内ニアリテハ納付書ニ依リ現金ヲ領收シ該令書ハ納人ニ返付スヘシ
第十一類 第一章 租稅徵收 百四十一

○金庫局及國庫金出納所ニ雜部預入レノ各廳官吏取扱金整理順序中心得方
日大藏省訓令第一
七十三號北
海道廳府縣

本年三月大藏省訓令第二十六號第三條各廳ヘノ納入預納金ニシテ金庫ノ預リ證書ヲ未タ納入ヨリ差出サ、ル前ト雖モ各
廳ニ於テ金庫ノ通知書ヲ受入レアル分ハ其通知書ヲ同訓令第三條ノ引續手續ヲ以テ會計法規ニ據リ定ムル處ノ收入官
吏ヘ引續クヘキ儀ト心得ヘシ

但本年當省訓令第二十六號第三條中領收證書トアルハ預リ證書ノコト、知ルヘシ

○市町村徵收ノ國稅納期ヲ過キ督促令狀發付前ニ其滯納稅金上納ノトキ取扱方月二十三年三
大藏省訓令第四十三號北海道廳
府縣(沖繩縣ヲ除ク)金庫出納役

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニシテ納稅期限ヲ過キ市町村長ヨリ滯納報告以後督促令狀發付以前ニ於テ該滯納稅金ヲ上
納セントスル者アルトキハ甲號様式ノ納付書ヘシ號ノ如ク收入官吏ニ於テ裏書ヲ爲シ稅金ハ本人ヲシテ直ニ金庫ヘ納付
セシメ其領收證ノ檢印及ヒ別符ノ切離ヲ購ハシムヘシ

甲號 用紙適宜 縱四寸五分ノモノ二枚 橫三寸三分ノモノ一枚 接續

納付

第何號	經常租稅	住所	氏名
明治何年度	項	目	第何期分年
收入官吏官氏名扱			
收稅部何地出張所			
一金何程			

領收

第何號	經常租稅	住所	氏名
明治何年度	項	目	第何期分年
收入官吏官氏名扱			
收稅部何地出張所			
一金何程			
右領收候也			
明治何年何月何日			
何地金庫印			

第十一類 第一章 租稅徵收

收入官吏官氏名扱 收税部何地出張所

一金何程

明治何年何月何日何地金庫へ納付

收入官
出檢印

七號

收税部何地出張所

收入官吏官氏名承認

檢印

面

○納期後督促令狀發付前國稅ヲ上納セントスル者アルトキ取扱方 二十三年六月十四日 大藏省訓令第三百三號 北海

道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)金庫出納役

納税人ニ對シ直ニ徵稅令書ヲ發シ徵收スヘキ國稅ニシテ其令書ノ發付ヲ受ケ納期經過後督促令狀發付以前ニ於テ該税金ヲ上納セントスル者アルトキハ本年三月當省訓令第四十三號ニ號シ號式ニ倣ヒ收入官吏ニ於テ其徵稅令書へ裏書ヲ爲シ税金ハ本人ヲシテ直ニ金庫へ納付セシメ其領收證ノ檢印及別符ノ切離ヲ請ハシムヘシ

○國稅金ノ内金庫へ納付後其徵稅令書及納付書ノ誤記發見ノトキ訂正方 二十二年七月二日 大藏省訓令第五十號 縣府

國稅金ノ内金庫へ納付後ニ於テ其徵稅令書(記帳ノ年度科目上)ノ誤記ヲ發見スルトキハ府縣知事若クハ郡長ヨリ之カ訂正ヲ金庫へ照會スヘシ其納付書ノ誤記ニ係ルモノハ之ヲ納付セシ者ヨリ金庫へ訂正ヲ請求スヘシ

○戶長ニ於テ税金分納ノキ徵稅令書ヲ亡失シタル場合ニ於テ取扱方 十九年八月四日 大藏省訓令第三十七號

北海道廳 本銀行府縣

收入取扱順序第六十一條ニ據リ戶長ニ於テ税金ヲ分納スルトキ事故アリテ徵稅令書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ左ノ通取扱フヘシ

一 水火災盜難等ニ罹リ徵稅令書ヲ亡失シタルトキハ戶長ハ其事由ヲ具シテ郡區長ニ開申スヘシ

一 郡區長ハ前項ノ開申ヲ得ルトキハ未納殘額ヲ取調ヘ其殘額ノ徵稅令書ヲ發スヘシ

一 前項未納殘額ノ徵稅令書ハ金額ノ右側ニ左ノ如ク記載スヘシ

金何圓何錢ノ内未納殘

○徵稅額表及歳入報告書訂正追加手續 十九年十月五日 大藏省訓令第四十九號 北海道廳府縣

收入取扱順序第三條第四條及第二十四條ニ係ル徵稅額表及歳入報告書ノ訂正及追加スヘキモノアルトキハ左ノ手續ニ倣フヘシ

一 歳入徵稅額表及歳入報告書ノ誤記訂正方ハ別紙書式ニ據リ開申スヘシ(但別紙ハ主計局ヨリ送付ス)

(別紙 略ス)

一同上ノ追加報告ニ係ルモノハ第十八號及第二十號書式ニ據リ何年度第何號徵稅額表追加及何年度何月分第何號歳入報告書追加ト表記スヘシ

○歳入徵稅令書納額告知書歳出支拂案内書等誤記訂正ノ件 二十一年三月二十六日 大藏省訓令第十一號 北海道廳府縣

歳入歳出納規則ニ據リ發行スル歳入徵稅令書納額告知書若シクハ歳出支拂案内書等ニ目ノミヲ誤記シタル場合ニ於テハ來ル二十一年四月以降其訂正方ヲ金庫ニ請求スルニ不及但歳入歳出報告書ノ備ハ右ノ場合ニ於テ從前ノ通り夫々訂正スル備下心得ヘシ

○市町村制施行ノ爲メ國稅諸規則ニ關スル營業鑑札訂正方 二十二年三月十六日 大藏省訓令第九號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

市町村制施行ノ爲メ國稅諸規則ニ關スル營業其他ノ鑑札ニ異動ヲ生シタルモノハ朱書訂正ニ止メ替換ヲ爲スニ及ハス尤モ稅務取扱上差支無之モノハ其據置市町村改正事務ノ都合ヲ見計ラヒ漸次ニ訂正スヘキ義ト心得ヘシ但訂正スルモノハ鑑札料ヲ徵收スヘカラス

○郡區役所戸長役場租稅徵收ニ關スル帳簿式ヲ定ム 十九年四月六日 大藏省令第十四號北海道廳府縣 郡區役所戸長役場租稅徵收ニ關スル帳簿式別冊ノ通之ヲ定メ明治十七年當省第六十三號達諸帳簿式ハ自今廢止ス 但帳簿式ハ別ニ之ヲ送付ス(別冊略ス)

○現納金下戻計算書金庫名記入方 二十年六月三十日 大藏省訓令第四十七號北海道廳府縣 年度内ニ係ル既納收入金下戻計算書(記載スル現金支出場所ハ農ニ納入シタル金庫名ヲ記載スヘシ)

○地方長官ヨリ郡長ニ委任シタル條件ニ附帶スル第二部歳入ノ徵收納額告知書發付方ヲ心得シム 十九年十一月十九日 大藏省訓令第五十五號北海道廳府縣 北海道廳長官府縣知事ヨリ郡區長ニ委任シタル事務條件ニ附帶スル第二部歳入ノ徵收ハ郡區役所會計主任ノ書記ヲシテ 納額告知書ヲ發セシムルコトヲ得ル儀ト心得ヘシ

○歳入徵稅令書及歳入報告書收納區分記載方 二十年一月十九日 大藏省訓令第一號北海道廳府縣 第一部歳入徵稅令書徵稅額表及第一部歳入報告書ニ收納區分記載等ノ儀左ノ通心得取扱ヘシ

一徵稅令書書式中明治何年第何期分トアル欄内ニ記載スヘキ收納區分ハ別表ニ據リ之ヲ記載スヘシ
一徵稅額表及歳入報告書ニ收納區分ヲ記載スルニハ前項徵稅令書ニ記載ノモノト同一ナルヘシ
一新規營業等ニテ豫定納規外臨時收入ニ係ルモノト雖モ別表收納區分ニ據リ記載シ徵稅令書ヲ發セシ年度ニ編入整理スヘシ

一前項新規收入ニ係ルモノヲ徵稅額表及歳入報告書ニ編入シタルトキハ摘要欄内ニ新規トシテ其金員ヲ附記スヘシ
一廢業等ニテ豫定納規外臨時收入ニ係ルモノハ其現收スヘキ當該期ノハ其月數ヲ掲ヘシ 月數ヲ以徵收スルモノヲ記載シ徵稅令書ヲ發セシ年度ニ編入整理スヘシ
但酒造稅ニ於テ十月ヨリ翌年三月マテ醬油稅菓子稅ニ於テ一月ヨリ三月マテニ廢業セシモノニ係ル收入ハ前年ノ末期分へ編入整理スヘシ

一土地質上等ニヨリ月割ヲ以テ收入スヘキモノハ其月數ヲ徵稅令書へ記載シ市街宅地租ハ當該納期ニ編入其他ハ最近ノ期中中租租ヲ收入スルトキハ第一期へ田ニ編入整理スヘシ
租ヲ收入スルトキハ第三期へ編入ノ類
但一月ヨリ三月マテニ屬スル地租ヲ出納開始以前ニ收入スヘキ場合ニ於テハ田租ハ前年ノ第五期市街宅地租ハ前年ノ後半分へ畑租ノ類ハ前年ノ第二期へ編入整理スヘシ
一過年度ニ屬スル收入ハ徵稅令書へ所屬曆年ヲ記載シ其徵稅令書ヲ發セシ年度へ編入整理スヘシ

内國稅收納區分表

項	目	收納區分
雜山油鹽郡畑	村宅地	何年第一期
	林泉沼地	同 第二期
	租地野	同 第三期

酒 造 稅		醬 油 稅	醫 藥 子 稅	醫 藥 營 業 稅		酒 造 稅	
蒸 溜 酒 稅	再 製 酒 稅			自 家 用 料 酒 稅	自 家 用 料 酒 稅	蒸 溜 酒 稅	再 製 酒 稅
同 第 二 期	同 第 三 期	同 一 期 分	同 一 期 分	同 一 期 分	同 一 期 分	同 一 期 分	同 一 期 分
同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 一 半 年 分	同 第 一 半 年 分	同 第 一 半 年 分	同 第 一 半 年 分	同 第 一 半 年 分	同 第 一 半 年 分
同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期
同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期
同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期
同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期	同 第 二 期

地 租	田 租	市 街 宅 地 租	延 納 年 賦 租	地 券 證 印 稅	國 立 銀 行 稅	證 券 印 稅	販 販 用 印 紙 料 稅	北 海 道 物 產 稅	米 需 會 所 稅	株 式 取 引 所 稅	酒 造 免 許 稅	釀 造 酒 稅
同 第 四 期	同 第 五 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期
同 第 四 期	同 第 五 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期
同 第 四 期	同 第 五 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期
同 第 四 期	同 第 五 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期
同 第 四 期	同 第 五 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期
同 第 四 期	同 第 五 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期	同 第 六 期

煙草稅	營業 煙札料 再渡及書換	同 隨時收入
	仕入 煙札料 再渡及書換	
賣藥稅	營業 煙札料 再渡及書換	同 隨時收入
	營業 煙札料 再渡及書換	
船稅	西 汽 船 稅	同 前 半 年 分
	日 本 形 風 帆 船 稅	
車稅	馬 車 稅	同 前 半 年 分
	人 力 車 稅	
度 量 衡 稅	尺 寸 稅	同 前 半 年 分
	權 衡 稅	
牛馬賣買免許稅	牛 馬 賣 買 免 許 稅	同 後 半 年 分
	鑑札再渡及書換手收料	

免狀再渡及書換手收料	遊 覽 免 許 稅	同 一 期 分
	職 務 免 許 稅	
同 隨 時 收 入	同 隨 時 收 入	

○内國稅未納追徵整理順序 十九年七月二十二日 大藏省訓令第三十三號 北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)
 内國稅未納追徵整理順序左ノ通相定メ十六年九月第五十九號及十七年七月第五十七號當省達ハ廢止ス
 但甲乙號様式ハ別ニ之ヲ送付ス(甲乙號様式略ス)

内國稅未納追徵整理順序

- 第一條 北海道廳長官府縣知事ハ甲號様式ノ如ク内國稅未納額ヲ調製スヘシ
 - 第二條 内國稅ノ内事故アリテ翌年度十一月三十日マテニ徵收ヲ完了セサルモノハ其年度ノ未納元額トシ償限ニ登記スヘシ但後日追徵シタルトキハ其時々償限ヘ記載スヘシ
 - 第三條 諸營業及船車稅不納者旅行又ハ失踪シ其財產ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ年々未納償限ヘ登記シ置キ而シテ他日本人歸籍又ハ所在發見シタルトキハ未納ニ係ル毎期ノ税金追徵スヘシ但未納ノ當初ヨリ滿三ヶ年ヲ經過シ尚完納セサルモノハ其際更ニ處分方凍藏スヘシ
 - 第四條 北海道廳長官府縣知事ハ其年度ノ末ニ於テ乙號様式ノ如ク既往年度未納殘高仕譯書ヲ製シ四月三十日限リ大藏省ヘ送付スヘシ
 - 第五條 北海道廳長官府縣知事ハ其年度ニ記載シタル納稅者他管ヘ移任送籍スルトキハ不納ニ係ル書類ヲ取纏メ其管廳ヘ引續ヲナシ同時ニ大藏省ヘ報告スヘシ
 - 第六條 前條引續ヲ受ケタル管廳ニ於テハ之ヲ賣稅ニ記入シ追徵ノ手續ヲ爲スヘシ
- 内國稅未納追徵整理順序様式凡例中ヲ改正ス 二十一年二月十五日 大藏省訓令第七號 北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)
 十九年七月訓令第三十三號内國稅未納追徵整理順序甲乙號様式凡例中左ノ通り改正ス

甲號様式凡例第二項

一 追徴處分ノ末官損ニ歸セシモノハ其徵稅令書ヲ發シテ年度ノ豫帳ヘ記入スルモノトス但徵稅令書ヲ發セサルモノハ其指令三月三十一日以前ニ係ルモノハ該當年度四月二日已降ニ係ルモノハ翌年度ノ豫帳ヘ記入ス
乙號様式凡例第三項

一 未納減額ノ内官損及缺損額並追納額ハ本年度未納簿ニ登記セシ金額ヲ記入ス

○租稅收入證明規程、租稅調定ニ關スル證憑書類調理順序 二十三年八月二十七日

大藏省訓令第百二十四號 北海道廳府縣

租稅收入證明規程及ヒ租稅調定ニ關スル證憑書類調理順序會計檢査院ニ於テ左ノ通之ヲ定ム此旨心得ヘシ
但本年常省第百二號訓令收入官吏交替ノトキ證明スヘキ計算書ノ内租稅ニ關スル分ハ自今總テ此規程ニ準據スヘシ
計算書及ヒ明細書類様式ハ主稅局ヨリ別ニ之ヲ頒ツ

改正追録
見合

租稅收入證明規程

第一條 會計規則ニ據リ收入官吏ノ證明スヘキ租稅收入計算書現金出納計算書ハ第一號及第二號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 一會計年度中收入官吏ノ交替アリシトキ後任收入官吏ノ證明スヘキ租稅收入計算書ニ於テハ尙ホ前任收入官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ

第三條 租稅收入未済ノモノ又ハ滞納處分ヲ爲セシモノアルトキハ第三號及第四號様式ニ依リ其明細書ヲ調製シ租稅收入計算書ニ添付スヘシ

第四條 前年度ニ於テ證明済ニ係ル繰越未收入額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ租稅收入計算書ニハ其修正頁額ヲ在記シ別ニ其明細書ヲ調製添付スヘシ

第五條 國稅滞納處分法第十一條ニ據リ管轄地外ノ收入官吏ニ於テ滞納處分ヲ爲セシモノアルトキハ受托收入官吏ハ第四號様式ニ依リ適宜其明細書ヲ調製シ他ノ書類ト共ニ囑托收入官吏ニ送致シ囑托收入官吏ハ一般租稅收入計算書ト共ニ證明スヘシ

改正追録
見合

ニ證明スヘシ

第六條 國稅滞納處分法ニ據リ滞納處分ヲ爲セシモノアルトキハ左ノ書類ヲ滞納處分明細書ト共ニ提出スヘシ

一 財産賣却調書

二 債主又ハ滞納者ヘ交付金額收書

三 國稅滞納者ノ財産其處分費ヲ償フテ過剩ヲ得ル見込ナク國稅滞納處分法第五條ニ據リ直ニ缺損處分ヲ爲シタルモノアルトキハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ其事實ヲ認メタル保證書

第七條 現金出納計算書ニハ金庫ノ領收證書ヲ添付スヘシ

前項ノ領收證書ハ其所屬年度ニ依リ區分編纂スヘシ

第八條 下檢査官吏ハ計算書ノ下檢査ヲ完了シテ左ノ期限内ニ其廳ヲ發シ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ但運輸不便又ハ遠隔ノ地ニアル收入官吏ノ計算書ニシテ其期限ニ依リ難キモノハ豫メ其事由ヲ具シ會計檢査院ノ承認ヲ受クヘシ

一 租稅收入計算書ハ翌年度十二月二十五日以内

二 現金出納計算書ハ翌年度七月二十五日以内

第九條 下檢査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 計算書明細書其他證憑書類ノ件名冊數

二 租稅收入計算書ハ收入簿ト現金出納計算書ハ現金出納簿ト符合ヲ認メタル保證但當該下檢査官吏ニテ事實施行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得

三 計收正確ノ保證

四 法律命令ニ背戻シ又ハ事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ金額事由

五 證憑書類中必要ノモノニシテ檢査終了ノ上送付ヲ要スル書類ノ件名

第十條 收入官吏ニ對スル審理書及其答辯書ハ總テ下檢査官吏ヲ經由スヘシ

第十一類 第一章 租稅徵收

改正追録
見合

第十一條 海關稅及沖繩縣租稅東京府管轄伊豆七島ニ係ル物品稅ノ證明規程ハ別ニ之ヲ定ム
租稅調定ニ關スル證憑書類調理順序

第一條 北海道廳長官及ヒ府縣知事ハ第一號乃至第三號書式ニ依リ毎會計年度租稅調定額明細書過額納額明細書荒地低價地及開墾地下期地明細書ヲ調製シ毎年度經過後七箇月以内ニ大藏省ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第二條 租稅調定ニ關スル證憑書類ハ第三條以下各條ニ依リ之ヲ調理スヘシ其提出ヲ要スルモノハ毎年度豫メ會計検査院ニ於テ之ヲ指定ス

第三條 地租ニ關スル證憑書類左ノ如シ

一 官有地ヲ民有地ト爲セシモノアルトキハ土地舊帳規則第三條ニ依リ登記所ヨリ送致セル土地所有移轉ノ通知書及地價檢定ニ係ル指令原簿書

二 免租地ヲ有租地ト爲セシモノアルトキハ其指令原簿書及ヒ地價檢定ニ係ル指令原簿書

三 地目變換開墾地下期明又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノアルトキハ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキ年度ニ於テ地價檢定ニ係ル指令原簿書

四 荒地成若クハ有租地ヲ免租地ト爲セシモノアルトキハ其指令原簿書

五 民有地ヲ官有地ト爲セシモノアルトキハ登記所ノ通知書

六 低價年期明又ハ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復シ若クハ他ノ地目ニ變シタルモノアルトキハ地價檢定ニ係ル指令原簿書

七 延納年賦額ノ増減アルトキハ主管廳ノ認許書其賦限リノ處分ニ係ルモノニハ其決議書類
一時上納ニ對シテハ其決議書類

八 地盤丈量誤謬訂正其他ノ理由ニテ物件稅額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其證憑書類ハ前各項ノ規定ニ準據スヘシ

第四條 所得稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ

一 調査委員會ノ決議書但所得稅法第二十九條但書ニ該當スル北海道及東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ其上官ノ查定書

二 府縣知事郡長ニ於テ調査委員會ノ決議ニ對シ意見アルトキ若クハ納稅者ニ於テ等級金額ヲ不當トシ所得稅法第二十九條ノ規定ニ從ヒ處分ヲ爲セシモノアルトキハ府縣常置委員會ノ決議書
自首ニ依リ稅金ヲ追徵セシモノアルトキハ其屆書

三 納稅者其納期以前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シ所得稅法第二十三條ニ依リ稅額ヲ輕減又ハ免除セシモノアルトキハ其所得金高減損事由書

四 納稅者他管ヘ轉居セシモノアルトキハ其年月氏名轉居地名及ヒ所得金高稅額ヲ詳悉セル事由書

第五條 酒造稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ
一 酒類造石稅ニハ造石檢査簿若シ造石稅免除ニ係ルモノアルトキハ其理由調書 此理由書ニハ納稅額ト納稅未滿ニ屬スルモノトノ區別ヲモ亦明瞭ナラシム

二 酒造免許稅ニハ酒造營業人ノ出願書但前期限リ廢業セシモノアルトキハ其屆書

三 自家用料酒造札料ニハ其製造者ノ屆書

第六條 醫藥營業稅ニ關スル證憑書類ハ該營業人ノ出願書トス

第七條 烟草稅醬油稅菓子稅賣藥稅船稅車稅牛馬賣買免許稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ
一 烟草稅醬油稅菓子稅賣藥稅ノ新規營業稅ニハ其出願書但菓子營業稅ニハ尚ホ雇人ノ員數氏名屆書ヲ要ス
二 烟草稅菓子稅賣藥稅ノ釐札料ニハ其出願書
三 醬油造石稅ハ第五條酒類造石稅ニ同シ

四 菓子製造稅ニハ賣上金高屆書

五 船稅車稅牛馬賣買免許稅ニハ其出願書但船稅ニ於テハ船體ヲ變更シ積量若クハ噸數ニ増減ヲ生シタルモノアルト
第十一類 第一章 租稅徵收 百五十五

六 廢業又ハ船車ノ破解若クハ他管ヨリ轉入ノモノニハ各其屆書他管へ轉出ノモノニハ轉入先ヨリ送致セル編入簿ノ報告書

第八條 米商會所稅株式取引所稅ニ關スル證憑書類ハ各會所ヨリ送致セル納稅仕障帳トス

第九條 度量衡稅ニ關スル證憑書類ハ其製作受負人ヨリ差出シタル調書トス

第十條 鑛稅免許稅ニ關スル證憑書類ハ其出願書トス但東京府ハ警視廳ノ通知書

第十一條 租稅期滿免除ニ係ルモノアルトキハ租稅調定願明細書ノ備考ニ其金額事由ヲ記載スヘシ若シ申ノ複雑ニ涉ルモノアルトキハ別ニ其說明書ヲ添付ス可シ

第十二條 證憑書類ノ編纂ハ收稅部出張所毎ニ各目ニ區分シ(各目ヲ合セテ簿冊ヲ成セシモノハ區分ヲ要セス)其枚數ヲ表記シ尚中細別ヲ要スルモノアルトキハ適宜區分スヘシ

地租ニ關スル證憑書類ハ有租地成地目變換等ノ區分ヲ以テ適宜之ヲ編纂スヘシ

第十三條 第二條ニ據リ提出セシ證憑書類中返附ヲ要スルモノアル時ハ其提出ノ際會計検査院ニ請求スヘシ

第十四條 海關稅及沖繩縣租稅東京府管轄伊豆七島ニ係ル物品稅調定ニ關スル證憑書類調理順序ハ別ニ之ヲ定ム

○租稅收入證明規程中ノ保證書調製送付方 二十三年八月二十七日 大藏省訓令第百二十五號 北海道廳府廳

今般租稅收入證明規程相定候處右第六條第三項及ヒ第九條第二項ノ保證書ハ北海道廳理事官府廳收稅長ニ於テ之ヲ調製シ收入官吏計算書ト共ニ主稅局へ送付スヘシ

○內國稅徵收費所屬物品會計規程 二十二年九月二十八日 大藏省訓令第六十號 府廳

明治二十二年六月勅令第八十四號物品會計規則ニ基キ內國稅徵收費所屬物品會計規程別冊ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス

但別冊ハ主稅局ヨリ送付ス

改正追録
見合

但別冊ハ主稅局ヨリ送付ス

別冊

內國稅徵收費所屬物品會計規程

第一條 內國稅徵收費所屬ノ物品出納ハ總テ此規程ニ從フ

第二條 物品出納ノ命令ハ大藏大臣ヨリ之ヲ府廳知事ニ委任ス

但島嶼物品出納ノ命令ハ府廳知事之ヲ島司ニ分任スヘシ

第三條 收稅長ヲ以テ物品會計監督主任トス

收稅廳ヲ以テ物品會計官吏トナシ之ヲ本廳及島嶼ニ置ク

第四條 收稅部出張所及租稅検査院派出所ニハ物品取扱主任ヲ置キ收稅廳ヲ以テ之ニ充テ物品ノ出納保管等物品會計官吏ノ所掌ニ屬スル一部ノ分擔ヲ爲サシム

但出張所派出所ヲ一構内ニ設置スル府廳ニアリテハ派出所ニ物品取扱主任ヲ置カス便宜出張所物品取扱主任ノ掌管ニ付シ合同取扱ハシムルコトヲ得 (二十三年三月十四日大藏省訓令第三十五號ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第五條 各員職務上必要ノ物品ハ府廳知事豫メ其品類及數量ヲ規定シ置クヘシ

第六條 府廳知事ハ日常必要ノ物品出納ニ關シ適宜定限ヲ設ケ其範圍内ニ於テ物品會計官吏限リ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第七條 物品ヲ大別シテ左ノ二類トス

第一類 器具器械備品及第二類ニ屬セザル物品

第二類 消耗品

第八條 物品ノ出納ハ左ノ帳簿ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

但帳簿ノ様式ハ府廳ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第一類物品出納帳

第十一類 第一章 租稅徵收

百五十七

第三類物品出納帳

第九條 前條帳簿ノ外別ニ補助簿ヲ設クルハ府縣ノ便宜ニ任ス

第十條 第一類物品出納帳ハ其物品政府ノ所有トナリタルトキ及島廳ヨリ受入タルトキヲ入トシ賣拂亡失毀損及島廳ニ
交付シタルトキヲ出トシテ登記スヘシ

但口座中ニ内譯ノ區畫ヲ設ケ使用中ノ物品ト貯藏物品トノ區分ヲ爲スハ妨ケナシ

第十一條 第二類物品出納帳ハ其物品政府ノ所有トナリタルトキ又ハ島廳ヨリ受入タルトキ若クハ一旦交付セシ物品ノ
戻入アリタルトキヲ入トシ其之ヲ賣拂亡失毀損又ハ島廳出張所派出所ニ交付シ若クハ使用者ニ交付シタルトキヲ出ト
シテ登記スヘシ

第十二條 島廳物品出納帳ノ記載方ハ第十條第十一條ノ例ニ依ル

第十三條 出張所派出所ニハ適宜ノ帳簿ヲ設ケ物品取扱主任ヲシテ物品ノ受拂ヲ明瞭ナラシムヘシ

但第四條但書ニ據リ合同取扱ノ場合ニ於テハ其出張所某派出所ノ名義ヲ以テ一帳簿ニ合記スヘシ(上同)

第十四條 出張所派出所ヨリ物品ヲ請求スルトキハ其所上席收税員ニ於テ請求書ヲ製シ本廳又ハ島廳ニ差出スヘシ

第十五條 薪炭油ノ如キ日々支消スル物品ハ二ヶ月以内ノ需用概算高ヲ以テ假使ヲ爲スコトヲ得

第十六條 凡ソ故意怠惰ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其者ヲシテ之カ賠償ノ責ニ任セシムヘシ

第十七條 府縣知事ハ期限ヲ定メ物品會計官吏ヲシテ其帳簿ト現品トヲ照合セシムヘシ

第十八條 物品會計規則第十四條ノ報告書ハ別紙様式ニ由リ年度後四ヶ月以内ニ調製シ大藏省ニ呈出スヘシ

第十九條 物品會計規則第十五條二項但書ノ計算書調製方命令ハ府縣知事ニ委任ス

第二十條 物品會計規則第十七條ノ計算書下検査ハ府縣知事之ヲ執行スヘシ

第二十一條 物品出納ノ順序ハ各府縣知事ニ於テ之ヲ定メ大藏省ニ申報スヘシ

別紙

生産拂文ハ保管ノ轉換等ニヨリ支出アリタルトキハ拂ノ部「亡失毀損」ノ次ニ相當ノ欄ヲ設ケ之ニ記入スヘシ(上同)

明治何年度内國稅徵收費所屬物品出納報告書面之通候也

明治年 月 日

府縣知事印

大藏大臣宛

第十一類 第一章 租稅徵收

品目	單位稱	受之部		拂		
		起高	本年度受入	計	消費	賣拂
第一類						
掛時計	個	3	1	4	0	1
草張椅子	脚	5	0	5	0	0
並椅子	"	50	10	60	0	0
大形卓子	"	4	0	4	0	1
並卓子	"	40	5	45	0	0
箱火鉢	個	20	0	20	0	0
價格小計						
第二類						
美濃紙	帖	30	100	130	120	0
同十三行野紙	"	50	150	200	170	0
水筆	本	20	30	50	35	0
價格小計						
價格合計						

之部	計	現在之部		備考
		數量	價格	
亡失毀損				
0	1	3	1500 0	<p>本欄内ニハ故意怠惰ニヨリ物品ヲ亡失毀損シ之ヲ辨償セシメタルトキ其數量及辨償金額ヲ記載スヘシ</p> <p>又火災盜難等ノ如キ著シキ事故アリ之カ爲メ亡失毀損シタルトキ其事由ヲ記載スヘシ</p>
0	0	5	875 0	
2	2	58	3480 0	
1	2	2	400 0	
0	0	45	3150 0	
3	3	17	510 0	
			9915 0	
0	120	10	100 0	
0	170	30	330 0	
0	35	15	045 0	
			475 0	
			10340 0	

(價格ハ買入代價又ハ見取代價ヲ記載ス)

用紙寸法ハ美濃紙判
用紙ハ美濃紙又ハ之ニ類似ノ紙
島廳ノ分ハ本廳ノ分ニ併セテ調製ス

明治何年度
内國稅徵收費所屬物品出納報告書

名
廳

○鑑札用品出納順序

二十三年五月十七日

大藏省訓令第八十五號北海道廳府縣主稅局

大藏省所管國稅ニ關スル鑑札用品出納順序左ノ通相定メ本年六月一日ヨリ施行ス
但從前ノ訓令又ハ指令中此順序ニ抵觸スルモノハ同日ヨリ廢止ス

鑑札用品出納規程

- 第一條 鑑札用品ハ消耗品ノ一部トシ各地方長官ノ分任代理官ノ命令ニ由リ本廳屬ヲシテ之ヲ出納セシムヘシ
- 第二條 鑑札用品ハ毎年三月及ヒ九月兩度ニ豫算ヲ以テ各地方收稅部出張所長又ハ島司郡長ヨリ地方長官ノ分任代理官ニ請求スヘシ但臨時必要アル場合ニ於テハ隨時之ヲ請求スヘシ

第三條 前條鑑札用品ノ配付ハ鑑札下付主任官吏之ヲ收受シ其種類員數ヲ記載セル領收證書ヲ製シ會計官吏ニ差出ス

第四條 各收稅部出張所又ハ島廳郡役所ニ於テ直チニ製造シ又ハ買入ル、所ノ鑑札用品ト雖トモ其出納上ニ於テハ第二條第三條ノ式ヲ追フヘシ

第五條 鑑札用品ノ支出ハ其請求書ニ命令官認印ヲ押捺スルヲ以テ命令ト做ス

第六條 會計官吏及ヒ鑑札下付主任官吏ハ消耗品出納簿ヲ調製シ用品出納ノ事項ヲ記載スヘシ

第七條 物品會計規則第十七條ノ計算書下檢査ハ地方長官取纏メ之ヲ執行シ直チニ檢査院ニ送付スヘシ

第八條 鑑札用品ノ大藏省製造ニ係ルモノ受辨報告書ハ適宜之ヲ取調ヘ差出スヘシ

○租稅ニ關スル諸帳簿管理其他取扱方

二十二年六月二十日
大藏省訓令第四十四號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年七月一日以降租稅ニ關スル諸帳簿管理其他取扱方左ノ通心得ヘシ

明治十七年 十二 當省第八十九號逓地租ニ關スル諸帳簿樣式第一號附屬及第二號乃至第十七號ノ諸帳簿表並土地賣地圖ハ收稅部出張所ニ於テ之ヲ管理セシムヘシ

府縣廳ニ於テハ前樣式ニ倣ヒ郡市限地租賣地及附屬諸表ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

明治十八年 九 當省第六十四號逓國稅賣地ハ收稅部出張所ニ於テ之ヲ管理セシムヘシ

收稅部出張所ニ於テハ國稅毎納期三十日以前ニ於テ其現在額ニ據リ部内市町村ノ納額若クハ一人別ノ納額ヲ調査シ之ヲ府縣知事ニ申報セシメ其以後納期末日迄ニ係ル増減及隨時收入ニ係ル納額ハ其時々之ヲ申報セシムヘシ

郡長ニ於テ徵稅令書ヲ發スヘキ國稅ノ納額ハ毎納期徵稅令書發付期日以前ニ其以後納期末日迄ニ増減アルモノ及隨時收入ノモノハ其時々府縣知事ヨリ之ヲ郡長ニ達スヘシ

明治十七年 十二 當省第八十九號逓地租ニ關スル帳簿第一號樣式地租賣地ハ之ヲ廢止ス

第十一類 第一章 租稅徵收

廢止見合

○每年度國稅賦課計算書調製手續設定租稅計算整理順序 二十三年三月八日 大藏省訓令第二十九號 北海道廳府

縣(沖繩縣ヲ除ク)

國稅賦課ノ成績ヲ詳明ナラシムル爲メ左ノ手續ニ依リ每年度國稅賦課計算書ヲ調製シ明治二十二年分ヨリ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

但明治二十年訓令第五十號租稅計算整理順序第五十二號地租延納年賦異動報告ハ廢止ス

一國稅賦課計算書ハ地租ハ曆年其他ノ國稅ハ會計年度ノ區分ニ依リ其所屬年度間ニ賦課シタル物件ノ員數及ヒ租稅額ヲ掲載スヘシ

一國稅賦課計算書送付後所屬年度ノ出納完結ヲ過キ賦課額ノ異動ヲ發見シタルトキハ更ニ賦課追加計算書裏面ヘ元年ヲ關連シ相當年度ノ賦課計算書ト共ニ之ヲ送付スヘシ

但其所屬年度ノ出納完結以前ニ係ルモノハ之ヲ訂正シテ彙キノ計算書ト以換テ請フヘシ

一國稅賦課計算書ハ第一號ヨリ第十五號マテノ様式ニ依リ調製シ地租ハ翌年三月以内其他ノ國稅ハ會計年度經過後二箇月以内ニ其屬ヲ差立ヘシ

但計算書様式ハ主稅局ヨリ送付スヘシ

○明治二十三年度以降大藏省所管內國稅徵收費任拂豫算整理方 二十三年三月十一日 大藏省訓令第三十一號 府縣

明治二十三年度以降大藏省所管內國稅徵收費ノ任拂豫算ヲ達シタルトキハ左ノ各項ニヨリ任拂豫算ノ整理ヲナスヘシ

一任拂命令官ハ左ノ第一號書式ニ據リ任拂命令清額報告書ヲ每年度二回ニ區分調製シ四月ヨリ九月マテノ分ハ其年十月

七日以内十月ヨリ三月マテノ分ハ翌年四月七日以内ニ大藏省ヘ送付スヘシ但年度後ノ任拂命令清額ハ完了後日數七日以内ニ報告スヘシ(二十四年四月六日大藏省訓令第三十二號ヲ以テ本項及ヒ第一號書式ヲ改正ス)

一任拂命令官ハ左ノ第二號書式ノ概算支出金整理簿ヲ備エ概算渡シ係ル任拂命令額ノ精算額ヲ送納額ヲ登記スヘシ

一任拂命令官ハ直稅署直稅分署間稅務分署所管ノ費額ヲ區分シ適宜ノ帳簿ヲ備エ各其費途ヲ詳記スヘシ(二十四年三月二十號ヲ以テ改正ス)

削除追見合

一任拂命令官ハ別紙第三號書式ニヨリ年度經過後五箇月以内ニ每會計年度ニ屬スル任拂豫算額任拂命令清額殘額及ヒ前項ノ區分ニ依リ所要費額ヲ詳記シタル報告書ヲ調製シ大藏省ヘ送付スヘシ(同上)

削除追見合

一臨時提出ニ係ル任拂豫算ヲ達シタルトキハ前各項ニ準據シ款別ニ整理スヘシ

削除追見合

一第三號書式ハ主稅局ヨリ之ヲ送付ス

(括弧内及印章ハ朱)

何(又ハ何何何高諸)		廳(臨時提出アルトキ)		出(出ア)		月(月ニ進シ各款)		何(何ニ進シ各款)	
明治何年何月何日		何(何ニ進シ各款)		何(何ニ進シ各款)		何(何ニ進シ各款)		何(何ニ進シ各款)	
科	目	仕拂命令清額	定額戻入額	仕拂命令清額	定額戻入額	仕拂命令清額	定額戻入額	仕拂命令清額	定額戻入額
何々々	(項)								
何々々	(目)								
何々々	(目)								
何	計								
何々々	(項)								
何々々	(目)								
何々々	(目)								
何	計								
何々々	(項)								
何	(目)								
	總計								
明治何年何月何日									
仕拂命令官		氏名							

(料紙美濃紙等砂引)

第十一類 第一章 租稅徵收

官	等	一	汽	車	賃	一	汽	船	賃	一	管	外	車	馬	賃	一	管	內	車	馬	賃	一	管	外	日	當	一	管	內	日	當
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

百六十七

○内國稅徵收費支辨旅費支給方
 内國稅徵收費支辨旅費支給方左ノ通相定メ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス
 但明治十九年六月當省訓令第二十八號第二項及明治二十三年十一月訓令第四百七十七號本年一訓令第六號ハ本訓令施行ノ日ヨリ相廢ス
 一普通旅行ハ内國旅費規則ニ據リ左表ノ通支給スヘシ

年月日		摘要		備考		概算渡		
年	月	日				圓	錢	厘
何	何	何	何ノ某何地出張ニ付 何付同上精算濟	何	何	50	00	0
何	何	何	同上精算濟	何	何	80	00	0
何	何	何	何某何地出張ニ付 何付同上精算濟	何	何	60	00	0
何	何	何	同上精算濟	何	何	5	00	0

〔四〕返納高欄ハ精算上過剩アリテ返納告知書ヲ發シタルトキ其過剩額ヲ登記ス
 〔五〕精算上不足アルトキハ殘欄内ニ朱書ヲ以テ其不足額ヲ登記ス
 〔六〕返納金ニ對スル金庫ノ領收證ニ檢印シタルトキハ備考欄ニ何年何月何日領收證ハ檢視濟ト記入ス
 〔七〕定額戻入要求書ニ大藏大臣ノ檢視ヲ受ケタルトキハ備考欄ニ何年何月何日定額戻入檢視濟ト記入ス
 〔八〕精算上不足額ノ追給ヲナシタルトキハ概算渡欄ニ其任排命令額ヲ登記ス

(第二號書式)

明治何年度經常歲出
 内國稅徵收費
 概算支出金整理簿

(臨時歲出アルトキハ之レニ準シ各款別ニ調製スヘシ)

精算高			返納高			殘		
圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
45	00	0	5	00	0	50	00	0
78	00	0	2	00	0	80	00	0
65	00	0				60	00	0

〔備考〕
 〔一〕概算渡ニ係ル任排命令額ハ任排費整理簿ニ記入セシト雖トモ尚本簿ニ左ノ事項ヲ登記シ概算支出ノ整理ヲナスモノトス
 〔二〕概算渡欄ハ任排命令額ヲ登記ス
 〔三〕精算高欄ハ其精算額ヲ登記ス

何 應

百六十六

收 稅 長	上 等 實 費	六	錢	十 五	錢	十 二	錢	一 圓 三 十	錢	一	圓
收 稅 廳	中 等 實 費	五	錢	八	錢	六	錢	七 十	錢	五 十	錢

- 一 土地検査員所轄内ノ巡回旅費ハ月額金十五圓ヲ支給スヘシ
- 一 間税検査員所轄内ノ巡回旅費ハ月額金十二圓ヲ支給スヘシ
- 一 土地及間税ノ検査員其分署所在地市町村内ノ巡回ハ旅費ヲ給セス
- 一 分署所在地市町村ニ接續スル町村若ハ其町村ノ一部落大小字等ヲ總稱スニシテ分署所在地市町村ト別ニ區分ヲ要セサルモノハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ分署所在地市町村ニ進スルコトヲ得
- 一 土地及間税ノ検査員巡回日數一箇月ニ滿タルモノハ月額金三十分一ノ割合ヲ以テ其日數ニ應シ支給スヘシ
- 一 土地ノ便利其他ノ狀況ニ依リ府縣知事大藏大臣ノ認可ヲ經テ適宜減額支給スルコトヲ得
- 一 雇員ノ旅費ハ府縣知事適宜其支給額ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ經ヘシ

●沿革要領

明治七年一月第七號布告ヲ以テ僕婢馬車人力車等ノ増税劇場藝妓等ノ諸税等府縣限リ徵收スル者ハ自今賦金ト稱ス
 ○八年三月第二十三號布告ヲ以テ從來ノ雜税一千四百餘種ヲ廢シ營業上收税ヲ要スル者ハ更ニ地方官ニ於テ課税セ
 シム○同年七月第百二十號達ヲ以テ從來治水修繕等ノ爲メ收入シタル夫米夫金等ヲ廢シ府縣限リ適宜賦課法ヲ立シ
 ム○同年九月第百四十號布告ヲ以テ從來ノ租税賦金ヲ國稅府縣稅ノ二款ニ分チテ處分ス○十一年七月第十九號布告
 ヲ以テ從前府縣稅民費ヲ以テ名トシ徵收セル府縣稅民費ヲ改メ地方稅トシ更ニ地方稅規則ヲ定ム○二十二年三月法
 律第九號ヲ以テ國稅徵收法ヲ頒布ス

○國稅滯納處分法 二十二年十二月二十日 法律第三十二號

朕國稅滯納處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第三十二號

國稅滯納處分法

第一章 總則

第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス

第二條 國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサルモノアルトキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ

督促令狀ヲ發スルトキハ手数料トシテ一通ニ付金三錢ヲ徵收スヘシ

第三條 滯納者督促令狀ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ税金ヲ完納セサルトキハ其所有財產ヲ

差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ

第四條 滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

第五條 滯納者財產ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得

ス此場合ニ於テモ亦前條ニ同シ

第六條 滯納處分費滯納税金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滯納シタル稅

金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタル財產ニ付テハ此限ニ在ラス

第七條 酒類醬油造石稅ニ付滯納處分ヲ爲ストキ其課額既ニ定マリタル税金ハ未タ其納期

ニ至ラサルモ滯納税金ト併セテ之ヲ徵收スヘシ

第八條 滯納處分費ハ左ニ掲クル費目ニシテ督促令狀手数料ヲ除クノ外實際支辨スルモノ

第十一類 第一章 租稅總論

ヲ云フ

- 第一 督促令狀手数料
- 第二 差押調書及賣却調書調製費
- 第三 滞納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費
- 第四 評價人看守人又ハ競賣人ノ給料
- 第五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費
- 第六 公告費
- 第七 訴訟ニ要スル諸費

第九條 滞納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費税金ヲ完納スルトキハ其財産ノ差押ヲ解クヘシ

第三者ヨリ滞納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ

第十條 滞納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セズ

第十一條 收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滞納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但他ノ地方管内ニ係ルトキハ收入官吏ハ其所屬長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス

第二章 差押

第十二條 財産差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行

セシムヘシ

第十三條 財産差押ヲ爲ストキハ處分費税金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ拘ハラズ之ヲ差押フルコトヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價值ヲ減スヘシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得

- 第一 地金銀、公債證書、株券、手形、其他ノ證券
- 第二 農業其他營業上ノ生産物、製造物及賣品
- 第三 第一第二ニ掲ケサル動産及一月以内ニ收穫シ得ヘキ土地ノ生産物
- 第四 債主權
- 第五 不動産
- 第六 質入書入ト爲シタル財産但質屋營業者ニ質入シタル動産ヲ除ク
- 第十四條 主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ニモ其効力ヲ及ホスモノトス
- 第十五條 滞納處分著手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滞納者ノ財産一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

第十六條 第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滞納者所有ノ家屋倉庫其他滞納者所用ノ場

第十一類 第一章 租稅忘納

所ニ現在スルモノハ滞納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ賣却決行ノ五日前マテニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ

第十八條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 滞納者及其同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具

第二 滞納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭

第三 實印

第四 祭祀ニ必要ナル物品及石碑、墓地

第五 滞納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類

第六 滞納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣

第七 勳章其他名譽ノ章票

第八 修學上必要ナル教科書、器具

第九 發明ニ係ル未定ノ物品、未タ發行セサル著譯書類

第十 滞納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇年前ニ記名シタル公債證書、株券、手形其他ノ證券

但所得稅ニ關シテハ此限ニ在ラス

第十九條 左ニ掲クル物件ハ他ニ處分費稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス

第一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料

第二 職業ニ必要ナル器具及材料

第二十條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スルニ滞納者ノ家屋倉庫其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得

滞納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ收入官吏其場所ニ立入リ取調ヲ爲スコトヲ得

收入官吏滞納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルハ日出ヨリ日没マテノ時間ニ限ルヘシ

第二十一條 收入官吏滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ滞納者若クハ其同居家族他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所用者若クハ其同居家族ヲシテ立會ハシムヘシ

滞納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルトキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スニ當リ門戶倉庫房室及筐匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得

第二十三條 收入官吏財産差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帶シ滞納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第二十四條 財産ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印シ其謄本ヲ立會人ニ交付スヘシ

第二十五條 通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第十三條第二以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ケ其預リ證書ヲ取ルヘシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ滞納者又ハ其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

第一 收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ

第二 運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ

此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルコトヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ

第二十七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ

負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滞納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ効ナキモノトス

第二十八條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第二十九條 質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ差押物件、處分費、税金額及賣却執行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費税金ヲ完納シタルトキハ其差押ヲ解クヘシ

第三章 賣却

第三十條 財産差押ノ手續ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一 課稅地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二 物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滞納者ノ請求アルカ又ハ收入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲グル場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルコトアルヘシ

第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總價格一圓未滿ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却ス

ルコトヲ得

第三十二條 差押物件ヲ賣却セントスルトキハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十四條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受ルコトヲ得ス

第三十五條 第十三條第一第二第二ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六ノ物件ハ二十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條 差押物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價額ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ日限ニ拘ハラズ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十七條 收穫前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ

第三十八條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メサルトキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押フルコトヲ得

負債者其義務ヲ認メサル場合ニ於テ他ニ差押フヘキ物件ナキトキハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 賣却ヲ爲スニ當リ買受人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ達セサルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尙ホ買受人ナキカ又ハ其買受價額尙ホ豫定價格ニ達セサルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費税金ニ充ツヘシ

第四十一條 但書ニ依リ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ

第四十二條 賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却證書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其謄本ヲ滞納者ニ交付スヘシ買入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其謄本ヲ交付スヘシ

買受人賣却證書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十三條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札證書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十四條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件買入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費税金ヲ扣除シ

次ニ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ若シ滯納税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ扣除シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ滯納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條 債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ謄本及計算書ヲ滯納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ若シ五日以内ニ滯納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之ヲ交付スヘシ

第四章 送達

第四十五條 滯納處分ニ關シ滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第四十七條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ公示スヘシ
公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ揭示場ニ三日間揭示スルモノトス
前項ノ揭示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

第五章 罰則

第五十條 正當ノ理由ナクシテ第二十一條第一項ノ立會ニ應セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 滯納處分ニ對シ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若クハ故意ニ毀損シタル者モ亦同

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ補助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス
附則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長之ヲ行フヘシ
第五十三條 此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊
豆七島ハ之ヲ施行セス

第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ抵觸スル條項ハ總テ廢止ス
○國稅滯納處分法施行細則 二十三年一月八日 大藏省令第一號
國稅滯納處分法施行細則左ノ通定ト

國稅滯納處分法施行細則

- 第一條 處分法第二條ノ督促令狀同第十二條ノ差押命令書ハ第一號様式第二號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 處分法第十八條第一第二ニ掲クル衣服履具、家具、廚具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニ依ルヘシ但其例ナキモ
ノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量ヲ殘シ置クヘシ
- 第三條 財産差押ノ調書ニハ左ノ附件ヲ記載スヘシ
 - 一 滯納者ノ住所氏名
 - 二 動産ハ其名稱、種類、數量
 - 三 不動産ハ其位置番號名稱種類段別又ハ坪數及土地權限ニ記スル地價地租
 - 四 船舶ハ其種類、積量、定額場及所在ノ場所

五 登記簿ニ登記アル質入書入ノ金額、利子及其返還期限、登記ノ年月日、債主ノ住所氏名又ハ質入書入ノ登記アラサル
コト

六 質與シタル不動産ニ付テハ借主ノ住所氏名其契約ノ要項返還期限アレハ其期限及資金
七 差押ノ事由及手續

第四條 債主權差押ノ通知書ニハ左ノ附件ヲ記載シ收入官吏署名捺印スヘシ

- 一 差押ヘタル債主權ノ種類、員額
 - 二 差押ノ事由
 - 三 滯納者ニ對シ義務ノ履行ヲ爲スモ無効タルヘキ旨
 - 四 此通知書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ其義務ヲ認ムルカ又ハ認メサル旨ヲ申出ツヘキ旨
- 第五條 財産賣却ノ公告文ニハ左ノ附件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
- 二 動産ハ其名稱、種類、數量
- 三 不動産ハ其位置番號名稱種類段別又ハ坪數及土地權限ニ記スル地價、地租
- 四 船舶ハ其種類、積量、定額場及所在ノ場所
- 五 競賣若クハ入札ノ場所、日時
- 六 開札ノ場所、日時
- 七 保證金ヲ徵スルトキハ其金額
- 八 代金納付ノ期限
- 九 條件附ノ不動産ナレハ其條件
- 十 其他隨時主任官吏ニ於テ定メタル公賣手續上ノ要件

第十一類 第一章 租稅忘納

第六條 競賣ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏競賣人ヲ命シテ之ヲ取扱ハシメ自カラ之ヲ監督スヘシ
 入札ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏自カラ之ヲ取扱フヘシ
 第七條 賣却物件ノ買受人代金納付ノ期限内ニ代金ヲ完納セサルトキハ其物件ヲ交付セス更ニ賣却ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ保證金アルモノハ之ヲ還付セス其金額ハ處分費税金ニ補充スヘシ
 第八條 財産賣却調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 動産ハ其名稱種類數量
- 二 不動産ハ其位置番號名稱種類段別坪數及土地權限ニ記スル地價地租
- 三 船舶ハ其種類積量定艙場及所在ノ場所
- 四 公告及賣却ヲ爲シタル方法
- 五 競賣ヲ爲シ又ハ入札ヲ開キタル場所日時
- 六 三番札マテノ入札代價並其入札人ノ住所氏名
- 七 再公賣ヲ爲シタルトキハ其事由
- 八 保證金ヲ徴シタルコト及其金額
- 九 落札代價及落札人ノ住所氏名
- 十 代金納付ノ日限
- 第九條 處分法第四十條ニ依リ賣却物件ヲ政府ニ買上ルトキハ收入官吏該代金ヲ地方長官ニ請求シ之ヲ支辨シ該物件ハ主管ノ官吏ニ引渡スヘシ
- 第十條 滞納處分濟ノ上國庫ノ損失ニ歸シタルトキハ處分濟ノ日ヨリ十日以内ニ收入官吏ヨリ事由ヲ具シ其缺損額ヲ地方長官ニ稟申スヘシ
- 第十一條 處分法第十一條ニ依リ滞納處分ノ囑託ヲ受ケタル收入官吏ハ其處分ニ由リテ徵收シタル金額ノ内處分費ヲ扣

除シ其殘金及諸書類ヲ囑託收入官吏ニ送付スヘシ若シ滞納者又ハ債主ニ交付スヘキ金額アリテ其者委託收入官吏ノ管轄地内ニ住スルトキハ委託收入官吏ニ於テ其金額交付ノ手續ヲナスヘシ

- 第十二條 處分法第四十三條ニ依リ殘餘金ヲ滞納者ニ還付シ又ハ負債金額ヲ債主ニ交付スルトキハ左ノ諸件ヲ記載シタル計算書ヲ添付スヘシ
- 一 物件賣却代金
 - 二 保證金ヲ還付セサルトキハ其金額
 - 三 處分費各費目ノ金額及税金
 - 四 債主ニ交付スヘキ金額及債主ノ氏名
 - 五 滞納者ニ還付スヘキ金額
- 第十三條 處分法第四十五條ニ依リ使丁ヲ以テ書類ヲ送達スルトキハ第三號様式ノ送達書ヲ添付スヘシ
 第十四條 處分法第四十八條ニ依リ市町村長ニ於テ送達書類ノ公示ヲ爲シタルトキハ直チニ其公示ノ日時ヲ收入官吏ニ通知スヘシ
 第十五條 督促令狀ヲ受タル後滞納者又ハ第三者ニ於テ滞納處分費及税金ヲ完納スルトキハ滞納處分費ハ第四號様式税金ハ第五號様式ノ納付書ニ督促令狀ヲ添付シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ
 第十六條 賣却物件ノ買受代金ハ買受人ニ於テ第六號様式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第一號様式 用紙寸法適宜 (印章ハ執モ朱)

管	第何號	經常	租稅	(項)	第何期	第何年	氏名
	明治何年度	何	何				
一 金 何 程							滞納税金

收入官吏
副印

督促令狀

一金三錢
右金額此令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ當出張所へ上納ス
ヘシ若シ其期限ヲ過クルトキハ直ニ財産差押ノ處分ヲ爲スヘ
シ

明治何年何月何日

何府
收稅部何出張所收入官吏
氏 名 印

第二號様式

用紙寸法適宜

差押命令書

府縣廳
副印

滯納者住所
氏 名

右何稅何年何月何日限納期ノ分金
何程滯納ニ付國稅滯納處分注ニ據
リ本人所有ノ財産ヲ差押フヘキ者
也

明治何年何月何日

府縣廳
之 印

差押執行シタル
月 日 時
賣却執行シタル
月 日 時
執行ノ
手續

右之過取扱候也

明治何年何月何日

何府知事氏名

何府收稅部何出張所收入官吏
氏 名 印

第三號様式

用紙寸法適宜

送達書

一(送達スヘキ書名) 一冊
一(同) 一通

右使丁ヲ以テ(何府)下何郡何村
何番地何某(送達サシムル者
也

明治何年何月何日

收稅部出
張所ノ印

受取人ノ署名
捺印シ能ハ
サルトキハ其
事由
送達シタル
月 日 時
送達シタル
場所
同居人若クハ
市町村長ヘ書
類ヲ渡シタル
トキハ其事由

右致送達候也

使丁氏名印

何府收稅部何出張所

第十一類 第一章 租稅总納

收入官吏氏名印

割印

送達書

一(送達スヘキ署名)

一冊

一(同)

一通

右使丁ヲ以テ何縣府下何郡何村何番地何某ヘ送達セシムル者也

明治何年何月何日

收税部出
張所ノ印

何縣府收税部何出張所
收入官吏氏名印

受取人ノ署名
捺印若シハ其
申由トキハ其

送達シタル
日時

送達シタル
場所

同居人若クハ
市町村長ヘ書
類ヲ渡シタル
トキハ其申由

右致送達録也

使丁氏名印

第四號様式

用紙適宜縦四寸五分ノモノ二枚横四寸五分ノモノ一枚綴續

納

付

書

領

第何號	經常雜收入	住所氏名
明治何年度	入	滯納處分費

一金何程

右納付候也

明治何年何月何日

住所氏名印

金庫
割印

第何號	經常雜收入	住所氏名
明治何年度	入	滯納處分費

一金何程

收入
官吏印

金庫
取手印

第十一類 第一章 租稅息納

收

啓

右領收候也		明治何年何月何日		何地金庫印	
金庫		收入官		吏檢印	
割印		第何號		經常雜收入	
第何號		經常雜收入		住所氏名	
明治何年度		雜		入	
入		滯納處分費		住所氏名	
一金何程		明治何年何月何日		何地金庫	
一金何程		何日		何地	
一金何程		何地		金庫	
一金何程		何地		納付	
入金官		吏檢印			

第五號樣式

用紙適宜 縱四寸五分ノモノ二枚 縱四寸五分ノモノ一枚 横三寸三分ノモノ一枚 横二寸

第何號 經常租稅 住所氏名

明治何年度 何々 (項) 何々 (目) 第何期何年

納

付

書

領

督促令狀第何號ノ分		一金何程		住所氏名印	
右納付候也		一金何程		住所氏名	
金庫		割印		第何號	
第何號		經常租稅		住所氏名	
明治何年度		何々 (項)		何々 (目)	
何々 (項)		何々 (目)		第何期何年	
督促令狀第何號ノ分		一金何程		入金官	
入金官		吏檢印			
右領收候也		明治何年何月何日		何地金庫印	

第十一類 第一章 租稅忘納

收 書

<p style="font-size: 2em; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; margin: 0 auto;">金庫</p> <p style="font-size: 2em; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; margin: 0 auto;">割印</p>	<p style="font-size: 2em; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; margin: 0 auto;">收入官</p> <p style="font-size: 2em; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; margin: 0 auto;">吏檢印</p>
第 何 號	住 所 氏 名
明 治 何 年 度 何 々 (項)	第 明 治 何 年 何 月 何 日 (目)
督促令狀第何號ノ分 一金何程	
明治何年何月何日何地金庫へ納付 <div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px; margin: 0 auto; border-radius: 10px; text-align: center; font-size: 0.8em;">収入官 吏檢印</div>	

第六號様式 用紙寸法適宜

書 付 納

一金何程 内 金何程 金何程 金何程	物件買受代金 何何何 々々々
右納付候也	住所氏名印
明治何年何月何日	住所氏名印

○國稅滯納處分法第八條中ノ諸費支出方 二十三年一月二十四日 大藏省訓令第二號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
 國稅滯納處分法第八條中第二項乃至第七項ニ係ル諸費ハ内國稅徵收費當該各科目ヨリ支出スヘシ

○國稅怠納處分報告書式 二十四年四月一日 大藏省訓令第三十號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
 明治二十三年二月訓令第八號國稅滯納處分施行實況報告表及處分費報告表來ル二十四年度以降相應條項後滯納處分ヲ爲シタルモノハ同年大藏省令第三號國稅徵收法施行細則第二十條ノ報告書ヘ左ノ書式ノ如ク備考ノ一欄ヲ設ケ其事由ヲ掲ケ其缺報ニ屬セシモノハ金員ノ次ヘ一區ヲ盡シテ人員ヲ記入スヘシ
 但隨時納期ヲ定ムル國稅ニシテ滯納處分ヲ施行セシモノアルトキハ每半年度分取纏メ本表ニ儼ヒ報告書ヲ調製シ十一月ノ兩度ニ送付スヘシ

備 考	額 未 済 額	事 由
布 告 後 何 程 發 布 後 何 程 狀 發 後 何 程 令 狀 發 後 何 程 督 促 令 狀 發 後 何 程 後 完 納 何 人 期 間 完 納 何 人 納 入 前 完 納 何 人	金 額	事 由
備 考 「シ 至 記 完 報 際 結 了 事 由 悉 報 期 間 完 納 事 由 悉 報 本 報 告 未 了 事 由 悉 報 其 他 未 了 事 由 悉 報 本 報 告 未 了 事 由 悉 報」		

科 目 項 目	調定額	收 入 額		缺 損 額	
		納期限定収入ノ分	納期限外収入ノ分	金 額	人員

○間接國稅犯則者處分法 二十三年九月二十日 法律第八十六號

朕間接國稅犯則者處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

法律第八十六號

間接國稅犯則者處分法

第一章 犯則事件取調

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若ハ思料シタルトキハ其家宅倉庫其他ノ場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ間稅官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ間稅官吏タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若ハ犯則ニ係ル物件其間稅官署ノ管轄區域外ニ在ルトキハ其地ノ間稅官署ニ證憑集取ヲ囑托スルコトヲ得

第三條 間稅官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ必要ナリト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第四條 間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ本人若ハ其同居ノ親族又ハ傭人ヲシテ立會ハシムヘシ本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員若ハ鄰佑

二名以上ヲ立會ハシムヘシ

第五條 間稅官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ於テハ此限ニアラス

第六條 間稅官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

第七條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲スニ由リ犯則物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ差押ヘテ封印若ハ認印ヲ爲シ差押目錄ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑若ハ本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徴スヘシ若シ之ヲ間稅署若ハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其領收證ヲ取置クヘシ

差押物件ヲ市町村吏員若ハ鄰佑ニ預ケ又ハ間稅署若ハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其差押目錄ノ原本ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條 間稅官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

第九條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 本人ノ氏名年齢身分職業住所

二 犯則事件發見ノ手續及日時場所

三 事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述

四 差押ヘタル證據物件及種類數量並ニ本人ノ物件ニ對スル辯解

第二章 犯則者ノ處分

第十條 間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ處分請求書ヲ作り一切ノ書類物件ト俱ニ之ヲ管轄間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スヘキ物品並ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ

前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計三十圓ヲ超エサルトキハ限リ間稅分署長之ヲ爲シ其他ハ間稅署長之ヲ爲スモノトス

第十二條 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セサル者ハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十三條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス第十四條 間稅官吏犯則事件ヲ覺知シタル場合ニ於テ本人ノ住所分明ナラス若ハ犯則事件禁錮又ハ拘留ニ該ルモノト認ムルトキ又罰金若ハ税金ヲ完納スルノ資力ナキ者ト認ムル

トキハ該事件ヲ管轉裁判所ニ告發スヘシ

犯則者犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間稅官吏其物件ヲ差押ヘテ調書ヲ作リ發告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轉裁判所ニ引致シ其事件ヲ告發スヘシ

一 犯則者逃走ノ恐アルトキ

二 證憑堙滅ノ恐アルトキ

第三章 雜則

第十六條 書類送達費及差押物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノ、運搬保管若ハ保存ニ要スル費用ハ犯則者之ヲ負擔スヘシ

第十七條 間稅署長若ハ間稅分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ虞アルトキハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ公賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付スヘシ

第十八條 此法律ニ於テ間稅官吏トハ間接國稅ノ檢査若ハ徵收ニ從事スル官吏ヲ謂フ

第十九條 間稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス沒收物件又ハ差押物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十條 此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原

島伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス

○間接國稅犯則者處分法施行細則 二十三年十一月十日
大藏省令第三十一號

間接國稅犯則者處分法施行細則左ノ通相定ム

間接國稅犯則者處分法施行細則

第一條 間接國稅犯則者ノ處分ハ其犯則發覺ノ地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ爲スヘシ但犯則ノ地ト犯則發覺ノ地ト其管轄官署ヲ異ニシ犯則ノ地ニ於テ處分スルヲ便宜ナリト爲ストキハ之ヲ犯則ノ地ヲ管轄スル間稅官署又ハ分署ニ移スヘシ

第二條 數箇ノ間稅官署ノ管轄區域内ニ於テ同一ノ犯則ヲ爲シタルモノアルトキハ最初ニ之ヲ發覺シタル地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第三條 一稅則ニ付數罪俱發シタル場合ニ於テ其數罪中ノ一箇ノ罪若シ間稅署ノ處分權限ニ屬スルトキハ其他ノ罪モ間稅署ニ於テ併セテ之ヲ處分スヘシ

第四條 間稅官吏犯則事件ノ證憑採取ヲ爲スニ際シ若クハ間稅署長又ハ分署長ニ於テ犯則事件ヲ調査スルニ當リ其事件ニ牽連スル他ノ普通犯罪ヲ發覺シタルトキハ其普通犯罪ハ管轉裁判所ニ告發シ其犯則事件ハ刑法第一編第七章ノ數罪俱發ノ例ヲ用ユルモノヲ除ク外處分法ノ定ムル所ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

第五條 處分法第十一條第二項ノ合計價額ハ法律ニ於テ罰金ノ額ヲ一定セサルモノハ其罰金ノ最多額ヲ以テ之ヲ算シ沒收品ノ價額ハ間稅官吏ノ見積リ價額ヲ以テ之ヲ算スヘシ

第六條 間稅官吏ハ處分請求書ヲ差出シタル後ト雖モ若シ事實發覺考トナルヘキ事物件ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第七條 間稅官吏ハ犯則物件ニ付鑑定人ヲ必要ナリト思料シタルトキハ相當ノ者ヲシテ鑑定ヲ爲サシメ其鑑定書ヲ徵スヘシ

第八條 間稅官吏犯則事件ノ捜査ニ着手シタルトキハ該事件罪トナラス若クハ證憑不充分ナリト思料シ處分請求ヲ爲サ

ル場合ト雖モ其取調書類ニ意見ヲ附シ直チニ之ヲ間稅分署長ニ差出スヘシ

第九條 犯則處分ニ關シ間稅官吏ヨリ間稅署長ニ差出スヘキ書類ハ所屬分署長ヲ經由スヘシ

第十一類 第一章 租稅怠納

第十條 間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯罪事件ヲ調査スルニ當リ事實參考ト爲ルヘキ車物ヲ發見シタルトキハ間稅官吏ヲシテ之ヲ集取セシムヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯罪事件ヲ調査スルモ犯罪ノ心證ヲ得サルトキハ處分請求書ヲ棄却シ差押物件ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ處分請求書ヲ棄却シタル旨ノ通告書ヲ作リ之ヲ本人ニ送達スヘシ

第十二條 第十一條ニ據リ處分請求書ヲ棄却シタルトキハ處分法第十六條ノ費用ハ之ヲ徵收セサルモノトス

削除 違録 見合

第十三條 間稅署長又ハ分署長ハ犯罪者ニ於テ處分通告ノ旨ヲ履行セサルニ依リ管轄裁判所ニ該事件ヲ告發スルトキハ同時ニ處分法第十六條ノ費用ヲ該裁判所ニ請求スヘシ

第十四條 處分法第十一條ノ沒收ニ該物品ニシテ市町村吏員又ハ隣佑若クハ本人ニ預ケタルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十五條 間稅署長又ハ分署長ニ於テ沒收品ヲ領收シタルトキハ之ヲ主管官吏ニ引續クヘシ

第十六條 處分法第十一條ノ罰金其他ノ收入金ハ會計法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第十七條 處分法第十二條ニ據ル七日ノ期限ハ通告書ヲ受取ルヘキ者ニ於テ之ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ

第十八條 間稅署長又ハ分署長ヨリ發スル通告書ハ便宜ニ依リ犯罪者所在地ノ分署ニ郵送シ該分署ヨリ使丁ヲ以テ之ヲ本人ニ送達スルコトヲ得但本人ノ領收書ハ即日之ヲ通告書ヲ發シタル間稅署ニ發送スヘシ

第十九條 間稅署長又ハ分署長ハ犯罪者若シ其管轄區域外ニ在ルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘキ金額物件ヲ犯罪者所在地ノ管轄間稅分署ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

第二十條 間稅署長又ハ分署長ハ前條ノ通告ヲ爲シタルトキハ該通告書ノ謄本ヲ犯罪者所在地ノ間稅分署長ニ送付シ其金額物件ノ徵收方ヲ同署ニ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ犯罪者期限内ニ通告ノ旨ヲ履行セサルトキハ之ヲ通告書ヲ發シタル間稅官署ニ報告スヘシ

第二十一條 處分法第四條ノ親族ト稱スルハ刑法第四百十四條第四百十五條ノ例ニ依ルヘシ

第二十二條 凡ソ犯罪處分ニ關スル書類ニハ每葉ニ契印スヘシ若シ文字ヲ挿入削除若クハ欄外ニ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ但シ削除シタルモノハ其字體ヲ存シ置キ其字數ヲ記載スヘシ

第二十三條 間稅分署長ハ其管轄内ニ於テ處置シタル犯罪事件ノ處分表ヲ調製シ毎月五日限管轄間稅署長ニ報告スヘシ

第二十四條 處分法第一條第三項ノ間稅官吏タルノ證票同第十一條ノ送達書同第十二條ノ納證施行細則第二十三條ノ犯罪事件處分表ハ第一號ヨリ第四號マテノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第一號様式

用紙厚紙縦二寸横一寸五分

第何號 表 證 票 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 間稅署 之 印 </div>	裏 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 間稅官吏 何縣收稅屬何某 印 割 </div>
---	---

第二號様式

送 達 書	
一(送達スヘキ書名)	一冊
一(同)	一通
受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サルトキハ其 理由	

右使丁ヲ以テ何縣下何郡何村 何番地何某へ送達セシムル者 也 明治何年何月何日 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">何開稅(分) 府之印</div> 何府何開稅署長 (縣)何開稅分署長 官氏名印		送達シタル月 日時 送達シタル場 所 同居人若クハ 市町村長へ書 類ヲ渡シタル トキハ其事由 右致送達候也 使丁氏名印
送達書 (一)送達スヘキ書名 (二)同 一通 一冊	受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サルトキハ其 理由 送達シタル月 日時 送達シタル場 所	送達シタル月 日時 送達シタル場 所 同居人若クハ 市町村長へ書 類ヲ渡シタル トキハ其事由 右致送達候也 使丁氏名印



何番地何某へ送達セシムル者 也 明治何年何月何日 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">何開稅(分) 府之印</div> 何府何開稅署長 (縣)何開稅分署長 官氏名印	同居人若クハ 市町村長へ書 類ヲ渡シタル トキハ其事由 右致送達候也 使丁氏名印
---	---

第三號様式

納附
 一金何程 何々
 一金何程 何々費
 一何々 若干(目録ノ通)
 右ハ私何々税則違犯事件ニ付年月日付通告書ニ對シ納付致シ候也

年月日

何開稅(分)署長宛

納人 住所 氏名印

第四號様式

第十一類 第一章 租稅息納

明治何年何月分犯則者處分表

何間稅分署長 官 氏名印

犯目	年	月	日	則受理月日罰金	沒收物	收追件金	徵罰額	科金	裁判所へ	否	告發月日	犯則者住所	同上人名	何間稅分署長		
														官	氏名印	
何稅則	何年	何月	何日	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓
合計				何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓
總件數				前月分	越	高	新	受	既	濟	未	濟	何	人		

凡例

- 一 檢舉者ヨリ直チニ告發シタルトキハ本表受理月日通告月日ノ欄ヨリ罰科金納否ノ欄マテ斜線ヲ施スヘシ
- 一 受理シタル犯則事件ニシテ罪トナラス若クハ何々ト認メ棄却シタルモノハ本表受理月日通告月日ノ下欄ニ棄却ト記シ以下裁判所へ告發月日ノ欄マテ斜線ヲ施スヘシ

○間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送達ノ件 二十三年十月十日 勅令第二百三十二號

朕間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送達ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百三十二號

- 第一條 間接國稅犯則者處分ニ關シ犯則者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得
- 第二條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ間稅分署若ハ間稅分署ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ
- 第三條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ間稅分署長若ハ間稅分署長ニ差出スヘシ
- 第四條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ其旨ヲ間稅分署長若ハ間稅分署長ニ報告スヘシ

○地方稅規則 十三年四月八日 布告第十六號

明治十一年七月第十九號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨布告候事 (二十三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ地方稅ノ稱消ス滅)

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

第十一類 第一章 地方稅

- 一 地租三分一以内(十三年布告第四十八號ヲ以テ本項中改正ス但二十年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)
- 一 營業稅并ニ雜種稅
- 一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之レヲ定ム(十五年第二號布告ヲ以テ本條中刪除)

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ(十五年第二號布告ヲ以テ全條ヲ改正ス但二十三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ地方稅ノ稱消滅ス)

- 一 警察費
- 一 警察廳舍建築修繕費
- 一 土木費
- 一 區町村土木補助費
- 一 府縣會議諸費
- 一 衛生及病院費
- 一 教育費
- 一 區町村教育補助費
- 一 郡區廳舍建築修繕費
- 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
- 一 救育費
- 一 難破船諸費(二十一年法律第一號ヲ以テ本項中改正ス)

一 諸達書及揭示諸費

一 勸業費

一 戶長以下給料旅費(十七年布告第十三號ヲ以テ本項中改正ス但二十年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)

一 地方稅取扱費(府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲(二十三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ地方稅ノ稱消滅ス)換手數料現金送送等ノ費用)

一 府縣廳舍建築修繕費

一 府縣監獄費

一 府縣監獄建築修繕費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

一 豫備費(豫算外ニ生シタル事件ノ費途(十五年布告第六十九號ヲ以テ本項ヲ改正ス但二十年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)及豫算ノ臨時不足ニ充ツル者(三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス))

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩

卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一週年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以

テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決

ヲ取り其年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十七年第九號布告ヲ以テ本項ヲ改正シ十九年度ヨリ施行セシム但二十三年法律第三十五號府

縣郡制發布ニ依リ本條消滅ス)

地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ

經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間

之ヲ施行スルコトヲ得(十五年第六十九號布告ヲ以テ本項追加但二十三
年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫備費ヲ以テ給足セサルモ
ノヲ云)別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ
(十四年五號布告ヲ以テ未文ヲ削除ス但二十三
年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキ
ハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得(十五年布告第六十九號ヲ以テ
第三十五號府縣郡制
發布ニ依リ消滅ス)

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計查シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メ
ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十四年布告第五號ヲ以テ全條ヲ
改正ス但二十三年法律第三十五
號府縣郡制發布
ニ依リ消滅ス)

第八條 (十四年布告第五
號ヲ以テ刪除ス)

第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其
裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得
第十條 (十三年第二十六號布告ヲ以テ追加
シ十四年第八號布告ヲ以テ廢止)

○營業稅雜種稅ノ種類及制限十三年四月八日
布告第拾七號
明治十一年月^{十二}第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條此

官布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス(十五年第三號布告
ヲ以テ全條改正)

商業

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(上同)
料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類

湯屋

理髮人

傭人受宿

遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優幫間藝妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

遊技場玉突大弓揚弓
射的吹矢ノ類

人寄席

船野原船海船及五
十石未満海船車馬車人力車荷積馬車荷積大七六
八車荷積中小車荷積牛車ノ類

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

第十一類 第一章 地方稅

乘馬
屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 (同上)

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ(同上(決議ヲ以テ)ノ下八字ヲ削ル)

第六條 (同上)

第七條 (同上)

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ(同上(第二條)ノ下第三條稅目ヲ改メ(課稅種類)トス)

御名 御璽

勅令第五十六號

第一條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充ツヘシ

第二條 地方稅ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シテ府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條 本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

○乘馬飼養令ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方稅ヲ賦課セズ十七年十月八日 太政官達第八十三號府縣
本年八月第六號達ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方稅ヲ賦課スルノ限リニ在ラサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○管内限諸達書及揭示諸費從來官費ニ係ル者支辨方十二年二月七日 太政官達第六號府縣
明治十一年七月第十九號布告地方稅費目第十項管内限諸達書及揭示諸費并郡區役所ニ設置スル布告類揭示場新築修繕諸費ノ儀ハ從來官費ニ係ル部分ト雖モ自今地方稅ヨリ支辨スヘシ此旨相達候事

○地方稅豫算議案精算報告書式十五年十二月二十七日 內務省達第七十二號府縣(函館沖繩札幌根室四縣ヲ除ク)大藏卿 連署
地方稅豫算議案并精算報告書式別冊之通相定候條此旨相達候事

(別冊)
明治何年度地方稅支出豫算議案書式
第十一類 第一章 地方稅

(括弧内ハ朱)

第十一類 第一章 地方稅

一金 內課
 一金 內課
 一金 內課
 一金 內課
 一金 內課
 一金 內課

區町村土木補助費
 府縣會議諸費
 律給
 雜給
 衛生及病院費
 衛生費
 某病院費
 傳染病豫防費
 數育費
 某學校費
 某幼稚園費
 區町村教育補助費
 郡區廳舍建築修繕費
 建築費
 修繕費

一金 內課
 一金 內課
 一金 內課
 一金 內課
 一金 內課
 一金 內課

警察費
 (地方稅)
 (地方稅)
 (國庫下渡金)
 (國庫下渡金)
 警察廳舍建築修繕費
 雜給
 雜給
 雜給
 建築費
 修繕費
 土木費
 道路橋梁費
 治水堤防費
 港灣費

郡區吏員給料旅費及廳中諸費

一金
內課

俸給
雜給
廳費

一金

救費

一金

浦役場及難破船諸費

內課

浦役場費

一金

難破船諸費

內課

諸通告及揭示諸費

一金

諸通告費

一金

揭示諸費

一金

勸業費

一金

戶長以下給料及戶長職務
取扱諸費

一金

俸給

一金

雜給

一金

雜給

一金

雜給

一金

雜給

一金

廳費

一金

地方稅取扱費

一金

府縣廳舍建築修繕費

一金

建築費

一金

修繕費

一金

府縣監獄費

一金

俸給

一金

雜給

一金

刑事被告人諸費

一金

囚人諸費

一金

府縣監獄建築修繕費

一金

建築費

一金

修繕費

一金

特別ニ許可ヲ
得タルモノ

一金

何

一金

修繕費

一金

建築費

一金

修繕費

一金

何

第十一類 第一章 地方税

金 金

備人請宿税
遊藝師匠税
遊藝師人税
相摸税
俳優税
村間税
藝妓税
市場税
演劇税
興行税
遊藝場所税
遊藝場税
人寄席税
船車税
水車馬車税
乘馬車税
厩畜馬車税
漁業税
採掘業税

二百十五

一金
合計金

〔○本文讀按ノ外支出説明書ヲ作リ參考ニ備フルモノトス收入ニ於テモ又全シ〕

一金
明治何年度地方税收入豫算表按書式

一金
内譯

一金

内譯

金 金

二百十四
備費

地租
但本年地租豫算高金何程
地租金密圖ニ付金何程

營業税
工業税
雜種税

料理屋税
待合茶屋税
遊船宿税
芝居茶屋税
飲食店税
湯屋税
理髮人税

一金

合計(十八年一月内務省甲第三號達ヲ以テ(合計)ヲ加ヘニ
十年十一月内務省令第三號ニ依リ以下書式ヲ改正ス)

○地方税支出豫算議案及精算報告書式心得方並收入豫算議案及精算報告書式中改正二十一年

五日内務省
令第三號

一地方税ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金ハ明治二十一年度ヨリ該年度地方税土木費雜入ニ組入レ並木植續費ハ該
土木費ヨリ支出ス可シ

一地方税ヲ以テ支辨ス可キ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議案及精算報告書式ハ明治二十一年度ヨリ警察費國庫下渡金
ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方税ト寄附金ト内課ヲ爲ス可シ

一物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議案ヲ以テ議定ニ附スルコトヲ得

一明治十五年十二月内務大藏兩省七拾貳號達地方税收入豫算議案並精算報告書式中戸數割ノ次合計以下明治二十一
年度ヨリ左ノ通改正ス

收入豫算議案書式

一金

内課

雜收入

警察費雜入

土木費雜入

何費雜入

何費雜入

二百十六

(何税特別ニ許可ヲ
得タルモノ)

但何年何月關總戸數何程
一戸ニ付金何程

一金
一金
一金

一金

一金

一金

合計金

收入精算報告書式

△印ハ朱書

雜收入

前々年度ヨリ繰越金

國庫下渡金

國庫補助金

寄附金

△豫算金

一金

内課

△豫算金

金

△豫算金

金

△豫算金

金

△豫算金

金

△豫算金

金

一金

第十一類 第一章 地方税

前々年度ヨリ繰越金

何費雜入
前々年度分何税延納

二百十七

△豫算金

一金

△豫算金

一金

△豫算金

一金

△豫算金

合計金

國庫下撥金

國庫補助金

寄附金

合計金

○營業稅雜種稅課目課額議案書式

十五年十二月二十七日

內務省達第七十三號府縣(函館沖繩札幌根室四縣ヲ除ク)

別冊

(内未)

營業稅雜種稅課目課額議案書式

營業稅

商業

等級

各種ノ稅率等級等ヲ設クルモノハ右ニ準シ
掲出スヘキモノトス以下皆同シ

稅率

課額

工業

雜種稅

料理屋

待合長屋

- 遊船宿
- 芝居茶屋
- 飲食店
- 湯屋
- 理髮人
- 傭人請宿
- 遊藝師匠
- 遊藝稼人
- 相撲
- 俳優
- 雜聞
- 藝妓
- 市場
- 演劇場
- 興行
- 遊覽所
- 遊技場
- 人寄席
- 船
- 車

水車
乘馬
厩畜
源泉
採礦

(○特別ニ許可ヲ得タル税目アルハ右ニ準シ掲出スルモノトス)

(○税金免除等ノ種類アルハ未項ニ記シ其事由ヲ開示スヘシ)

(○轉業廢業等ニ係ル税金徵收區別ヲ掲出スルモノトス)

○地方税豫算精算書調製差出方 十五年十二月二十七日
内務省達シ第七十四號府縣(函館沖繩札幌根室四縣ヲ除ク)
(大藏卿連署)

地方税規則ニ依リ兩卿(報告スヘキ豫算精算書式)ノ儀ハ本年兩省シ第七拾貳號達ニ準シ調製シ計表并説明書相副ヘ可差
出此旨相達候事

但明治十四年兩省シ第二十七號達ハ廢止ス

○地方税豫算議案精算報告書式中戸數割記載方 十六年二月九日
内務省達シ第五號府縣(函館沖繩札幌根室四
縣ヲ除ク)
(大藏卿連署)

客歲シ第七十二號ヲ以テ地方税豫算議案并精算報告書式相達候處戸數割ニ於テ等級課額ヲ設クル時ハ該議案中ヘ記載ス
ル儀ト心得可シ此旨更ニ相達候事

○營業鑑札下附及鑑札費支辨方 十二年四月四日
内務大藏兩省達シ第七拾七號府縣

客年第三拾九號公布中各業ノ者ハ鑑札下附候儀ハ不苦ト雖正鑑札料手數料等ハ收入不致儀ト可相心得此旨相達候事
但鑑札下附之費用ハ警察上ヨリ下附スルモノハ警察費ヨリ支辨シ收稅上ヨリ下附スルモノハ地方税中費ヨリ支辨可

致儀ト可相心得事

○官用ノ船舶車馬ヘ地方税ヲ賦課スルヲ得ス 十五年十月廿八日
内務大藏兩省達シ第七拾五號府縣(函館沖繩札
幌根室ノ四
縣ヲ除ク)

官用ノ船舶車馬ヘハ明治十六年度以降地方税ヲ賦課スルヲ得サル儀ト可心得此旨相達候事
但從前ノ達及指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○皇族所有ノ車馬ヘ地方税ヲ賦課スルヲ禁ス 十六年六月九日
内務大藏兩省達シ第三拾號府縣(函館札幌根室
沖繩四縣
ヲ除ク)

皇族所有ノ車馬ヘハ明治十六年度以後地方税賦課不相成候條此旨相達候事

○貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金賦課編入及警察機密費檢査費支辨方 二十一年八月七日
内令第十二號
(二十一年十一月十六日閣令第
廿八號ヲ以テ割註ヲ削除ス)

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ地方税雜收入ニ編入スヘシ
警察機密費 高等警察ニ屬ス
ルモノヲ除ク
ハ警察費中ノ一科目トシ檢査費ハ衛生病院費中ノ一科目トシ地方税ヨリ支辨スヘシ

○地方税經濟ニ關スル樹木拂下處分方 二十年七月九日
内務省訓令第四十號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

地方税經濟ニ屬スル樹木拂下ノ儀ハ自今其處限リ處分シ翌年二月二十日ヲ發送期限トシ當省ヘ報告スヘシ

○府縣管理ニ管スル飲用水道及公葬墓地維持保存方法經費徵收方法等届出方 二十年十月十
日
内務省訓
令第四十
四號府縣

府縣管理ニ係ル公園飲用水道及公葬墓地ノ維持保存方法經費徵收方法及其所屬現在ノ建物種類 總瓦葺家石造 軒取等取調
本年十二月限リ届出仍ホ將來之ヲ變更増減スルコトアルニ於テハ其都度可伺出經費ノ儀ハ收出豫算並精算共毎年 豫算ハ
一月限リ精算ハ 當省ヘ報告スヘシ
翌年度九月限リ

○郡區吏員給料殘額據置不苦達ヲ廢ス 二十二年二月十六日 内務省訓令第四號府縣(沖繩縣ヲ除ク)(大藏大臣連署) 郡區吏員給料殘額ノ備據置不苦旨相違置候府縣モ有之候處右ハ二十二年度限リ廢止候條二十二年度及累年ノ殘額ハ翌々 年度ノ雜收入ニ編入セラルヘシ

○所有地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサル時地租地方稅等ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ戸長 役場へ届置方(第一章租稅總 則ノ部ニ載ス)

○耕地ノ用水溜池等耕作ノ分ハ地方稅ヲ課セス(八年八月太政官達第百四十六號第三 類第一章地所名稱區別ノ部ニ出ス)

○公立農學校所有ニシテ實驗用ニ供スル地所ハ地租ノ地方稅ヲ免ス(十六年十二月第四十四號布告 第七類第一章諸學校通則ノ部 ニ出ス)

●沿革要領

明治八年十月第百五十六號布告ヲ以テ地租改正後地所ニ課スル區費ハ市街地モ地租三分ノ一ヲ限リトス○十年一月 第二號布告ヲ以テ今般地租減額ニ付地所ニ課スル民費ハ正租五分ノ一ヲ以テ限トス○十一年七月第十九號布告ヲ以 テ從來府縣稅及民費ノ名ヲ以テ徵收セシ府縣費民費ヲ改メ地方稅トシ地方稅規則ヲ定ム○同年十二月第三十九號布 告ヲ以テ地方稅規則中營業稅雜稅ノ種類及制限ヲ定ム○十三年四月第十六號布告ヲ以テ十一年第十九號布告地方 稅規則ヲ改正ス○同月第十七號布告ヲ以テ十一年第卅九號布告地方稅中營業稅雜稅ノ種類及制限ヲ改正ス○同年 五月第廿七號布告ヲ以テ東京府地方稅取扱方ヲ定ム○二十年十月勅令第四十八號ヲ以テ府縣立醫學校費用ハ地方稅 ヲ以テ支辨セシム○二十一年八月閣令第十二號ヲ以テ貸座敷引手茶屋類ノ賦金ヲ地方稅ニ編入シ警察機密費檢數 費ヲ地方稅ヨリ支辨セシム

○府縣稅徵收法二十三年九月三十日 法律第八十八號

府縣稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第八十八號

府縣稅徵收法

第一條 市町村ハ其市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スルノ義務アルモノトス

地租割外ノ府縣稅ニ對シテハ其徵收金額ノ百分ノ四ヲ徵收費用トシテ其市町村ニ交付ス

ヘシ但東京市京都市大阪市ハ此限ニ在ラス

第二條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第三條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ其責任免除ヲ府

縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第四條 府縣知事ハ前條ノ訴願ヲ受ルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ責任ヲ免除スルコトヲ得

第五條 府縣稅ヲ徵收スルトキハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ハ市町村ニ對シ徵

稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ交付スルモ

ノトス

第六條 市長ニ於テ收入命令ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ徵稅令書ヲ直チニ各納稅人ニ

交付スルコトヲ得

第七條 隨時徵收ノ府縣稅ハ府縣知事又ハ委任ヲ受ケタル命令者ニ於テ直チニ各納稅人ニ

徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

第十一類 第一章 府縣稅徵收

第八條 徵稅傳令書ヲ受ケタル各納税人及徵稅令書ヲ受ケタル市ノ各納税人ハ税金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ニ其領收證書ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス
市町村ハ其徵收シタル税金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ義務ヲ了ルモノトス
第七條ニ依ル各納税人ハ税金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

第九條 納税人他ノ負債ニ依リ身代限ノ處分ヲ受クルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモアルトキハ國稅徵收法第十四條第十五條ノ例ニ依リ國稅ニ次テ府縣稅ヲ徵收スヘシ
第十條 國稅若クハ市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財産ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ市町村稅ニ先タチ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十一條 府縣稅納稅義務ノ期滿免除ハ國稅ノ例ニ依ル
第十二條 町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ町村ノ爲スヘキ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十三條 此法律ニ關スル細則ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事之ヲ定ムヘシ
第十四條 府縣制施行ニ至ル迄ノ間ハ此法律ハ地方稅ノ徵收ニ適用ス
第十五條 此法律ハ明治二十四年度所屬ノ徵稅ヨリ之ヲ施行ス

○備荒儲蓄法 十三年六月十五日 布告第三十一號
備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度 明治十四年 一月一日 ヨリ施行候條明治八年七月 第百二十二號 違察

民一時救助規則及同十年九月第六十二號布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

(別紙)

備荒儲蓄法

第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租分_{國稅ノ部}ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條 備荒儲蓄金ヲ分ツテ中央儲蓄金府縣儲蓄金ノ二トス(二十三年二月法律第五號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

中央儲蓄金ハ明治二十二年度迄ノ中央儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス

府縣儲蓄金ハ明治二十二年度迄ノ府縣儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス(上同)

第三條 中央儲蓄金ハ國庫ニ備置キ大藏大臣之ヲ管理シ府縣儲蓄金ノ補助ニ充ツヘキモノトス(上同)

第四條 府縣儲蓄金ノ管守支給及ヒ利殖ノ方法ハ府縣知事之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取り内務大藏兩大臣ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ(上同)

第五條 削除(同上)

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金百分ノ五以上ヲ供用支出スルハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ(同上本條中改正)

第八條 従前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行セル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條 各府縣内儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ検査スヘシ

第十條 府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ出納決算ヲ翌年度通常府縣會ノ初メニ於テ府縣會ニ報告シ仍ホ内務大藏兩大臣ニ報告スヘシ(同上本條改正)

大藏大臣ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納決算ノ要領ヲ告示スヘシ

第十一條 此方法ハ貳拾ヶ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

附則

本法改正ノ爲メ府縣儲蓄金明治二十三年度内ニ於テ施行スヘキ利殖ノ方法ヲ定メ及ヒ收入豫算又ハ管守支給ノ方法ニ改正ヲ要スルトキハ府縣知事ハ常置委員會ニ付シ之ヲ議決セシムルコトヲ得(同上追加)

○中央備荒儲蓄金運用ノ件二十三年四月三十日法律第三十三號

朕米穀供給ノ爲メ中央備荒儲蓄金運用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第三十三號

政府ハ國內米穀供給ノ爲メ必要アルトキハ中央備荒儲蓄金ヲ以テ米穀購入ノ資金ニ運用スルコトヲ得此場合ニ於ケル損益ハ中央備荒儲蓄金ノ負擔トス

○備荒儲蓄法當分沖繩縣ヘハ施行セス十三年七月二十八日大政官達第三拾九號府縣

本年六月第三拾壹號布告備荒儲蓄法ノ備ハ當分沖繩縣ヘハ施行ニ及ハス就テハ該縣ヘ配付スヘキ補助金ノ備ハ各府縣ヘ配付候條此旨爲心得相違候事

○備荒儲蓄金ニ關シ不服アリテ出訴方十五年十二月二十八日布告第七十四號

備荒儲蓄金及區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○明治十五年五月布告第二十二號課稅ニ係ル不服出訴方(第一章租稅總則ノ部ニ載ス) 則ノ部ニ載ス) 二十二年十二月二十八日
○地方稅及備荒儲蓄金滯納者處分法 法律第三十三號
朕地方稅及備荒儲蓄金滯納者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第三十三號

地方稅及備荒儲蓄金ヲ滯納スル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ但備荒儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ル者ハ備荒儲蓄金ヲ免除スヘシ

明治十三年十一月第五十號布告ハ廢止ス

○公儲金ヲ免除スルハ罹災ノ年度ニ限ル 十六年四月十三日 內務大藏兩省達シ第拾五號府縣函館沖繩札幌根室

四縣ヲ除ク)

明治十三年十一月第五拾號布告但書ニ依リ公儲金ヲ免除スルハ其罹災ノ年度ニ限ルヘキ儀ト心得ヘシ此旨相違候事

但從前ノ令達之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○備荒儲蓄金取扱順序 二十三年三月十四日 大藏省訓令第三十四號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

備荒儲蓄金取扱順序明治二十三年度以降左ノ通心得ヘシ

改正見合

但收支科目及報告書式ハ別ニ頒ツ (書式略ス)

備荒儲蓄金取扱順序

第一條 備荒儲蓄法第四條ニ因リ府縣儲蓄金ノ管守支給及利殖ノ方法ヲ定メ許可ヲ得タルトキハ府縣知事ハ該年度ノ收支概計書 別紙第一號)ヲ製シ大藏大臣ヘ差出スヘシ

改正見合

第二條 府縣儲蓄金ノ內現金ヲ銀行等ヘ預ケ入ヲナストキハ其金額ニ對スル抵當ヲ要スヘキハ勿論其抵當ハ公債證書ヲ取置クヘシ

第三條 地租ノ貸與金ヲ受タルモノ不慮ノ災害ニ遭遇シ返納シ能ハサルトキハ之ヲ猶豫シ又ハ免除スルノ方法ヲ設ケン トスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第四條 地租ノ貸與金ヲ受タルモノ其返納年限內ニ於テ利引ヲ以テ一時上納ナサシムル爲メ該府縣儲蓄金利率平均ノ分 合ニ準シ利引ノ方法ヲ設ケン トスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

改正見合

第五條 米穀貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及借庫料番人給料等ニ係ル諸費用 郡市町村吏旅費ノ如ク 米穀公債證書ノ賣買 等ニ關スル諸雜費及損失ヲ府縣儲蓄金ノ內ヨリ支辨スルノ方法ヲ設ケン トスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第六條 備荒儲蓄法第七條ニ因リ府縣儲蓄金ノ百分ノ五前年度ヨリ越高(貸付金ハ其年返納スヘキ額ヲ除算ス)及 以上ヲ 供用支出セントスルトキハ豫メ災害ノ景況及救助額ノ概算ヲ內務大藏兩大臣ニ具狀シ中央儲蓄金ノ補助ヲ請求スヘシ 此場合ニ於テハ時トシテ內務大藏兩省ノ官吏ヲ派遣シ實際ヲ查閱スルコトアルヘシ

第七條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタルトキ府縣知事ハ其願末ヲ管下ヘ告示スヘシ

第八條 凡府縣儲蓄金ノ出納ハ每半期報告書 別紙第二號)ヲ製シ上半期ハ十月中下半期ハ翌年四月中其地ヲ發シ大藏大臣ヘ差出スヘシ

改正見合

第九條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納簿 現金米穀公債證書等ノ受及內詳簿 現金米穀公債證書ノ所在ヲ分チ或ハ收 入帳簿ヲ製シ置キ常ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシムヘシ

第十條 備荒儲蓄法第十條ニ因リ府縣儲蓄金ノ精算報告書 別紙第三號)ヲ製シ府縣會ヘ報告ノ後內務大藏兩大臣ヘ差出 スヘシ

第十一條 大藏大臣ハ官吏ヲ派遣シ每歲又ハ臨時ニ府縣儲蓄金或ハ貯積米ヲ檢查セシムヘキニ因リ府縣知事ハ現金預ケ 金及米穀ノ所在報告書 別紙第四號)ヲ製シ每年四月中ニ大藏大臣ヘ差出スヘシ

第十二條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ檢查ハ大藏省派出官吏ノ便宜ニ因リ府縣知事ヘ通牒セス直ニ其所在ニ就キ檢查スル 第十一類 第一章、備荒儲蓄法 二百二十九

コトアルヘシ尤此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏大臣ノ命令書ヲ携帶スルモノトス

○中央備荒儲蓄金會計規則 二十三年五月十二日 勅令第七十七號

朕中央備荒儲蓄金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十七號

中央備荒儲蓄金會計規則

第一條 左ノ諸收入ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳入トス

第一 預金利子

第二 米穀賣拂代

第三 雜收入

第二條 左ノ諸支出ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳出トス

第一 府縣備荒儲蓄金補助

第二 米穀購入代

第三 米穀運送費

第四 糶摺及搗精費

第五 米穀保存及取扱費

第六 藏敷料及諸手數料

第三條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト

共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第四條 大藏大臣ハ其年三月三十一日現在ノ中央備荒儲蓄金高明細表ヲ調製シ毎年度ノ

豫定計算書ニ添付スヘシ

第五條 收入官吏ハ歳入ヲ收納スルトキハ中央備荒儲蓄金ノ寄托トシテ直ニ之ヲ預金局

ニ拂込ヘシ

第六條 大藏大臣ハ府縣ノ備荒儲蓄金補助トシテ中央備荒儲蓄金ヲ支出セントスルトキ

ハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄托金ヲ支出セシメ之ヲ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第七條 大藏大臣ハ米穀ノ賣買保存ニ關スル費用ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局

ニ下シ寄托金ヲ支出シ之ヲ主任官吏ニ交付セシメ主任官吏ヲシテ仕拂ヲ執行セシムヘ

シ

第八條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收

入未濟トシテ順次翌年度へ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第九條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ支出ノ請求ナキモノハ支出

未濟トシテ其定額ヲ順次翌年度へ繰越シ支出ノ請求アル毎ニ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ

第十條 米穀ヲ購入スルニ當リ臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ル

コトヲ得

第十一條 入札ノ方法ヲ以テ米穀ヲ賣却スルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ三日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第十二條 收入官吏任拂官吏及物品會計官吏ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送附スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第十三條 本規則ニ掲ケサル中央備荒儲蓄金會計ノ規程ハ總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

○所有地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサルトキ地租地方稅等ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ戸長役場ヘ届置方(本類第一章租稅總則ノ部ニ載ス)

第二章 地租 所得稅 水產稅 酒、醬、麴、醬油稅 菓子、烟草、賣

藥稅 船、車、牛馬賣買稅

○減租ノ詔書十年一月四日 布告第一號

今般地租ノ儀別紙詔書ノ通被仰出候ニ付テハ明治十年ヨリ地價百分ノ二分五厘ト被定候條此旨布告候事

詔書寫

朕惟フニ維新日淺ク中外多事國用實ニ費ラレス而シテ兆民猶ホ疾苦ノ中ニ在リテ未タ富庶ノ澤ヲ被ラサルヲ愍レニ憂ニ當稅法ヲ改正シテ地價百分ノ三トナシ偏重無カラシメントス今又親ク稼穡ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ念フ更ニ稅額ヲ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲サン有司宜ク痛ク歳出費用ヲ節減シテ以テ朕カ意ヲ贊クヘシ

明治十年一月四日

○地租條例十七年三月十五日 布告第七號

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年月第貳百七拾貳號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ(十九年第一號ヲ以テ函館札幌根室ノ三縣ヲ廢シ北海道總ヲ置ク)

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ(二十二年十一月二十九日法律第三十號ヲ以テ但書改正)

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田畑郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地、

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(同上本項改正)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地
形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及公衆ノ用

ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス(同上改正)

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ步ト爲シ三拾步ヲ畝ト爲シ
拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲

シ合ノ拾分壹ヲ勾ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス(同上)

第七條 地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ

修正セス(同上)

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス(同上全條改正)

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現
況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但質入ノ土地ハ其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

(同上)

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命
令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用

第十一類 第二章 地租

ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス(同上本項改正)

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合

ハ此限ニ在ラス(同上)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス(同上)

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ(同上)

前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出歟下年期ノ許可ヲ受

クヘシ歟下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認マル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内

ノ歟下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要ス

ルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價據置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 (同上)

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二

十年以内ノ繼年期ヲ許可ス(同上改正)

第十九條 歟下年期明地價據置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(同上)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

(同上)

海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以

下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地

目ニ復セズ他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム(同上)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期

ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス(同上)

第二十四條 川成、海成、湖水成、ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年

以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セズ他ノ地目ニ變セサルモノハ

川、海、湖、ニ歸スルモノトス(同上)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依

リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ二年以前ニ遡ルコトヲ得ス(同上但書改正)

第二十六條 第十一條ニ違反スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地

租

第十一類 第二章 地租

價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス(上同)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サハルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス(上同)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人、ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○地租條例施行細則 二十二年十二月二十九日
大藏省令第十九號

地租條例施行細則左ノ通定ス

地租條例施行細則

第一條 條例第三條中第二類牧場ハ牧畜用ノ土地ニシテ一區域ヲ爲ス土地トス

第二條 條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ

公立學校地ハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於テ實驗用ニ供スル五町歩以内ノ土地ニシテ借地ニ非サルモノニ限ル

鄉村社地ハ鄉村社ノ現境内ニシテ該社有ノモノニ限ル

禁伐林ハ明治十七年大政官布達第三號ニ據リ樹木斫伐停止ノ土地

鐵道用地ハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例第八條ノ土地

第三條 條例第五條ノ丈量ヲ爲スニ方リ尺度ノ用法ハ左ノ如シ

一間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分一ヲ分ト爲シ十分一ヲ分ト爲シ十分一ヲ分ト爲シ丈量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止メ其積算上ニ於テ一步未滿ヲ切捨テ可シ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿ナルモノハ勾位迄ヲ用ユ

市街宅地ノ丈量ハ厘位未滿ヲ切捨テ厘位ニ止メ其積算上ニ於テ一勾未滿ヲ切捨テ勾位ニ止ム

第四條 條例第六條ノ丈量ハ所有主之ヲ爲シ地方廳其當否ヲ検査ス但本條ノ場合ニ於テ一筆ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルトキハ其殘地若クハ全部ヲ丈量シ其二類地ニ係ルモノハ適宜之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 地盤ヲ丈量スルニハ三線法ヲ用ユ但山林原野等ハ其地形ニ因リ適宜ノ方法ヲ以テ丈量スルコトヲ得

第六條 田畑ハ陸畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ丈量ス

第七條 田畑ノ陸畔ニシテ其所有主自由ニ變更ス可キモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變更セサルモノハ之ヲ除却シ其歩數ヲ外書トス

畑宅地ノ一筆地ノミニ通スル道路及一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ量入ス

崖高ノ地其崖脚中ノ隙入ニ必要ナル本地ハ之ヲ土地ニ量入シ其崖脚ニシテ相當ノ收利アルモノハ之ヲ本地ニ量入シ若クハ別ニ一筆地トス

田畑宅地内ニ別地目ノ瑣少ナルモノ孕在スルトキハ之ヲ本地ニ量入シ内書トス

第八條 地價ヲ定メ又ハ修正ス可キ土地ハ所有主ニ於テ近傍類地ト其地力ヲ比較シ又實地ノ情況ニ依リ相當ノ地位等級ヲ調ヘ其願屆書ニ記入スルモノトス

前項ノ場合ニ在テ所有主多數ナルトキハ其所有主中ヨリ二名以上ノ總代人ヲ撰ミ調理セシムルコトヲ得

前項ノ地價ハ地方廳ニ於テ検査ノ上之ヲ定ム

第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ便宜検査ヲ爲シ五箇年以内ニ檢了スヘシ(二十四年三月三十一日大藏省令第六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第十條 條例第十三條第一項未段ノ土地ハ工事ニ着手セシ一筆地限リ其月ヨリ免租ス

第十一條 條例第十六條第二項ノ土地ハ同條第一項屆書ニ關聯着手ノ年月ヲ記載ス可シ

第十一類 第二章 地租

第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六項及第二十條年期ノ長短ハ其事業ノ難易被害ノ深淺ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 條例第十八條第二十一條第二十三條第二十四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十四條 條例第二十五條第二十六條第二十七條ノ追徵租額ハ犯罪懲罰ノ日即チ其月分ヨリ計算ス

第十五條 條例中地方廳へ差出ス可キ願屆書式ハ府縣知事之ヲ定ム

○地租條例及地租條例施行細則取扱方 大藏省訓令第七十六號府縣沖繩縣ヲ除ク

地租條例及地租條例施行細則取扱方左ノ通心得可シ

第一條 條例第三條ノ收場ニシテ從來敷地目ニ分割取調ヘタルモノハ訂正ノ手續ヲ爲サシム可シ但搾乳營業ノ爲メ敷類ヲ兼養スル場所ハ此限ニ在ラス

第二條 條例第十三條ノ禁伐林ニシテ既ニ其命令アルモノハ條例施行ノ月ヨリ其地租ヲ免除ス可シ

第三條 施行細則第四條ノ検査ヲ爲スニ方リ官ノ地圖ト實地トヲ照査シ其齟齬ナキヲ視認メタル上著手ス可シ (二十四年三月)

三十一日大藏省訓令第七十六號ヲ以テ本條中別除ス

第四條 (同上ニ依リ) 全條別除ス

第五條 (同上)

第六條 條例第二十條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ附與ス可キモノト視認ムルトキハ其狀況ヲ具シ當省へ稟議ス可シ (同上)

本條中別除

第七條 地盤ヲ丈量シタルモノハ其願屆書ニ丈量野取圖ヲ添附セシム可シ

第八條 條例第二十四條ノ荒地ニシテ川海湖ニ歸シタル土地アルトキハ地租租換ノ手續ヲ爲ス可シ

第九條 各地目中ニ包含セル現地名稱ハ土地發帳地目欄内本地目ノ傍ニ記入ス可シ

○地租徵收期限改正 法律第二號 二十四年三月十四日

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第二號

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス

但市街宅地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

一期 該年九月一日ヨリ 同九月三十日限 畑方及宅地山林原野牧場 五分

二期 該年十一月一日ヨリ 同十一月三十日限 同 五分

三期 該年十二月十六日ヨリ 翌年一月十五日限 田方 貳分五厘

四期 翌年二月一日ヨリ 同二月二十八日限 同 貳分五厘

五期 同三月三十一日ヨリ 同三月三十一日限 同 貳分五厘

六期 同五月三十一日ヨリ 同五月三十一日限 同 貳分五厘

○北海道地租納期ヲ改正ス 大藏省令第十二號 二十二年十月三日

北海道地租納期左ノ通改定ス

北海道地租納期

宅地及雜地

第一期 該年七月一日ヨリ 同八月三十一日限

五分

田畑鑛泉地池沼及山林原野

第十一類 第二章 地租

第二期 該年十月一日ヨリ
同十一月三十日限

五分
宅地及雜地

第三期 翌年一月十日ヨリ
同二月末日限

五分
田畑鑛泉地池沼及山林原野

第四期 翌年四月一日ヨリ
同五月三十一日限

五分

○買上地拂下地潰地等收稅除稅區分方ヲ定ム 十年二月十三日 布告第十八號

地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他潰シ地トナス時ハ工事著手ノ

月ヨリ除稅スヘシ一旦著手スルモ若シ工事中止シテ六ヶ月ニ及フモノハ工事ヲ施シ

タル部分ヲ除キ其中止間ハ除稅ノ限ニアラス(十五年布告第三十五號ヲ以テ全條改正)

但七ヶ月以上ニ涉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ區域ヲ定ムルモノト

○北海道地租當分地價百分ノ一二定ム 九年十二月二十八日 布告第六十一號

北海道地租ノ儀當分地價百分ノ一二相定候條此旨布告候事

○北海道開墾地地租免除ノ件 十二年六月二十八日 法律第十八號

朕北海道開墾地地租地方稅免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十八號

北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十一年迄特ニ地租地方稅ヲ免除ス其現ニ開墾年期中ノモノハ滿期ノ翌年ヨリ尙ホ十箇年間地租地方稅ヲ課セズ

○田畑地價特別修正 十二年八月二十六日 法律第二十二號

朕地租改正以來ノ實歴ニ徴シ此法律ニ指定スル府縣ノ田畑ニ限り地價低減ノ必要ヲ認メ地價ノ特別修正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第二十二號

第一條 田畑地價ノ特別修正ヲ爲スヘキ府縣國郡及其修正地價總額左ノ如シ(修正ヲ爲ス府縣國郡及其地價之ヲ署ス)

第二條 修正地價總額ニ依リ低減スヘキ市町村田畑ノ地價額ハ大藏大臣之ヲ定メ府縣知事ヲシテ達セシム

第三條 此法律ニ依リ地價ヲ低減シタル田畑ノ地租ハ明治二十三年分ヨリ其修正地價ニ依リ之ヲ徵收ス

○地租金ノ内田方代米納廢止ノ件 十二年九月二十六日 勅令第七號

第十一類 第二章 地租

計	入組地漏選				計	地價低規新				
	田					田				
	計	田	計	田		計	田	計	田	
					△	五八二七	廿五年迄	六ヶ年		明治何年低價地増減表
					△	六四一〇	廿四年迄	五ヶ年		
					△	一八九二	廿三年迄	四ヶ年		

計	地荒	成地有官		計	置据儘ノ價低及明期價低							
	田	計	田		田							
	計	田	計		田	計	田					
							△	五	六四二七	十三年ヨリ	七ヶ年	何府縣
							△	九	七二八	十四年ヨリ	六ヶ年	
							△	四	一三〇二	十五年ヨリ	五ヶ年	

右之通候也

年 月 日	合 計	正訂認誤			入組地漏選			換	
		計	田		計	田		計	田
									△

年 月 日	合 計	成地潰		成地有官		正訂認	
		計	田	計	田	計	田

主稅局長宛

收稅長印

合 計	正 訂 謬 誤				入 組 漏 遺				換
	計	田			計	田			計
									△
合 計	正 訂 謬 誤	成 地 潰		成 地 有 官		成 地 荒		換	
計	計	田		計		田		計	
								△	

右之通候也

年月日

主税局長宛

收税長印

改正通録
見合

○地租ニ關スル諸帳簿様式 二十三年二月二十日
大藏省訓令第十號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
明治十七年^{十二} 常省第八十九號達地租ニ關スル諸帳簿様式別冊ノ通更正ス
別冊ハ當省主税局ヨリ之ヲ送付ス。(別冊略ス)
但新設帳簿ノ外ハ現存帳簿ノ使用ヲ終リ新規調製ノ際ヨリ本様式ニ據ルヘシ

改正通録
見合

○變換地臺帳更正ス 二十四年二月十日
大藏省訓令第八號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
明治二十三年大藏省訓令第十號別冊中第十號第十一號變換地臺帳別紙ノ通更正第十二號續下年期ヲ付與セサル開墾地臺
帳様式(別紙)ノ如ク凡例ヲ追加ス
但別紙ハ主税局ヨリ送付ス(別紙略ス)

○變換地取扱方 二十三年十一月四日
大藏省訓令第四百四十三號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
地租條例第十條變換地取扱方左ノ通心得ヘシ
一 地目若クハ地類ヲ變換シタル旨届出ツルモノアル時ハ直チニ其變換セシ地目ヲ土地臺帳元地目ノ傍ニ朱字訂正シ元ト
段別地價地租ヲ其變換セシ地目ニ組替フヘシ
一 前項ノ場合ニ於テハ其變換ヲ登記所ニ通知スヘシ
一 修正地租徵收ノ年度ニ於テ舊ニ訂正セシ地目及ヒ修正地價地租ヲ土地臺帳ニ其記載式ニヨリテ訂正シ其修正段別地
價地租ノ増減額ノミニ二十三年當省訓令第二十九號第一號様式ノ四表ニ編入スヘシ但地類變換モ本文ノ例ニ依ル
一 前項ノ場合ニ於テ元段別ニ對シ其段別ニ増減アル時ハ其旨登記所ニ通知スヘシ

○北海道地方稅ノ徵收ニ係ル納入告知方 二十四年三月十三日
大藏省訓令第十五號北海道廳金庫出納役
第十一類 第二章 地租
二百五十一

北海道地方税ノ徵收ニ係ル納入告知書ハ他ノ歳入金ト區別スルタメ「北海道地方税」ノ印ヲ押捺シテ發行スヘシ
北海道地方税ニシテ納入告知書ニ記載アル納期ヲ經地シ督促令狀發付以前ニ於テ該税金ヲ上納セントスル者アルトキハ
明治二十三年當省訓令第四十三號及第百三號ニ準シ取扱フヘシ

但本文ノ順序ヲ經タルモノニアラサレハ金庫ハ領收ヲ拒絶スヘシ

○官有ノ水面ヲ埋立テ開墾ヲナサントスルモノ 鐵下年期附與方等 十七年四月廿四日 大藏省達第貳拾四號府縣

(函館沖細札岬 根室縣ヲ除ク)

官有ノ水面ヲ埋立テ開墾ヲ爲セントスルモノハ該埋立ヲ竣成シ民有地ニ編入ノ處分ヲ經タル土地租條例ニ定ムル所ノ開
墾鐵下年期ヲ附與候儀ト可相心得此旨相達候事

○所有地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサルキ地租地方税等ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ戸長
役場へ届書方(本類第一章租税 總則ノ部ニ載ス)

○一類地ニシテ段別地目ヲ異ニスル者分裂合併ノ場合ニ於テ段別定メ方 十九年十一月二十
五號大藏省訓令第
五十六號府縣沖
繩縣ヲ除ク)

一類地ニシテ荒地成濱地成地目變換其他段別地目ノ異動ニ係ルモノ、一筆中分裂合併又ハ二筆以上合併ヲ爲ス場合ニ
於テハ其分裂ニ係ルモノハ殘地ヲモテ量シ合筆ニ係ルモノハ全部ヲ丈量シテ段別ヲ定ムヘシ

○島廳郡役所ニ關スル地租事務取扱手續 二十二年三月二十九日 大藏省訓令第十五號府縣沖繩縣ヲ除ク)

島廳郡役所ニ關スル地租事務ハ左ノ手續ニ從ヒ取扱ハシムヘシ
但府縣廳ニ於テ本項ノ事務ヲ取扱フ者モ此手續ニ依ルヘシ

島廳及收稅部出張所地租事務取扱手續(二十二年六月二十日大藏省訓令 第四十五號ヲ以テ改正)

第一條 地租ニ關スル願届書ハ其筆限字番號地目段別等級地價地租及所有者氏名ヲ土地謄帳及地圖ニ照查シ主任官ニ
檢印シ處分ノ手續ヲ爲スヘシ(同上至 條改正)

地租ニ關スル定期及臨時檢査ハ既定ノ手續ニ從ヒ收稅部出張所ニ於テ取扱ハシムヘシ但島廳所轄ニ係ルモノハ從前ノ
通

削除追録
見合

第二條 土地ノ分合筆ニ關スル願書ニシテ段別地價ノ分配合併其當ヲ得ル者ハ收稅部出張所ニ於テハ其處分ノ手續ヲナ
シ島廳ニ於テハ直ニ之ヲ許可スヘシ(同上)

第三條 前二條ノ指令書ハ市町村長ヲ經テ下附ノ手續ヲ爲シ直ニ土地謄帳地圖及地租謄帳ヲ整理スヘシ(同上)

第四條 土地所有ノ移轉又ハ質入及其解約ニ係ル登記所ノ通知ヲ得タルトキ竝ニ住所氏名異動ノ届出ヲ得タルトキハ直
ニ土地謄帳ヲ訂正スヘシ

第五條 前條ノ訂正ヲ經タルモノハ納期毎ニ納租者異動表ヲ作り各納期三十日以前之ヲ市町村長ニ通報スヘシ其以後納期
末日迄ニ係ル者ハ其時々之ヲ通報スヘシ

第六條 土地謄帳ノ謄本ヲ請フ者アルトキハ即日之ヲ下付スヘシ

第七條 地租ノ前年ニ遡リ徵收スヘキ者ハ明治十七年當省第八十九號達地租帳簿様式第一號付屬表ニ準シ追加地租謄帳
ヲ調製シ之ニ記入スヘシ

第八條 毎年一月ニ於テ土地謄帳總計上ニ就キ前年中ノ異動ヲ加除シ之ヲ地租謄帳ニ照合シ明治二十年當省訓令第五十
號租稅計算整理順序付屬第一號一乃至四ノ様式ニ準シ地租表ヲ調製シ二月十五日限リ府縣知事ニ申報スヘシ但地租追
加ニ係ルモノモ本表ト共ニ申報スヘシ(同上)

第九條 明治元年八月諸國ノ稅法ハ先ツ舊實ニ仍ラシメ租稅收納方等ノ手續ヲ定ム○五年八月第百廿二號布告ヲ以テ田畑
貢米ハ勿論雜稅米ニ至ル迄金納ヲ許シ上納期月ヲ定ム○六年七月第百七十二號布告ヲ以テ地租改正條例及地租改
正施行規則ヲ定メ地租ヲ改メテ地券ニ記スル地價百分ノ三ト爲ス○七年五月第百五十三號ヲ以テ前令ニ第八章ヲ追加
シ地租改正後五ヶ年間ハ當初定メタル地價ニ依リ收稅スヘキ旨ヲ布告ス○八年八月第百五拾四號達ヲ以テ明治九年

第十一類 第二章 地租

沿革要領

明治元年八月諸國ノ稅法ハ先ツ舊實ニ仍ラシメ租稅收納方等ノ手續ヲ定ム○五年八月第百廿二號布告ヲ以テ田畑
貢米ハ勿論雜稅米ニ至ル迄金納ヲ許シ上納期月ヲ定ム○六年七月第百七十二號布告ヲ以テ地租改正條例及地租改
正施行規則ヲ定メ地租ヲ改メテ地券ニ記スル地價百分ノ三ト爲ス○七年五月第百五十三號ヲ以テ前令ニ第八章ヲ追加
シ地租改正後五ヶ年間ハ當初定メタル地價ニ依リ收稅スヘキ旨ヲ布告ス○八年八月第百五拾四號達ヲ以テ明治九年

ヲ以テ一般地租改正ノ期限トス○九年一月第三號布告ヲ以テ地租金歩通リヲ以テ收納ノ方法ヲ廢シ地租徵收期限ヲ六期ト定ム○同年五月第六十八號布告ヲ以テ地租改正ノ際一郡内等ノ一部分ノミ私見ヲ張リ適當ノ地價ニ承服セサル者ハ近傍類地等ノ比準ヲ取り處分セシム○同年十二月第六十一號布告ヲ以テ北海道地租ハ當分地價百分ノ一ト定ム○十年一月第一號布告ヲ以テ地租ヲ減シテ地價百分ノ二分五厘トス○同月第八號布告ヲ以テ民有荒地處分規則ヲ定ム○同年二月第十八號布告ヲ以テ地租改正後買上地拂下地遺シ地等ノ收稅除稅ノ區分方ヲ定ム○同年七月第五十三號布告ヲ以テ地租徵收期限ヲ改定ス○同年九月第六十二號布告ヲ以テ凶穰租稅延納規則ヲ定ム非常ノ天災ニ罹リ事實難澁ノ村方ハ當分割賦延納ヲ許ス○同年第八十號布告ヲ以テ地租ノ内田方ニ限リ半額代米納ヲ許ス○十三年五月第二十五號布告ヲ以テ七年第五十三號布告地租改正後五ヶ年間據置ノ地價ハ尙ホ十八年迄據置收稅セシム○同年六月第三十一號布告ヲ以テ備荒儲蓄法ヲ定メ十年第六十二號布告凶穰租稅延納規則ヲ廢ス○十四年二月第十四號布告ヲ以テ地租徵收期限ヲ改定ス○十五年七月第三十四號布告ヲ以テ脫稅ノ爲メ土地ヲ欺隱スル者ノ處分方ヲ定ム○十七年三月第七號布告ヲ以テ地租條例ヲ制定シ六年第七十二號布告地租改正條例及地租ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノヲ廢ス○廿二年三月法律第十三號ヲ以テ地券ヲ廢止シ地租ハ土地膏腴記名者ヨリシテ徵收セシム○同年六月法律第十八號ヲ以テ北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタルヲ明治二十二年ヨリ三十一年迄特ニ地租地方稅ヲ免除ス○同年八月法律第二十二號ヲ以テ田畑地價特別修正ヲ爲ス○同年九月勅令第七號ヲ以テ地租金ノ内田方ノ代米納ヲ廢止ス○同年十一月法律第三十號ヲ以テ地租條例中ヲ改正ス○二十四年三月法律第二號ヲ以テ地租徵收期限ヲ改ム

○隱田切開地添地處分方 九年五月十二日 布告第六十七號

隱田切開地添地等ノ儀ニ付テハ明治五年九月大藏省第百貳拾六號布達地券渡方規則中第二十一條及明治六年九月第三百十五號ヲ以及布告候趣モ有之候處更ニ左ノ通被相定候條此旨布告

候事

第一條

(十七年三月地租條例發布ニ付本條並但書共消滅ス) 同上ニ付本條消滅ス

第二條

第三條

官簿ニ記載アル地并記載ナシト雖モ從來官山官林用地附屬地等ノ證アル地ヲ私ニ田畑宅地等ニ侵墾セシモノ此布告以前ニ係ルモノハ該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ其者ヘ素地相當代價ヲ以可拂下其民有トナシ難キモノハ直チニ返地セシメ事情ニヨリテハ更ニ借地差許ス儀モコレアルヘシ

第四條

前條侵墾地地租改正濟後ニ至リ發覺スルモノ及此布告以後ニ係ル侵墾地ハ渾テ律ニ照シ處分スヘシ

第五條

前條ノ地ハ舊藩縣ヨリ開墾願濟ノ分タリ未タ地代金ヲモ納メスシテ未著手ノモノハ直ニ返地セシメ其民有地トシテ差支ナキモノハ更ニ相當代價ヲ以其者ヘ可拂下其地代金ヲ納メス已ニ著手スルモノハ直ニ其者ノ所有ト定ムヘシ

第六條

凡ソ民有ニアラサル地ヲ私ニ賣買或ハ質入トナス者此布告以前ニ係ル分地租改正濟迄ニ申出ルモノハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ賣買并流質地共買得者及質取主ヘ其儘無代價ニテ下渡其民有地トナシテ差支アルモノ并質地年限中ノモノハ官有地ニ編入スヘシ此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論律ニ照シ處分スヘシ

○田畑石高ノ稱ヲ廢シ反別ヲ以テ換用ス

六年六月八日 布告第百九十四號

田畑石高ノ稱ヲ廢シ總テ反別ヲ以テ換用候條此旨相違候事

●沿革要領

明治五年二月大藏省第二十五號布達ヲ以テ地券渡方規則ヲ定メ規則中廉落殘歩等處分方ヲ掲ク○六年九月第三百十五號布告ヲ以テ前令撤スル處ノ明條ヲ廢シ廉落殘歩等改正後ニ至リ露顯スル時ハ欺隱田糧律ニ照シ刑ニ處セシム○九年五月第六十七號布告ヲ以テ隱田切開切添地等ノ處分方ヲ定ム

○所得稅法 二十年三月十九日 勅令第五號

朕所得稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五號

所得稅法

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムヘシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前二箇年間平均高ヲ以テ算出スヘシ但シ所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費、傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級	所得金	稅率
第一等	所得金高三萬圓以上	百分ノ三
第二等	所得金高貳萬圓以上	百分ノ二半
第三等	所得金高壹萬圓以上	百分ノ二
第四等	所得金高千圓以上	百分ノ一半
第五等	所得金高三百圓以上	百分ノ一

第十一類 第二章 所得稅

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セズ

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調查委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

調查委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條 調查委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調查委員ノ選舉人被選人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調查委員及補缺員ヲ選舉スヘシ

第十一條 調查委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤

ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調查委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其違ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添へ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此

第十一類 第二章 所得稅

二百五十九

場合ニ於ケルモ其税金ハ違フ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其逋稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲ササル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限リ七月三十一日迄ニ差出スヘシ

○市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件法律第十四號

朕市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十四號

市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得稅法第六條ノ届書ハ町村ニ於テハ町村長ヲ經テ郡長ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ之ヲ差出シ第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄内及市ニ東京市、京都市、大阪市ハ區ニ置キ其區域内ニ於テ之ヲ選舉シ第九條ノ調査委員ノ選舉人被選舉人ノ現住ハ調査委員會設置區域内トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ市ニ東京市、京都市、大阪市ハ區ニ郡長ハ町村ニ若干名ノ選舉人ヲ定メ第十七條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ第二十條ニ依リ處分スヘシ又第十三條第十四條第十五條第二十三條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘシ但第十五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

○所得稅施行細則 二十年五月五日
大藏省令第八號

所得稅施行細則左ノ通相定ム

所得稅施行細則

- 第一條 戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納稅スヘキモノトス
- 第二條 稅法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三年平均若クハ月平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス
- 第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ
- 第四條 稅法第六條ノ屆書ハ第一號書式ニ依ルヘシ
- 第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ(戶長)ヲ經テ郡(區)長ニ届出此稅法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ
 - 一 此稅法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者
 - 一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此稅法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者
- 第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ
- 第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ附スヘシ
- 第八條 納稅者他ノ郡區役所管轄内ニ轉居セントスル片及ヒ轉居シタル片ハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ
- 第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タルトキハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノノ所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ

第十二條 調査委員會及ヒ調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知事ノヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル事故アルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十日マテニ之ヲ達スヘシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ劃シ毎部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事ノヲ査定スヘシ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半数出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ送付シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス

附則 本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ(二十年九月十五日大藏省令第三十三號ヲ以テ本項ヲ改正ス)

(書式第一號) 所得金高届
△稅法第二條第一項ノ所得金ハ公債證券株券貸金簿給其他共稅法ノ掲記ニ從ヒ各別項ニ記スルヲ要ス
何々ノ利息又ハ利益配當金又ハ何々

一 金何圓
第十一類 第二章 所得稅

一金何圓 貸金ノ利息
 △税法第二條第二項ノ所得金營業並ニ資産ノ種類ヲ別チテ之ヲ記スルヲ要ス但各種混同ニシテ所得ヲ分別シ難キモノハ之ヲ合記スヘシ其支店分店及ヒ居住地外ニ屬スルモノハ毎箇所ノ所得ヲ別項ニ記シ其所得アル町村名ヲ併記スヘシ若シ其所得混同スルモノハ之ヲ合記スヘシ又扣除スヘキ金額ハ外書トシテ各本項ニ掲ケタル種類ニ屬スル費用ニ係ルモノハミヲ記スヘシ
 何々ノ所得

外
 金何圓 何租何税區町村費備荒儲蓄金
 金何圓 製造品原質物代金商品原價
 金何圓 借地借家料何々借入料何々修繕料
 金何圓 租代肥代何々買入代金
 金何圓 雇人給料何々手當何々費
 金何圓 何々ニ係ル負債ノ利息

所得高計金
 右之通ニ候也

年月日

何府何郡何町居住(又ハ寄置)
 何縣何郡何町何誰納税管理人
 (若シ管理人ナルトキハ)
 何村
 何
 誰

郡長宛

(誓式第二號)

所得税納入地届
 △所得及扣除金ノ區分方ハ總テ第一號誓式ニ準據スヘシ
 一金何圓 何々ノ所得
 一金何圓 何々ノ所得
 外

金何圓 何々
 金何圓 何々
 小以金

所得高計金何圓

右ハ御所轄郡區内ノ所得金ニ有之候處税金ハ何縣何郡何町村ニ於テ合算ノ上相納候ニ付此段及御届候也

年月日

何府何郡何町居住(又ハ寄置)
 (若シ管理人ナルトキハ)
 何府何郡何町何誰納税管理人
 何村
 何
 誰

郡長宛

(誓式第三號)

第十一類 第二章 所得税

明治 年 何郡何町
 何等所得税金、〃〃〃〃 何 誰
 右所得税ノ等級金額頭書ノ通相定ム但之ヲ不當ト
 スルトキハ所得税法第十九條ニ據リ申出ヘシ
 年月日 何郡長 何誰 印

○市制施行地ニ於ケル所得税其他諸税等ニ關シ心得方 二十二年五月七日 大藏省令第七號

市制施行ノ地ニ於テハ所得税法施行ニ關シ府縣知事大藏大臣ノ認可ヲ受ケ若干名ノ臨時取調掛ヲ置キ所得税調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得
 市制施行ノ地ニ於テハ諸税ニ關スル當省令達告示中郡區長又ハ郡區役所トアルハ府縣知事又ハ府縣廳郡區及郡區役所所轄トアルハ東京市京都市大阪市ハ區、戶長又ハ戶長役場トアルハ市長又ハ市役所ト心得ヘシ
 町村制施行ノ地ニ於テハ諸税ニ關スル當省令達告示中戶長又ハ戶長役場トアルハ町村長又ハ町村役場ト心得ヘシ
 市制町村制施行ノ地ニ於テハ諸車ノ檢印ヲ請ハント欲スルトキハ市ニ於テハ府縣知事ニ町村ニ於テハ郡區長ニ申出ヘシ
 ○所得税納税者届出ノ書面誤謬訂正申立取扱方 二十一年七月九日 大藏省令第三十五號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)
 所得税納税者届出テタル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツルトキハ郡區長之ヲ審査シ其實明確ト認ムル者ニ限リ左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ
 第一項 調査委員會開會以前ニ申出ツル者ハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正セシムヘシ

第二項 届出ノ重複ニ涉レル者ハ調査委員會決議後ト雖モ郡區長ニ於テ之ヲ訂正スルコトヲ得
 第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後三條ノ者ハ所得税法第十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ

○北海道水産税則 二十年三月二十八日 勅令第六號

朕北海道水産税則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六號

北海道水産税則

第一條 北海道水産物營業人ハ此税則ニ從ヒ水産税ヲ納ムヘシ
 第二條 北海道廳長官ハ水産税ヲ徵收スル爲メ水産物營業人ノ組合ヲ定ムヘシ
 第三條 水産税ハ各組合水産物產出高價額百分ノ五ヲ以テ其組合一箇年ノ税額ト爲シ之ヲ各營業人ニ賦課スルモノトス
 第四條 此税則ニ於テ水産物トハ左ノ種類ヲ云フ

- 第一類
- 生鮭 ナマシシ
 - 生鮭 ナマササ
 - 生鮭 ナママス
 - 生鮭 ナマアサ
 - 生鮭 ナマシビ
 - 生鮭 ナマナギ
 - 生鮭 ナマカス
- 第二類
- 生鮭 ナマホツケ
 - 海馬 トホ

第十一類 第二章 水産税

魚鮓 魚干 魚鱈 魚鱈 魚鱈	乾身鮓 乾身鮓 乾身鮓	乾胴鮓 乾胴鮓 乾胴鮓	乾脊割鮓 乾脊割鮓 乾脊割鮓	乾外割鮓 乾外割鮓 乾外割鮓	乾二ツ割鮓 乾二ツ割鮓 乾二ツ割鮓	鮓 鮓 鮓
乾鮓 乾鮓 乾鮓	鹽鮓 鹽鮓 鹽鮓	鹽鮓 鹽鮓 鹽鮓	鹽鮓 鹽鮓 鹽鮓	鹽鮓 鹽鮓 鹽鮓	鹽鮓 鹽鮓 鹽鮓	鮓 鮓 鮓
乾海扇 乾海扇 乾海扇	乾牡蠣 乾牡蠣 乾牡蠣	昆布 昆布 昆布	細布 細布 細布	布海苔 布海苔 布海苔	若布 若布 若布	銀杏草 銀杏草 銀杏草

第五條 此稅則ニ於テ水産物營業人トハ第四條第一類ノ水産物ヲ採取スル者又ハ原品ニ勞カヲ加ヘテ第四條第二類ノ水産物ト爲ス者ヲ云フ

第六條 水産稅ハ明治十五年ヨリ同十七年マテ三箇年間ノ水産物產出高ヲ平均シ其三箇年間北海道ニ於テ該稅品拂下ヲ爲シタル代價ヲ平均シテ價額ヲ定メ其組合ノ稅額ヲ算出スルモノトス但明治二十年以後三箇年以上ヲ經過シ大藏大臣ニ於テ北海道ノ全部又ハ其幾分ニ就キ水産物既定ノ價額不相當ナリト認ムルトキハ更ニ既往三箇年間ノ產出高并其賣買相場ヲ平均シテ之ヲ改正スヘシ

第七條 第四條第一類ノ水産物ヲ以テ第二類ノ水産物ト爲ストキハ第二類ノ水産物ニ就キ課稅ス

第八條 水産物營業人トナラントスル者ハ水産物營業人ノ組合ニ加入スヘシ

第九條 水産物營業人組合ハ納稅委員ヲ置キ其組合ニ係ル納稅ノ事ヲ擔理セシムヘシ但納稅委員ニ關スル費用ハ其組合ノ負擔トス

前項納稅委員ハ組合會ニ於テ其會員中ヨリ之ニ充ツヘキ者若干名ヲ選舉シ其中ニ就キ北

海道廳長官之ヲ指定ス但納稅委員ハ三箇年毎ニ之ヲ改選スルモノトス(二十三年二月八日法律第八號ヲ以テ改正)

第十條 納稅委員ハ水産物營業人組合會ヲ開キ組合ノ稅額ニ對シ各自ノ負擔スヘキ稅金ヲ

評決セシメ郡區長ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム但營業人ノ組合會期其他本條ニ關スル手續ハ北

海道廳長官之ヲ定ム(同上本條中改正)

第十一條 (同上)

第十二條 (同上)

第十三條 第八條ノ組合ニ加入セシテ水産物ノ營業ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下

ノ罰金ニ處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徵ス

第十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十五條 水産稅ノ納期及此稅則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十六條 従前現品定稅ヲ徵收シ又ハ現品稅ヲ徵收セス若クハ無稅ニシテ明治十五年ヨリ

同十七年マテ三箇年間ノ產出高詳カナラサルモノハ當分其營業人各自ノ現產出高ニ就キ

第六條ノ稅品拂下平均代價ヲ以テ價額ヲ定メ其百分ノ五ヲ稅金トシ徵收スヘシ但明治二十年以後三箇年ヲ經過シタル上ハ大藏大臣ニ於テ本稅則ニ據リ改正スヘシ

第十七條 前條ノ營業人ニ關シ特ニ明文ヲ掲ケサルモノハ第十條ノ稅金ニ係ル事項ヲ除ク

ノ外總テ此稅則ニ從フヘシ

第十八條 第十六條ノ營業人ニシテ其水産物ノ産出高ヲ偽リ逃税シタル者ハ其逃税高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處シ其水産物ヲ没收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徴ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第十九條 明治十年第五十六號布告同十七年第四號布告同年第十二號布告及従前北海道物産税ニ關スル命令規則ハ此税則施行ノ日ヨリ廢止ス

○北海道水産税則施行細則 二十年四月十九日 大藏省令第六號

今般勅令第六號ヲ以テ北海道水産税則公布相成候ニ付施行細則左ノ通之ヲ定ム

北海道水産税則施行細則

改正追録

第一條 水産税ノ納期及ヒ其納額割合ハ左ノ如シ但組合會ノ評決ヲ以テ毎納期ノ納額割合ヲ繰上ケ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其繰上ケヘキ割合ヲ定メ郡區長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ(二十一年五月十日大藏省令第四號ヲ以テ但書七十字ヲ加フ)

渡島國 後志國 石狩國 石狩郡ヲ除ク 天鹽國 北見國 (同上省令ヲ以テ石狩國ノ下ヘ割註ヲ加フ)

第一期	六月一日ヨリ	六月三十日限リ	百分ノ四拾
第二期	八月一日ヨリ	八月三十一日限リ	百分ノ四拾
第三期	十月一日ヨリ	十月三十一日限リ	百分ノ七
第四期	十二月一日ヨリ	十二月三十一日限リ	百分ノ七
第五期	翌年三月一日ヨリ	翌年三月三十一日限リ	百分ノ六

膽振國 日高國 十勝國 釧路國 根室國 千島國 (石狩國石狩郡同上省令ヲ以テ石狩國石狩郡ノ六字ヲ加フ)

改正追録

第一期	六月一日ヨリ	六月三十日限リ	百分ノ五
第二期	八月一日ヨリ	八月三十一日限リ	百分ノ二十
第三期	十月一日ヨリ	十月三十一日限リ	百分ノ二十五
第四期	十二月一日ヨリ	十二月三十一日限リ	百分ノ二十五
第五期	翌年三月一日ヨリ	翌年三月三十一日限リ	百分ノ二十五

第二條 稅則第十六條ニ該當スル水産税ノ納期ハ左ノ如シ

第一期	三月一日ヨリ	三月三十一日限リ	産出シタル分	六月十六日ヨリ
第二期	五月一日ヨリ	五月三十一日限リ	産出シタル分	六月三十日限リ
第三期	七月一日ヨリ	七月三十一日限リ	産出シタル分	八月十六日ヨリ
第四期	九月一日ヨリ	九月三十日限リ	産出シタル分	八月三十一日限リ
第五期	十一月一日ヨリ	十一月三十日限リ	産出シタル分	十月十六日ヨリ
	翌年二月末日ニ至ル		産出シタル分	十月三十一日限リ
				十二月二十八日限リ
				翌年三月十六日ヨリ
				三月三十一日限リ

改正追録

第三條 收稅委員ハ稅則第十六條ニ該當スルモノ、外毎年水産物毎種類産出ノ終リタルトキ其組合ニ於テ産出ノ水産物總高並價額ヲ調査シテ取調書ヲ製シ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ届出ヘシ但其産出ノ季節ヲ限ラサルモノハ毎年四月九月ノ兩度ニ其前月マテノ總高ヲ取調フルモノトス

改正追録

第四條 稅則第十六條ニ該當スル水産物營業人ハ第二條期限内ニ産出シタル水産物ヲ一種類毎ニ取調毎期ノ翌月三日以內ニ其組合收稅委員ニ届出ツヘシ

第五條 收稅委員ハ第四條ノ届書ヲ調査シテ取調書ヲ製シ取調捺印ノ上毎期ノ翌月七日以內ニ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ届出スヘシ

第六條 郡區長ハ第五條ノ取調書ニ據リ稅則第十六條ニ該當スル水産物營業人ノ納稅額ヲ算出スヘシ但三ヶ年平均相場分明ナラサル地ハ其近接地ノ三ヶ年平均相場ニ據ルヘシ若シ其平均相場ヲ得サルトキハ本地ト近接地ノ其年平均相場ニ據ルモノトス

第七條 水産稅ノ徵收ハ北海道廳長官ノ命令ニ據リ郡區長ヨリ各組合收稅委員ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス

第八條 各組合收稅委員ハ郡區長ヨリ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ其組合中登人別納額元帳ニ據リ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ稅金ヲ取纏ムヘシ

第九條 各收稅委員ニ於テ取纏メタル稅金ハ翌日マテニ之ヲ國庫金出納所ニ納付シ若シクハ戶長ニ委託シテ之ヲ該所ニ納付スヘシ但相當ノ保護注ヲ設クルトキハ納期中ニ限リ壹千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ其收稅事務取扱所ニ留ムルコトヲ得

第十條 郡區長ハ第七條ニ據リ各組合收稅委員ニ對シテ徵稅令書ヲ發スルトキハ總テ放入取扱順序第二章ニ準據シ取扱フヘシ

第十一條 各組合收稅委員ハ徵稅傳令書ヲ製シ各納稅者ニ交付シ租金取纏メノ上之ヲ納付シ又既納稅金拂戻ヲ要スルトキハ總テ放入取扱順序第三章ニ準據シ取扱フヘシ

第十二條 各組合收稅委員ニ於テ各納稅者ヨリ取纏メタル稅金ヲ便宜ニ依リ戶長ニ委託シテ納付セントスルトキハ徵稅令書ヲ受領セシ際其旨郡區長ヘ届出ヘシ

第十三條 郡區長ハ第十二條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ戶長ニ命令シテ其稅金ヲ預カラシメ國庫金出納所ニ納付セシムヘシ

第十四條 戶長ハ郡區長ノ命令ニ依リ各組合收稅委員ヨリ稅金納付ノ委託ヲ受ケタルトキハ放入取扱順序第六十六條第六十七條第六十八條ニ準據シ取扱フヘシ

第十五條 水産稅徵收ニ關シ第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條ニ掲グル外ハ總テ放入扱

出納規則及放入取扱順序ニ據ルヘシ

第十六條 第三條水産物ノ總高取調ニ關シ水産物營業人ニ於テ其產出高ヲ偽リ又ハ收稅委員ノ調査ヲ拒ムトキハ罰圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス但其產出高ヲ偽リタル者自首スルトキハ其罪ヲ問ハス

第十七條 水産物營業人ニ於テ第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ罰圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○北海道水産營業者納稅方 二十三年十月三日
大藏省令第二十五號

明治二十年三月勅令第六號北海道水産稅則附則第十六條ニ依リ納稅シ來ル水産營業者ハ二十年四月已後三箇年間ノ平均產出額ニ就キ本稅則ニ據リ納稅スヘシ

○北海道水産稅算出價額ニ係ル件 二十四年三月十三日
大藏省令第四號

北海道水産稅ノ算出價額ハ明治二十一年一月ヨリ同二十三年十二月マテ三箇年間水産物ノ平均產出高竝ニ賣買相場ニ依リ之ヲ改正シ二十五年ヨリ施行ス

●沿革要領

明治元年十二月廿日箱館產物問屋仲買ノ名目ヲ改メ箱館產物賣捌人ト稱シ大坂兵庫教習等ニ於テ會所取建引請取扱候ニ付會所ノ取扱ヲ經スノ賣買スルヲ禁ス○八年二月第十四號布告ヲ以テ北海道產物出港稅則及船政所規則ヲ定ム○十年八月第五十六號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス○十七年二月第四號布告ヲ以テ根室縣下千島國及北見國四郡ニ於テ捨尾布稅ヲ徵シ函館縣下渡島國ニ於テ帆立身稅ヲ徵ス○同年五月第十二號布告ヲ以テ北海道ニ於テ納稅スヘキ水産物ヲ收獲セントスル者出願手續及罰例ヲ定ム○同月第十六號布告ヲ以テ北海道ニ於テ鷹虎並區馴獸ノ獵獲ノ禁ヲ犯ス者處分方ヲ定ム○二十年三月勅令第六號ヲ以テ北海道水産稅則ヲ定メ十年第五十六號布告同十七年第四號布告同年第十二號布告及從前北海道產稅ニ關スル命令規則ハ此稅則施行ノ日ヨリ廢止ス

○酒造稅則 十三年九月二十七日
布告第四十號

第十一類 第二章 酒稅

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

(別冊)

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ納稅保證ノ爲管廳ニ於テ相當ト認ムル所ノ保證物ヲ差出スカ若ハ資産ヲ有スル保證人ヲ立ツルニアラサレハ前項ノ免許ヲ與ヘサルヘシ(二十三年七月法律第四十九號ヲ以テ本項以下四項ヲ追加ス)

一 第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

二 酒類造石稅ノ滯納處分ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 所有不動産ノ價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル者

保證物ノ種類及保證人ニ要スル條件ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 酒酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒 燒酎酒類再蒸溜酒其他蒸溜シタルモノヲ云フ (十五年第十七號布告ヲ以テ(燒酎)ノ下六字ヲ加フ)

三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ種類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ(十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正)

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三十拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項以下追加)

清酒 百石

濁酒 拾石

一類酒濁酒 二類酒 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシム

ヘシ(十五年第十七號布告ヲ以テ本條ヲ刪除)

第六條 免許鑑札買賣讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第十一類 第二章 酒稅

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請ヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ四期ニ納ムヘシ(二十三年七月法律第四十
九號ヲ以テ全條ヲ改正ス)

第一期 四月十五日限

十月一日ヨリ一月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 八月十五日限

二月一日ヨリ五月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 十一月十五日限

六月一日ヨリ九月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ全數並ニ第一期第二期ニ係ル殘納額ノ半數

第四期 一月十五日限

前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受テ現石數ニ付納税スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ
以テ本項但書共追加ス)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙ホ存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當トシ其現在スル價額造石税四分ノ一ニ滿タサル場合ニ於テハ第一條第二項ニ依リ更ニ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立テシムヘシ
前項ノ保證物ヲ差出サス若ハ保證人ヲ立サルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済酒類ニ係ル造石税ヲ納メシムヘシ(二十三年七月法律第四十
九號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲニ
類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類スル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 検査済酒類納税以前ニ於テ腐敗シ若ハ天災其他避クヘカラサル事故ニ依リ廢棄

第十一類 第二章 酒税

ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出テ検査ヲ受ケ其造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得(上同)

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ(上同)

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もど其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳へ届出ツ可シ(十六年第六號布告ヲ以テ全條改正)

造酒著手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外へ移スヲ許サス(二十三年七月法律第四十九號ヲ以テ本條中第三項ヲ削除ス)

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もどヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニ非ス(十五年第十七號布告ヲ以テ但書追加)

第二十二條 他ノ委託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正)

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス(上同)
検査既済ノ酒類へ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒搾器器ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直チニ管廳へ届出テ再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳へ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戸外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許税額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(上同)

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第十七號布告ヲ以テ但書ヲ刪除シ同第六十一號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ全條ヲ改正シ十六年第六十六號布告ヲ以テ第十四條ノ下六字ヲ削除ス)

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加ス)

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス(十六年第六十六號布告ヲ以テ本項改正)

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ本條以下ヲ追加)

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則(明治十九年八月勅令第六十號ヲ以テ改正ニ付之ヲ除ク)

○酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ該稅則ニ準據ス

十六年十二月十八日 第四拾貳號布告

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ検査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徴ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○酒造稅則附則改正十九年七月二十八日 勅令第六十號

朕酒造稅則附則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十號

明治十五年十月十二日第六十號布告酒造稅則附則左ノ如ク改正シ明治十九年十月一日ヨリ施行ス

酒造稅則附則

第一條 自家用料ノ酒類飲料ニ用ヒ糖油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノヲ製造セント欲スル者ハ其旨管廳へ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ム可シ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

- 一 酒類受_小賣營業者
- 一 飲食店又ハ旅籠屋營業者
- 一 前二項ノ營業者ト同居ノ者
- 第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石二種以上製造スル者ハ其別石數ヲ合算スヲ超ユルヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ

罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒

類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○酒造稅則施行細則二十三年八月二十日 大藏省令第二十號

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則施行細則左ノ通相定メ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

但明治十七年八月第六十四號當省達及明治二十二年十月第十四號省令八同日ヨリ廢止ス

酒造稅則施行細則

第一條 稅則第一條一項ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其願書ニ造石見込高ヲ記シ其酒造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數トニ拘ハラズ總テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之ニ關スル地所建物ノ坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ提出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖トモ検査済ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ酒造場ノ

第十一類 第二章 酒稅

附屬ト爲スコトヲ得

税則第一條二項ニ依リ保證物又ハ保證人ヲ要スルモノハ願出ノ際保證物又ハ保證人ヲ定メ認可ヲ受クヘシ
免許ヲ受ケタル後造石見込高ヲ増加シ又ハ土地建物等ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ヘシ
免許ヲ受ケタル者ニシテ翌期ニ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ其年十月一日迄三願書ニ鑑札ヲ添ヘ管廳ニ差出シ免
許ノ證明ヲ受クヘシ

税則第一條二項二ノ年數ハ處罰ハ宣告ノ日滞納處分ハ完結ノ日ヨリ免許願出ノ日迄滿三年トス

第二條 酒造場ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

他ノ管轄地ヘ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請
フヘシ

第三條 免許鑑札ヲ賣買譲與セントスルトキハ雙方連署ノ書面ニ鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ若シ他管
廳ニ交渉スルトキハ前條ノ手續ニ依ルヘシ

第四條 税則第一條二項ニ依リ徵スヘキ保證物ノ種類左ノ如シ

有利公債證書

大藏省證券

日本銀行株券

正金銀行株券

國立銀行株券

政府ノ保護ヲ受クル會社株券債券

府縣郡市町村ノ公債證券

土地建物

第五條 前條保證物ノ保證價格ハ左ノ割合ニ依テ定ム

一 公債證券ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ依ル

二 大藏省證券ハ其券面ノ金額ニ依ル

三 銀行會社株券債券府縣郡市町村ノ公債證券ハ價格十分ノ八

四 土地建物ハ價格十分ノ六

第六條 税則第一條二項三ノ所有不動産ノ價格及ヒ保證物トシテ差出スヘキ株券債券公債證券不動産ノ價格ハ各地現賣
買ノ價格ヲ標準トシテ地方長官之ヲ定ム

前項ニ依リ定メタル價格ニ付異議アルトキハ地方廳及ヒ其所有者ヨリ各二名ノ評價人ヲ撰ミ價格ヲ評定セシメ其評定
價格ノ平均ニ依リ之ヲ定ム

第七條 税則第一條二項ニ依リ立ル所ノ保證人ハ不動産ヲ有シ又ハ所得稅ヲ納ムル丁年以上ノ男子ニシテ地方長官ニ於
テ相當ト認ムルモノニ限ル

第八條 保證物ハ土地建物ヲ除クノ外管廳ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第九條 當初ノ造石見込高ニ依リ其營業ヲ免許シタルノ後更ニ増石スルトキハ之ニ相當スル保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ
立テシムヘシ

第十條 保證ヲ徵セスシテ營業ヲ許可シタルモノ其造石數ヲ増加シタルタメ其所有不動産價格造石稅四分ノ一ヲ下リタ
ルトキハ保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ立テシムヘシ

第十一條 税則第十一條營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當ト爲ス場合ニ於テハ其不動産ノ位置番號名稱種類段別又ハ
坪數及土地發帳記入ノ地價地租ヲ詳記シテ管廳ニ届出ツヘシ

第十二條 酒造用容器ハ左ニ掲クル方法ニ依リ其容積ヲ量リ所轄租稅檢查員派出所ニ申出検査ヲ受クヘシ但容器ニハ番
號烙印及石數ノ記載ヲ受クヘシ
酒造桶類丈量法

第十一類 第二章 酒稅

口徑ヨリ一寸第一册徑ノ口徑ヨリ全深四分第二册徑ノ口徑ヨリ全深四分第三册徑ノ口徑ヨリ全深四分第四册徑ノ口徑ヨリ全深四分
ニテ縦横ノ如ク度リ此縦横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右中心等執レモ底面ヨリ口徑
迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ
但尺度ハ執レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

(一) 第二册徑以上ノ分

口徑ト第一册徑ノ和ヲ自乗シ甲トス

第二册徑ト第二册徑ノ和ヲ自乗シ乙トス

口徑ト第二册徑ノ和ハ第一册徑ヲ乘レ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四 乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ヲ乘シ之ヲ四ニテ除シ其
容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

(二) 第二册徑以下ノ分

第二册徑ト第三册徑ノ和ヲ自乗シ甲トス

第三册徑ト底徑ノ和ヲ自乗シ乙トス

第二册徑ト底徑ノ和ハ第三册徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ之ヲ四ニテ除シ其容量ヲ得ル
右(一)(二)ヲ合算シ滿量桶ノ石數ヲ得ル

第十三條 酒造用容器ヲ修繕シタルトキハ使用以前管應ノ検査ヲ受クルモノトス

第十四條 藥類及附張桶其他第十一條ノ丈量法及算則ニ依リ實量ヲ得難シト認ムルモノハ便宜適實ノ方法ヲ以テ之ヲ測

定スヘシ

第十五條 稅則第十條ノ検査ヲ受クヘキ酒類ハ其容器ノ口頭ヨリ一寸ヲ減シ容レ置クヘシ其入實容器測定ノ全數ニ充ク
サル端數ハ左ノ算則ニ依ルヘシ

入實第一册徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ第一册徑ヲ減シ空積
シテ假定ノ
底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乗シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トノ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル
入實第一册徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス 此口徑ヲ求ムルニハ第一册徑ヨリ第二册徑ヲ減
四倍シ全深ニテ除シタルモノニ
シ之ニ容積面ヨリ第二册徑マテノ入實深ヲ乘シ

第二册徑ヲ加ヘ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト第二册徑トノ和ヲ自乗シ甲トス

假定ノ口徑ト第二册徑トノ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ容積面ヨリ第二册徑マテノ入實深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シタルモノニ第二册徑以下ノ石數ヲ
加ヘ現在ノ石數ヲ得ル

入實第三册徑以上若クハ以下ニアルトキハ前項ニ準據スヘシ

第十六條 稅則第十七條ニ依リ酒類ヲ製セントスルトキハ更ニ其製法スヘキ酒類ノ種目及石數ヲ届出テ製成ノ上尚檢
査ヲ受クルモノトス

第十七條 検査未済ノ酒類竊取其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ所轄租稅検査員派出所ニ届出檢
査ヲ受クヘシ

第十八條 稅則第十八條製造石稅免除酒類ハ一期中製造石高ヲ翌期十月中ニ届出ツヘシ

第十一類 第二章 酒稅

第十九條 検査酒類及古酒買入酒等ヲ樽ニスルトキハ其時々届出検査ヲ受ケ尙製成ノ上検査ヲ受クルモノトス但此ノ場合ニ於テ増石スルモノハ其石數ニ課税スルモノトス

第二十條 濁酒白酒ハ釀ノ儘其他ノ酒類ハ製成ノ上ノ津引ヲ要スルモノトス 津引以前ノ石數ノ検査ヲ受クヘシ(二十三年九月二十五日大勅令第二十三號ヲ以テ改正)

第二十一條 造石稅納期以前免許證札ヲ賣買譲與シ又ハ廢棄スルモノハ検査酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

第二十二條 營業人ハ左ノ帳簿ヲ製スヘシ

酒造原品受拂帳

仕込帳

酒粕目方帳

蒸溜帳

製酒類原品受拂帳

酒類倉出帳

酒類賣上帳

酒類買入帳

第二十三條 此細則ニ關スル帳簿記入方其他書式等ノ手續ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第二十四條 第十二條ハ此細則實施以後新調修繕ニ係ル分ヨリ施行ス

第二十五條 第十五條ノ場合ニ於テ萬丈母ノ容器ニ係ルモノハ左ノ算則ニ依ルヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ減シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シテトス

右甲ヨリ減シ空積ノ深サ及ヒ〇・〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈母尺度ハ分ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス 此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヲ假定シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ至深ニテ除シ之レニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト底徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シトス

右甲ヨリ減シ現在ノ深サ及ヒ〇・〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈母尺度ハ分ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

(參照)明治十七年八月(三十日)第六十四號大勅令省達ハ酒造稅則取扱心得書ナリ

明治二十二年十月(二十五日)第十四號大勅令省令ハ酒造稅則施行細則ナリ

○朝鮮國ニ於テ製造シテ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收ス 明治十九年七月二十一日勅令第六十一號

朕朝鮮國ニ於テ製造シテ我國ニ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十一號

朝鮮國ニ於テ製造シテ日本國ニ輸入スル日本酒類ニハ當分ノ内左ノ割合ヲ以テ海關稅ヲ徵收ス

釀造酒一石ニ付

第十一類 第二章 酒稅

金四圓

蒸溜酒一石ニ付
再製酒一石ニ付

金五圓
金六圓

○沖繩縣酒類出港稅則

二十一年三月二十一日
勅令第十二號

朕沖繩縣酒類出港稅則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十二號

沖繩縣酒類出港稅則

第一條 沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類壹石ニ付金二圓ヲ賦課ス

第二條 出港稅ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船改所ヲ設置ス

第三條 荷主ハ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港稅ヲ船改所ニ納メ船積免狀并領收證ヲ受ケ船積スヘシ

第四條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ届出ヘシ那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ

第五條 沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ檢査スルコトアルヘシ但共官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第六條 出港稅ヲ納メス酒類ヲ他府縣へ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港

稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第七條 第四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 主任官吏ノ檢査ヲ拒ム者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此稅則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス

第十條 前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條 此稅則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス

○輸出酒類戻稅規則

二十一年七月十一日
勅令第五十四號

朕輸出酒類戻稅規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十四號

輸出酒類戻稅規則

第一條 內國ニ於テ造石稅ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出港稅關ノ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ヲ通過シタル證憑ヲ得テ之ヲ輸出港稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請フコトヲ得但其證憑ヲ得タル後滿三箇年以内ニ差出サ、ル者ハ其効力ヲ失フヘシ
第二條 造石稅ノ下戻ヲ受ケタル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港稅關ノ檢査ヲ受ケ陸揚ノ際其戻稅ハ之ヲ還納スヘシ

第十一類 第二章 酒稅

第三條 本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 本則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

○輸出酒類戻税規則施行細則ヲ定ム 二十一年八月三日 大藏省令第八號

本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻税規則施行細則左ノ通相定ム

輸出酒類戻税規則施行細則

第一條 酒類ヲ外國へ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名等ヲ記載シタル書面ヲ備

出港税關ニ提出シ現品ノ検査ヲ請ヒ検査済ノ證明書ヲ受ケヘシ

第二條 酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ該港ノ陸揚免狀及輸出港税關ノ證明書ニ必ス在國本邦領事ノ検印ヲ受ケ當初輸

出ノ税關ニ申出テ造石税金ノ下戻ヲ請フヘシ

第三條 外國ニ輸出シ造石税下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數ト當初税金ノ下戻

ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港税關ニ提出シ現品ノ検査ヲ受ケ造石税金ヲ還納スヘシ

第四條 造石税金下戻及還納ノ際石數ノ合位税金ノ厘位ニ滿テサル端數ハ之ヲ切捨ヘシ

○東京府區内清酒輸入規則ヲ制定ス 二十一年十二月十九日 勅令第八十八號

朕東京市區改正條例施行ニ付清酒輸入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十八號

東京府區内清酒輸入規則

第一條 東京府區内ニ於テ區外ヨリ清酒ヲ輸入スル者ハ清酒輸入營業免許ヲ受ケヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ東京府區内ニ清酒ヲ輸入スルコ

トヲ得ス

第三條 免許ヲ受ケスシテ清酒ヲ輸入シタルトキハ其清酒及容器ヲ沒收シ既ニ之ヲ費消

シ又ハ賣捌タルモノハ其代金ヲ追徴ス

第四條 清酒輸入者ニシテ東京市區改正條例第三條第四項ノ税金ヲ通脱シタルトキハ其

税金ニ相當スル金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條 此規則ニ依テ沒收シタル物品代金ハ東京市區改正費ニ充用スルモノトス

第六條 清酒ヲ再輸出スルトキハ其特別税下戻ヲ請フコトヲ得其下戻ノ方法ハ府縣會規

則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シテ之ヲ議定セシムヘシ

第七條 東京府知事ハ此規則實行ノ實ニ任ス

第八條 此規則ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○自家用料酒類製造者心得ヲ定ム 十九年八月二十四日 大藏省令第二十七號

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

第一項 酒造税則附則第一條ノ届書ニハ該期造酒ノ種目及製造見込石高ヲ記シテ提出ヘシ

第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三項 免許證札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四項 免許證札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替居セシトキハ其旨管廳ニ届出再發又ハ賣捌ヲ請フヘシ

第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ賣捌九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○沖繩縣酒類出港稅則施行細則ヲ定ム 二十一年七月七日
大藏省令第七號
本年三月勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則施行細則左ノ通相定ム

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

第一條 酒類ヲ他府縣へ輸出スル者ハ少ナクトモ出港二十四時以前ニ左ノ項目ヲ記載シタル書面ニ税金相添へ那爾船改所へ申出其酒類ノ検査ヲ請ヒ船積免狀及税金領收證ヲ受クヘシ

一 酒類ノ種目及石數

一 出港稅額

一 容器ノ種類及箇數

一 荷主ノ族籍住所姓名

一 船名及船長姓名

一 出港地名

第二條 船改所ハ酒類ヲ検査スルニ當リ前條ノ書面ニ照シ石數不相當ト認ムルトキハ每容器ヲ開キ實量スルコトアルヘシ

第三條 第一條ノ場合ニ於テ税金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ枳量ヲ合計シ合位ニ金員ハ厘位ニ止メ以下切捨ルモノトス

第四條 主任官船舶ノ検査ヲ爲シ犯罪ヲ發見シ若シクハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ

第五條 出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○酒造制限石高ヨリ減却セシモノハ翌期營業ヲ許サス 十六年十月二十三日
大藏省達第六十九號府縣(根室札幌沖繩ノ三縣ヲ除ク)

酒造稅則第四條第二項ニ據リ酒類製造免許ヲ受タル後非常ノ災害ニ罹リ酒類製造元米諸器械等ヲ減損スルノ類ニシテ實際止ヲ得サルノ事故アルモノヲ除クノ外徒ラニ種々ノ口實ヲ設ケ制限石高ヨリ減却セシモノハ翌期營業ノ免許ヲ與ヘサル儀モ可有之候條詳細其事由ヲ具シ見込相立稟議スヘシ此旨相達候事

○北海道ノ内從來酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ之ヲ施行スルノ件 二十年九月二十八日法

律第二十四號
朕北海道ノ内從來酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ之ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第二十四號

北海道ノ内明治十三年九月第四十號布告酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ本年十月一日ヨリ本則ヲ施行ス但其稅率ハ當分左ノ通定ム

酒造免許稅 金貳拾圓

酒造場一箇所ニ付 金貳圓

酒類造石稅 一類一石ニ付 金貳圓

二類一石ニ付 金三圓

三類一石ニ付 金四圓

稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

○二十二年九月法律第二十四號酒造稅則施行細則 二十二年十月二十五日
大藏省令第二十四號

第十一類 第二章 酒稅 二百九十五

本年九月法律第二十四號酒造稅則施行細則左ノ通定ム

酒造稅則施行細則

- 第一條 酒造營業ノ免許ヲ得ントスル者ハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟敷ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ願出ヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖トモ検査済ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ設置スルニ止マルモノハ酒造場ノ附屬トスルコトヲ得ヘシ
- 第二條 引續酒造營業ヲ爲サントスル者ハ毎年十月一日マテニ願出ヘシ
- 第三條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスル者ハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出會社ヲ設ケ營業ヲ爲サントスル者ハ願取ノ名ヲ以テ願出ツヘシ
- 第四條 酒類ノ火入淨引ハ造石検査ノ後之ヲ爲スヘシ
- 第五條 検査済ノ酒類並古酒買入酒等ヲ粕酒セントスルトキハ其時々届出検査ヲ受クヘシ
- 第六條 但製成ノ上層石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス
- 第六條 營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ販賣スルモノハ其旨届出検査ヲ受クヘシ
- 第七條 稅則第十六條非常ノ損害ニ罹リタル酒類アル場合ハ其實況ヲ證明シ直ニ管認ニ届出ツヘシ
- 第八條 造石稅納期以前免許證札ヲ賣買讓與シ又ハ廢棄スル者ハ検査済酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

第九條 第二條願出ノ期限ハ本年ニ限リ來ル十一月三十日迄トス

酒造稅則暫翹營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ

犯則ノ證憑取調處分方十六年十二月二十日 布告第四拾三號

酒造稅則暫翹營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任ナルノ證票ヲ携帶スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○酒造稅則等ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調處分時限及立會方等十六年十二月二十七日 大藏省 達第七十七號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ヘ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没前ニ於テシ其地(戶長)若クハ用掛隣佑ノ内ヲシテ立會ハシメ候條取計フヘシ此旨相違候事

○酒稅其他諸印紙稅營業稅等逋稅取締ノ爲メ租稅官吏ニ於テ警部以下ヘ監査打合セ方十五年十一月三十日 大藏省 達府縣(東京府ヲ除ク)

酒類稅其他諸印紙稅營業稅等逋稅取締ノ爲メ租稅專務ノ吏員警部等ト打合セ取締相立候儀勿論ニ有之候處當省租稅局員巡回ノ節モ其時宜ニヨリ直チニ警部以下ヘ監査打合候條モ可有之ニ付豫メ警部以下ヘ相違置可申此旨相違候事

沿革要領

明治元年五月二十九日酒造證札ヲ渡シ百石ニ付二十兩ノ上納金ヲ定ム○同年九月四日布告ヲ以テ酒造高百石未満ノ者ハ百石マテ増造スルヲ許ス○四年七月布告ヲ以テ清酒濁酒並醬油釀造株證札渡方并稅則ヲ定メ從前ノ株證札ヲ廢シ取締方ヲ設ク○八年二月第二十六號布告ヲ以テ四年七月布告酒造取締并稅則及追々増補等ノ條共相廢シ更ニ酒類稅則ヲ定ム○十三年九月第四十號布告ヲ以テ酒造稅則ヲ制定シ從前ノ酒類稅則ヲ廢ス○十九年八月勅令第六十號ヲ以テ前令中附則ヲ改正ス○同年八月勅令第六十一號ヲ以テ朝鮮國ニ於テ製造シテ輸入スル日本ニ海關稅ヲ徵收ス○同年大藏省令第七號ヲ以テ自家用料酒製造者心得ヲ定ム○二十一年三月勅令第十二號ヲ以テ沖繩縣酒類出港稅則ヲ定ム○同年七月勅令第五十四號ヲ以テ輸出酒類稅規則ヲ定ム○同年大藏省令第七號ヲ以テ沖繩縣酒類出港稅則施行細則ヲ定ム○同年八月大藏省令第八號ヲ以テ輸出酒類稅規則施行細則ヲ定ム○同年十二月勅令第十一號 第二章 酒稅

八十八號ヲ以テ東京府内清酒輸入規則ヲ定ム○二十二年九月法律第二十四號ヲ以テ北海道ノ内從來酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ之ヲ施行スルノ件ヲ定ム○同年十月大藏省令第二十四號ヲ以テ同稅則施行細則ヲ定ム○二十三年七月法律第四十九號ヲ以テ酒造稅則中改正ス○同年八月大藏省令第二十號ヲ以テ酒造稅則施行細則ヲ定ム

○釐造營業稅則 十三年九月二十七日 布告第四十一號

釐造營業稅則別冊之通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

釐造營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ釐造^{釐造種類}ノ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

釐造營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ検査ヲ受ケヘシ

釐造及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ(十五年第六十二號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ釐造賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス釐造ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 釐造營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣釐造受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類^{釐造}ヲ製造スルヲ許サス(同上本條以下四條ヲ追加ス)

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十一類 第二章 釐造稅

第十五條 營雜業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者
ヲ處罰ス

●沿革要領

明治六年四月大藏省第六十七號達ヲ以テ醬油稅ヲ定メ營業者ニ鑑札ヲ付與ス○八年二月第二十六號布告但書ヲ以テ
該稅ヲ廢ス○十三年九月第四十一號布告ヲ以テ再ヒ醬油營業稅則ヲ定ム

○醬油稅則 二十一年六月十六日 勅令第四十七號

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十七號

醬油稅則

第一條 醬油細ヲ併製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札
ヲ受クヘシ但製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘ
シ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 醬油諸味一石ニ付 金一圓
溜ハ製成一石ニ付 金一圓

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同七月三
十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ
納ムヘシ

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ查
定ヲ受クヘシ

造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ
受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ
受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出検査ヲ受
置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコト

ヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出検査ヲ受クヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借買賣及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石税ノ査定ヲ經タル醬油其造石税納期內ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因リ廢業ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出検査ヲ受ケ該造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ノ検査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他證據ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此税則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケメシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及通税ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ検査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徴ス

第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡癩ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

○醬油稅則施行細則 二十一年八月三日
大藏省令第九號
本年六月勅令第四十七號醬油稅則施行細則左ノ通相定ム

醬油稅則施行細則

第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラヌ都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之ニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ提出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ検査済ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ搬置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其願取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條 免許願書ヲ受ケタルトキ八十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租稅検査員派出所ニ届出ヘシ

第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租稅検査員派出所ニ届出ヘシ

第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租稅検査員派出所ニ届出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ

新クニ免許願書ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第七條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先キヲ帖簿ニ記載シ置クヘシ

第八條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出検査ヲ受クヘシ
前項ノ容器ハ左ニ掲グル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅検査員派出所ニ申出検査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス

丈量法

口徑ヨリ三寸閉徑ノ口底徑ノ底面積ノ下リタル箇所ノ中央底徑ノ箇所ヲモ内測ニテ縱横ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シテ之ヲ除ス深サハ其柄ノ前後左右中心等號レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ヲ以テ之ヲ除ス

但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

算則

口徑下脚徑ノ和ヲ自乗シ甲トス

脚徑下底徑ノ和ヲ自乗シ乙トス

口徑下底徑ノ和ハ脚徑ヲ乗シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四^{乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ヲ乘シニテ之ヲ除シ其容量ヲ得}

容器中醜類其他異様ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第九條 石數査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿タサル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定スヘシ

入實脚徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス^{此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ脚徑ヲ減シ空積ノ深サノ底徑トス}

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乗シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四^{乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分ヲ乘シ其得ル石數ヲ容積換}

據記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實脚徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス^{此口徑ヲ求ムルニハ入實脚徑ニアルモノハ其脚徑ヲ假}

定ノ口徑ト底徑トノ和ヲ自乗シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十條 醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ届出廢札ヲ還納スヘシ

第十一條 改名代替リ若クハ廢札ヲ失却毀損シ又ハ任所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日内ニ廢札ノ再渡又ハ書換ヲ

請フヘシ

一 代替書替ハ

六十日間

一 其他ノ書替再渡ハ

十日間

第十二條 製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許廢札ヲ添へ管廳ニ申出添書ヲ受ケ二十日以内之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ廢札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定額ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢業石數等ヲ詳記シ所管租稅檢査員派出所ニ申出ヘシ

第十五條 前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ申實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

ヘシ

第十六條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油製造帳

醬油仕込帳

醬油賣揚帳

第十七條 稅則及ヒ此細則ニ掲グル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名名冊石數箇數輸入地名積込册名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査済證明書ヲ受クヘシ

第十一類 第二章 醬油稅

- 第十九條 造石税ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ鹽類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ税關ニ申出ヘ
- 第二十條 輸出醬油石税下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中銷味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス
- 第二十一條 税則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名石數、鹽數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ受クヘシ
- 第二十二條 税則及此細則ニ於テ石數ノ合位税金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス
- 第二十三條 税則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス
- 第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十五條 此細則ニ關スル帖簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

●沿革要領

明治四年七月布告ヲ以テ清酒濁酒紹酒類並醬油從前ノ株權札ヲ廢シテ更ニ免許權札並税則ヲ定ム○八年二月第廿六號布告但書ヲ以テ醬油税ヲ廢ス○十八年五月第十號布告ヲ以テ再ヒ醬油税則ヲ制定ス○二十一年六月醬油税則ヲ改正ス

○菓子規則 十八年五月八日 布告第十一號

菓子税則別紙ノ通り制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス
但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

菓子税則

- 第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス
 - 菓子製造人 菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
 - 菓子卸賣人 菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
 - 菓子小賣人 菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ
- 第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ
- 第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶スヘシ
- 第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ
 - 營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢
 - 仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢
 - 出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢
- 第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ
 第七條 鑑札ハ貸借買賣又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス
 第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

- 雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓
- 雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓
- 雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓
- 雇人二人アル者 一箇年 金五圓
- 雇人一人アル者 一箇年 金三圓
- 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

(二十一年二月二十四日勅令第八號ヲ以テ(三)ノ下(以下)ノ二字ヲ削除シ次ノ一項ヲ加フ)

仰賣營業稅

- 雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓
- 雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓
- 雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓
- 雇人二人アル者 一箇年 金五圓
- 雇人一人アル者 一箇年 金三圓

(同上勅令ヲ以テ(二人)ノ下(以下)ノ二字ヲ削除シ次ノ一項ヲ追加ス)

雇人ナキ者

一箇年 金壹圓

小賣營業稅

- 雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓
- 雇人二人アル者 一箇年 金三圓
- 雇人一人アル者 一箇年 金貳圓
- 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

(全)

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス
 露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半分ハ其年一月一日後半分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

- 第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ係ル分 其年八月三十一日限
- 第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日迄賣上金高ニ係ル分 翌年二月二十八日限
- 第十一類 第二章 菓子

半年分ノ賣上金高ニ拾圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス
第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又
新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ
第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼
賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限
七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム(同上勅令
條ヲ改
正ス)

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアル
ヘシ

第十六條 (同上勅令ヲ以テ
本條ヲ削除ス)

第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以
下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴
ス

第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ
五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(同上勅令ヲ以テ
本條中ヲ改正ス)

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帯セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ
鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以
下ノ科料ニ處ス(同上)

第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒ
ス

第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者
ヲ處罰ス

○煙草稅則 二十一年四月六日
勅令第二十號

朕煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十號

煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人

第十一類 第二章 煙草

葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者
製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但
營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證
約スル爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス
證約金 營業場一箇所毎ニ 五十圓以上
五百圓以下

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ
一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳
ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ
煙草營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢
煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓
煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓
第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一

日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ
第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用

スヘシ
第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印ス

ヘシ
第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀
若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ
差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙
草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラ
第十一條 第二章 煙草

サル者ニ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス
煙草耕作人ニ限り自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場合庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ逋脱ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脱稅ヲ謀リ又ハ脱稅シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍

ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス
第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裝ノ解錠毀損シタル
製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代
金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十三條 煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第二十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施
行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者
ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約
狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ
委託シ又ハ自ラ包裝ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣
捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ
此稅則ニ從ヒ包裝ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○煙草稅則第十一條但書ノ場合ニ於テノ取扱方 二十三年五月十七日
大藏省訓令第八十七號開港場アル府縣

煙草稅則第十一條但書ノ場合ニ於テ取扱方左ノ通心得ヘシ
第一項 稅則第十一條但書ニ據リテ其金額ヲ納付シタル者ハ之ニ對スル稅關ノ證明書ニ右製造煙草ノ量目包裝及ヒ價
格目錄ヲ添ヘテ其地租稅檢査員派出所ニ届出テ檢査ヲ受ケシムヘシ

第二項 前項製造煙草ノ包裝又ハ貼用印紙當初輸出ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタル時ノ形狀ヲ變更シタルモノナルトキハ
右輸入主ニ於テ最寄製造人ニ委託シ之ヲ改裝シテ相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

第三項 前項改裝シタル煙草ニ對スル印紙ノ下付ヲ請求スルトキハ租稅檢査員ノ審明ヲ經テ之ヲ下付スヘシ

○煙草稅則施行細則 二十一年四月二十六日
大藏省令第三號

今般勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

煙草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ
其願書ニ添テ管廳ニ提出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人、器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第十一類 第二章 煙草

北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラズ證約金額ヲ増減スルコトアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ様式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條 煙草製造營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人、弟子、職工ノ數(職工ハ其任所内)ヲ其府縣ノ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第四條 稅則第二條但書及第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲クル者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス
一 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者
一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條 煙草營業者其營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常任セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家僱雇人ハ營業者ト同居常任ヲ爲ス者ニ限ル
第八條 煙草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

黒色	一枚	二厘
淡藍色	一枚	三厘
黄色	一枚	四厘
藍色	一枚	六厘
萌黄色	一枚	八厘
淡青色	一枚	一錢
茶褐色	一枚	一錢二厘
淡紅色	一枚	一錢六厘

桔梗色	一枚	一錢八厘
橙黄色	一枚	二錢
老綠色	一枚	二錢四厘
濃青色	一枚	三錢
淡黒色	一枚	三錢二厘
青綠色	一枚	四錢
嬌栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第九條 製造煙草ノ包裝毎一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ
百匁入

刻煙草每(包)函(二付)

八十匁入
六十匁入
五十匁入
四十匁入
三十匁入
二十匁入
十五匁入
十匁入
五匁入

卷煙草每包(函)二付

- 二百本入
- 百本入
- 五十本入
- 二十本入
- 十本入
- 六本入

追加見合

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り又ハ紙包入りトシ其包裏ノ綴キ目合七目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固著シテ貼用印紙ヲ破毀セザレハ煙草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ
製造煙草每箇ノ量目、定價氏名住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裏ノ表面ニ記入スヘシ

第十一條 煙草印紙ハ一枚枚連貼スルコトヲ得

第十二條 製造煙草每箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ二厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 煙草營業者ハ既ニ用ヒタル煙草印紙又ハ其包裏ヲ所持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若クハ譲渡受テ爲スコトヲ得ス

第十五條 煙草營業者ハ商品見本トシテ每種刻煙草五匁紙卷煙草十本葉卷煙草五本ニ超ヘサル包裏ヲ切抜キ之ヲ店頭ニ陳列シ又ハ出賣先ニ携帶スルコトヲ得
(二十四年三月五日大藏省令)
(第二號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裏封緘ノ要部ト印紙ノ影數トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條 煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ煙草稅則ニ從フヘシ

第十八條 煙草製造人、仲買人ニシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リタルトキハ壹匁壹「カマス」又ハ壹匁毎ニ其葉ノ種類並目及ヒ預リタル番號、年月日、賣リ主ノ住所資格氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅検査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取リ葉捲又ハ葉卷ノ爲ニ煙草職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條 煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條 煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一葉煙草ノ種類番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷主ノ氏名住所

一製造煙草ノ種類、包裏ノ區別、箇數、荷主ノ氏名住所
第二十二條 煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

一印紙賣渡ノ年月日

一印紙ノ種類枚數

一賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造煙草ノ検査ヲ受ケントスルモノハ種類、箇數、定價、印紙稅額ノ任譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ届出シ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦同シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事ノヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セザル煙草荷物ハ租稅検査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第二十六條 代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管關ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ
一代替書換ハ六十日間

第十一類 第二章 煙草稅

一其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ掲クル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 (二十四年四月大藏省令第七號ヲ以テ本條ヲ刪除ス)

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條三十一條三十二條三十三條三十四條三十五條三十六條三十七條三十八條三十九條四十條四十一條四十二條四十三條四十四條四十五條四十六條四十七條四十八條四十九條五十條五十一條五十二條五十三條五十四條五十五條五十六條五十七條五十八條五十九條六十條六十一條六十二條六十三條六十四條六十五條六十六條六十七條六十八條六十九條七十條七十一條七十二條七十三條七十四條七十五條七十六條七十七條七十八條七十九條八十條八十一條八十二條八十三條八十四條八十五條八十六條八十七條八十八條八十九條九十條九十一條九十二條九十三條九十四條九十五條九十六條九十七條九十八條九十九條

條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第三十一條三十二條三十三條三十四條三十五條三十六條三十七條三十八條三十九條四十條四十一條四十二條四十三條四十四條四十五條四十六條四十七條四十八條四十九條五十條五十一條五十二條五十三條五十四條五十五條五十六條五十七條五十八條五十九條六十條六十一條六十二條六十三條六十四條六十五條六十六條六十七條六十八條六十九條七十條七十一條七十二條七十三條七十四條七十五條七十六條七十七條七十八條七十九條八十條八十一條八十二條八十三條八十四條八十五條八十六條八十七條八十八條八十九條九十條九十一條九十二條九十三條九十四條九十五條九十六條九十七條九十八條九十九條

一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス(同上ニ依リ本條中刪除ス)

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

○煙草稅則取扱方要領 二十一年四月二十七日 大藏省訓令第二十二號 北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

煙草稅則改正ニ就キ其取扱方要領左ノ通心得ヘシ

煙草稅則取扱方要領

第一條 吸煙ノ用ニ供スル煙草類(混和製ノ諸品トモ)ハ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘキモノトス

第二款 左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正稅則ノ精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス

一 葉煙草ノ取締即チ檢証封印等ノ方法ヲ施スコト

(二十四年四月大藏省訓令第三十九號ヲ以テ本項ヲ刪除ス)

一 質抵當ニ係ル煙草ノ受取及廢業者所持ノ煙草賣捌方ニ就テ取締ヲ施スコト

一 煙草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施スコト

一 煙草製造器械ノ取締即烙印等ノ方法ヲ施スコト

一 內國產製ニ非ラサル煙草ノ取引賣買貸借等ニ就テ取締方法ヲ施スコト

第三款 稅則第四條任入出賣ノ免許證札ニハ各其受免許人ノ屬籍、氏名、年齢、免許ノ番號及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ

第四款 製造煙草ノ包裹ニ各種ノ番號、彩紋、裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ス但豫メ其見本ヲ租稅檢査員派出所ニ届出置カシムヘシ

第五款 天災其他抗拒スヘカラサル事故ニ罹リ煙草營業者所持ノ煙草包裹及ヒ其貼用印紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ當該官署其事實ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ許スヘシ但交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

○煙草稅則第三條ノ證約狀調製手續 二十一年四月三十日 大藏省告示第五十八號

本年四月勅令第二十六號煙草稅則第三條ニ據リテ管轄ニ差出ス證約狀ノ調製左ノ如シ

證約狀調製手續

第一項 證約狀ハ左ノ様式ニ據リテ調製シ煙草製造營業出願ノ際願書ト共ニ差出スヘキモノトス

第二項 證約金額ハ管轄ノ指示スル所ニ從ヒテ掲記スルモノトス

第三項 證約狀ノ保證人ハ最寄郡區内ニ在シ正實ニシテ同府縣内ニ於テ所得稅ヲ納ムル資産アル者二名以上ヲ要ス

證約狀

一金何十圓也

一 私儀煙草製造營業御許可相成候上ハ左ノ事項ヲ遵守スル爲メ前願ノ通證約金額ヲ掲記シ保證人ト共ニ署名調印ノ上證約ヲ爲スノ如件

第一款 營業上ニ關スル法律規則ヲ遵守シ正實ニ營業ヲ爲ス事

第二款 此證約ニ違背シ前記證約金額ノ一部又ハ其全部ヲ徵收セラルトキハ徵收御達ノ日ヨリ五日以内ニ無相違完納スヘキ事

第三款 前記日限内ニ證約金ヲ上納セサルトキハ連署ノ保證人ニ於テ直ニ本人ニ代リ辨納可致事

第十一類 第二章 煙草稅

三百二十五

右之通相違無之候也

年月日

何府知事氏名殿

○煙草印紙交換手續ヲ定ム 二十一年七月二日 大藏省告示第八十九號
煙草稅則改正ニ付煙草印紙交換手續左ノ通之ヲ定ム

煙草印紙交換手續

- 第一條 煙草營業者天災其他抗拒スヘカラサル事變ニ罹リ其所持スル製造煙草ノ包裝若クハ其包裝ニ貼用シタル印紙ヲ毀損若クハ汚染シタルトキハ其損失ニ係ル印紙ノ價格一口壹圓以上ノ者ニ限リ新印紙ト交換ヲ請求スルコトヲ得
- 第二條 印紙交換ヲ請求セントスル煙草營業者ハ其天災其他抗拒スヘカラサル事變ニ罹リタル年月日場所實況及損失ニ係ル印紙ノ價格ヲ記載シ所在租稅檢査員派出所ニ差出シ其審明ヲ受クヘシ
- 第三條 租稅檢査員其事實ヲ審明シ印紙交換ヲ許可スヘキモノト認ルトキハ損失ニ係ル印紙ヲ毀却シ其煙草ニ封印ヲ施シ煙草營業者ヲシテ其交換ヲ要スル印紙ノ種類枚數仕譯書ヲ調製セシメ其餘白ニ審明ヲ證シ年月日官氏名ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ煙草營業者ニ下戻スヘシ
- 第四條 煙草營業者ハ前條印紙種類枚數仕譯書ヲ所在郡區役所ニ差出シ交換ヲ請求スヘシ
- 第五條 印紙交換ノ價格割合ハ左ノ如シ

損失ニ係ル印紙ノ價格 下付スヘキ新印紙ノ價格

- 一 貳拾圓未満壹圓ニ付 八拾錢
- 一 貳拾圓以上壹圓ニ付 八拾五錢

第六條 郡區役所ニ於テハ第三條ノ審明書ヲ調査シ前條ノ割合ニ據リ新印紙ヲ下付スヘシ
第七條 煙草營業者新印紙ヲ請取リタルトキハ租稅檢査員派出所ニ申出第三條煙草封印ノ解除ヲ請ヒ包裝ヲ改施シ印紙ヲ貼用シ更ニ檢査ヲ受クヘシ

○煙草耕作人届出及取纏方 二十二年七月六日 大藏省訓令第五十二號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

煙草耕作人ト非耕作人トノ區別ヲ明カニスルハ稅則上緊要ノ事件ナルカ故ニ右耕作人ノ届出ハ各地方收稅部出張所ニ於テ之ヲ取纏メ稅則執行上ノ要用ニ供スヘシ尤右届出取纏メ方ハ各地ノ事宜ニ應ジ簡便ヲ量リ之ヲ施行スル備ト心得ヘシ

○租稅官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調處分方 (第二章 酒造稅)

●沿革要領

明治八年二月第二十八號ヲ以テ來九年一月一日ヨリ煙草ニ稅ヲ課スル旨ヲ布告ス○同年十月第五十號布告ヲ以テ煙草稅則ヲ定ム○十年二月第十四號布告ヲ以テ煙草印紙ハ自用者ニ賣渡ス品ニ限リ前以テ之ヲ貼用シ置カシム○十五年十二月第六十三號布告ヲ以テ八年第五百十號布告煙草稅則ヲ改定ス○二十一年四月勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則ヲ改正ス

○賣藥印紙稅則 十五年十月二十七日 布告第五十一號

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用

第十一類 第二章 賣藥稅

三百二十七

何府何區何町	何府何區何町	何府何區何町
本人何某印	保證人何某印	保證人何某印

スヘシ

印紙税ノ割合

一	定價壹錢迄	印稅	壹厘
一	同 貳錢迄	同	貳厘
一	同 三錢迄	同	三厘
一	同 五錢迄	同	五厘
一	同 拾錢迄	同	一錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ増加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡	青色
貳厘	青	黑色
三厘	黃	褐色
五厘	茶	褐色
壹錢	諸	色
貳錢	綠	色
三錢	濃	青色
四錢	橙	黄色

五錢 拾錢

紫 深紅 色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ 但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

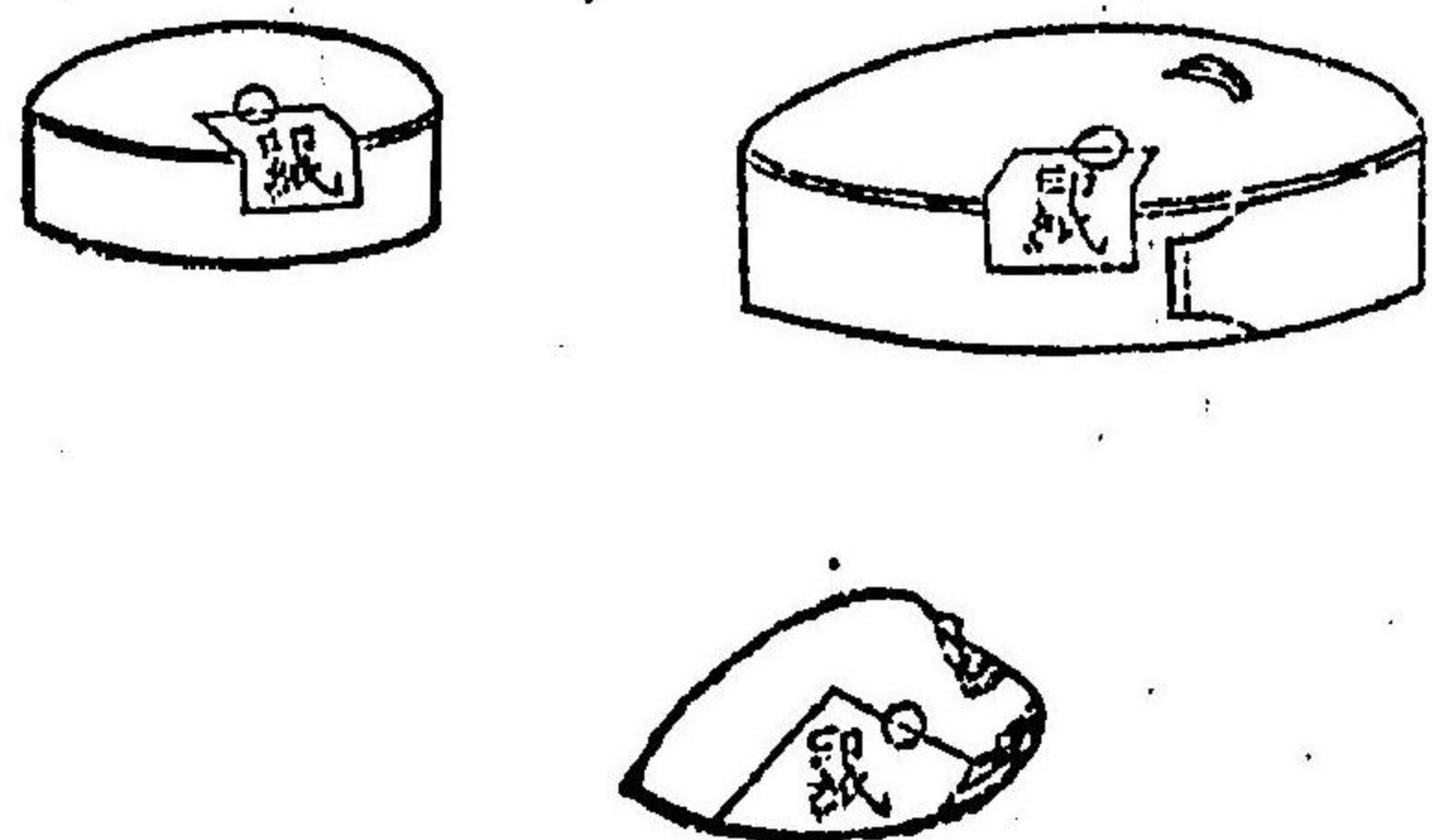
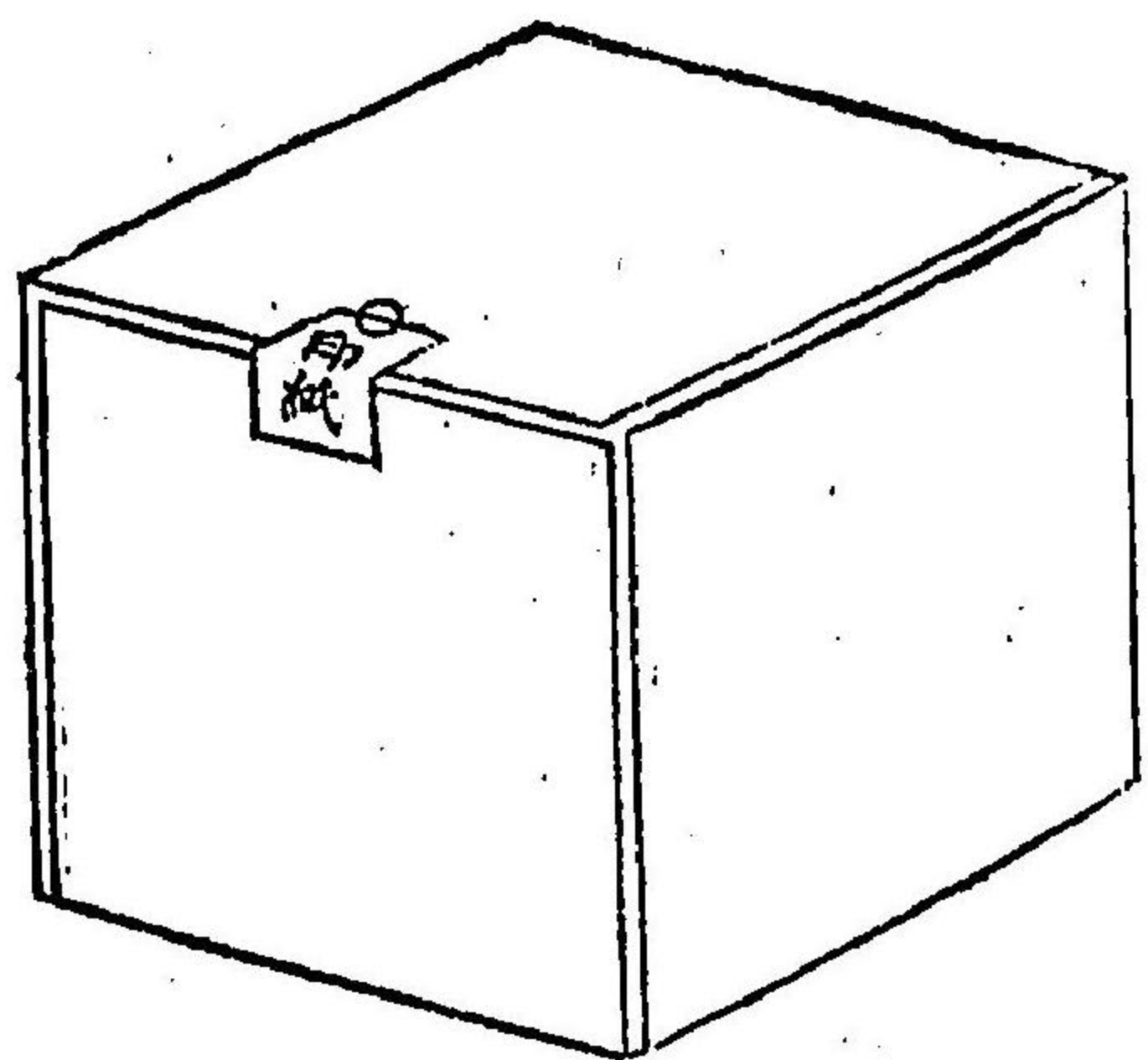
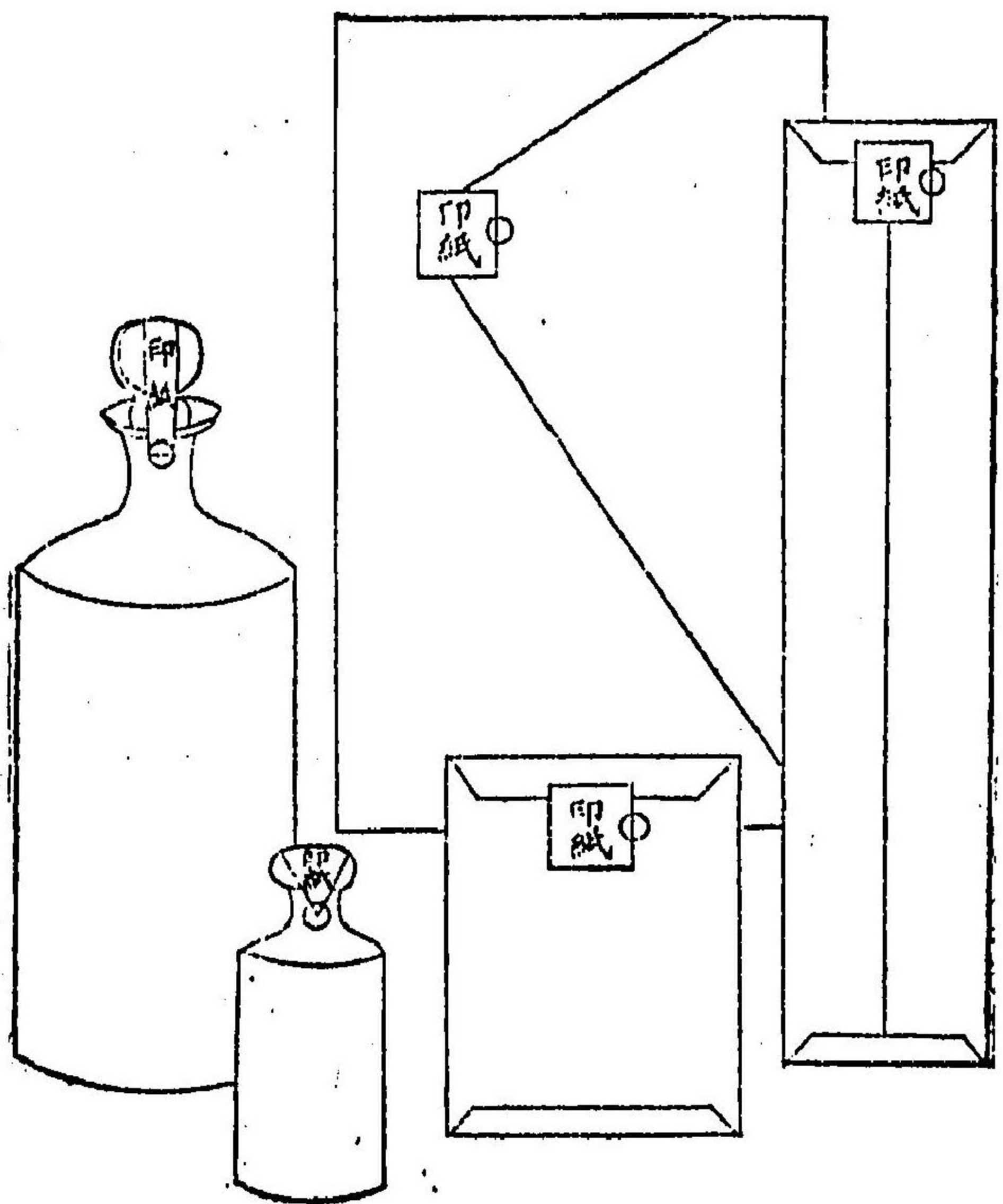
第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

右奉 勅旨布告候事

印紙貼
用紙形



○賣藥印紙交換規則ヲ定ム 十九年七月七日 大蔵省令第二十三號

賣藥印紙交換規則

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄センカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼
印紙額一ト口拾圓以上ハ其額出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ
一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付 交換新印紙八拾錢

第十一類 第二章 賣藥稅

一 貳拾圓以上壹圓ニ付

同 八拾五錢

第二條 賣藥ノ装置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス

第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ任譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ノ所在府縣廳ニ差出シ検査ヲ受ヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ検査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟ノ證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

○租稅官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調處分方(第二章酒造稅則ノ部ニ載ス)

○船稅規則十六年四月十七日 布告第十三號

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出検査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢

査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢

査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳

ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船

百噸ニ付一年金拾五圓

同 風帆船

同 同 金拾圓

日本形積石五拾石以上

百石ニ付同 金貳圓

同 積石五拾石未滿

同 積石五拾石未滿

長自船梁三間迄ハ一年金三拾錢

同 積石五拾石未滿

長自船梁二間迄ハ一年金五拾錢

同 積石五拾石未滿

長自船梁二間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ増加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船並解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届

第十一類 第二章 船稅

出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテリー」船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳

ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地

ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

○船稅取扱心得書 十六年六月六日 大藏省第三拾六號達

本年四月拾三號ヲ以テ船稅規則制定布告相成候ニ付右取扱心得書別紙ノ通相定ム

但船稅規則ニ關スル從前ノ達ハ廢止ス(十七年大藏省達第三十八號)ヲ以テ但書中削除ス

第十一類 第二章 船稅

(別紙)

船稅取扱心得書

第一條 西洋形(蒸氣風帆)船并ニ日本形積石五拾石以上ノ船艦札ハ第一號艦形ノ通日本形積石五拾石未満ノ船并ニ膠源船小廻船遊船ノ艦札ハ第二號艦形ノ通府縣廳ニ於テ調製下付スヘシ

但假艦札ハ離形艦札ノ上ヘ假ノ字ヲ記入スヘシ

第二條 噸數ハ一噸稅石數ハ一石間數ハ一間ニ止メ其以下端數ハ切捨ツヘシ

第三條 規則第七條但書艦札釘付ノ箇所及同第十條免稅印烙記ノ箇所ハ艦外部後面ニ之ヲ爲スヘシ(十七年大藏省第廿號ヲ以テ本條中削除ス加)

但烙印ハ從前離形ノ如ク府縣廳ニ於テ調製スヘシ

第四條 規則第三條ニ據リ檢査ヲ爲シ假艦札ヲ付與シタルトキハ其旨定製場所在ノ管廳ニ通知スヘシ其通知ヲ受ケタル管廳ハ直ニ其地ノ船籍ニ編入シテ該期ノ稅金ヲ收入シ追テ本艦札引換相渡シタル上最前通知ノ管廳ニ報道スヘシ

第五條 船舶發賣讓與其他ニテ定製場ヲ變換シ其新舊定製甲乙兩管廳ニ交洗スルトキハ乙管廳ニ於テ其地ノ船籍ニ編入艦札引換相渡シタル上ハ直ニ甲管廳ニ報道スヘシ

第六條 前二條ノ手續ニ依リ艦札引換ノ節ハ更ニ該船ノ檢査ヲ要セス舊艦札若クハ假艦札ニ記載ノ噸石數又ハ間數等ニ據ルヘシ

但其返納セシ舊艦札假艦札ハ不取締無之檢消却シ最初下付シタル管廳ヘ返戻ニ及ハス

第七條 (二十二年大藏省訓令第五十六號ヲ以テ本條削除)

第八條 西洋形(蒸氣船)ハ港灣湖川等ヲ通用スル小船ト雖モ總テ其噸數ニ依リ膠源船小廻船ハ積石數五拾石以上ト雖モ總テ其間數ニ依リ課稅スルモノトス

第九條 港灣其他ノ海岸又ハ湖川等ニ碇泊又ハ繫キ置ク船舶ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

改正通令
見合

第十條 船稅表免稅船員數表ハ第三號第四號離形ニ依ヒ調製四月三十日限リ該地差立主稅局ヘ送付スヘシ(十八年三月七號同年九月同第六十五號及同年十一月同第七十四號達ヲ以テ本條中及離形ヲ改正ス)(離形略ス)

○船稅徵收手續 大藏省令第三十五號

船稅徵收手續左ノ通相定メ二十四年一月一日ヨリ施行ス

但明治十七年六月當省第三十八號達ハ同日ヨリ廢止ス

一 船籍證書ヲ受有スル船舶ハ其證書記載ノ發賣噸數又ハ積石數ヲ艦札ニ記載シ其噸石數ニ據リ徵稅スヘシ其船籍證書ヲ受有セサルモノハ測度證書ニ據ルヘシ

一 測度ニ據リ在來徵稅ノ噸石數ニ増減ヲ生シタルトキハ其次期ヨリ更正ニ係ル稅金ヲ徵收スヘシ

沿革要領

明治元年八月十九日布告ヲ以テ軍艦ノ外一切ノ商船遊船等ニ課稅シ燒印ヲ押捺シ無印ノ船ハ往來ヲ禁ス○二年十二月民部外務兩省達ヲ以テ西洋形商船日本形商船ノ稅ヲ定ム○三年正月廿七日布告ヲ以テ商船規則ヲ定メ西洋形船百噸ニ付蒸氣ハ一ヶ年金十五兩風帆ハ一ヶ年十兩ノ稅金ヲ納メシム○四年八月五日布告ヲ以テ船稅規則ヲ定ム○六年一月第三十一號布告ヲ以テ僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船等ノ諸稅規則ヲ定ム○七年二月第廿一號布告ヲ以テ膠源船並海川小廻船等ノ稅規則ヲ定ム○八年二月第廿七號布告ヲ以テ僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船等ノ諸稅規則ヲ廢シ遊船稅ハ七年第廿一號布告ニ依ラシム○十一年二月第四號布告ヲ以テ船車賣藥牛馬賣買等ノ稅金納期ヲ定ム○十六年四月第十三號布告ヲ以テ船稅規則ヲ制定シ船稅ニ關スル從前ノ布告布達ヲ廢ス

○車稅規則

八年二月二十日
布告第二十七號

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限リ相廢シ(十六年第卅號布告ヲ以テ船稅規則改正ニ付稅額ノ廉ヲ略ス)車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候

第十一類 第二章 船稅